

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

地域力再発見をめざす大学と地域との連携・協働による実践的研究

報告書第2号

平成23年度研究成果報告書

〈地域研究センター明石グループ〉

神戸学院大学地域研究センター

CENTER FOR AREA RESEARCH AND DEVELOPMENT
KOBE GAKUIN UNIVERSITY

CARD

Akashi

Nagata

Arise

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

地域力再発見をめざす大学と地域との連携・協働による
実践的研究 報告書第2号

平成23年度 研究成果報告書

神戸学院大学地域研究センター

平成24年12月

はじめに

2011年度より発足した、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「地域研究プロジェクト」の一角を構成する、明石グループでは事業名を「『自然と歴史・文化』再発見チームの立ち上げ」とし、以下のよう
に2分野6グループに分かれて活動している。

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見
チームの立ち上げ
 - ① 高人口密度地域における理想的な海岸環境モデルの創出
 - ② 都市郊外地域における環境・社会が有する価値についての研究
 - ③ 越劇の理解と普及を通して新たな地域文化を創出するための研究
 - ④ 明石大蔵町を中心とした地元との共同作業による町の文化資源の再発見と活用、および未来への継承
2. 文化生活の拠点づくり、町づくり再発見チームの立ち上げ
 - ① アートによる地域活性化と魅力創造の実践的研究
 - ② 地域における体力づくりと生涯にわたる健康学習に関する研究

本年度の目標を①地域の「資源」の現状調査、②「資源」を利用した協働を行う連携先の模索と関係の構築、③地域と大学（教員、学生）の協働の試行の3つと定め、各グループにおいて活動を行った。

以下、その活動内容についてグループごとの報告となっている。

目次

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、
伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ
 - ① 高人口密度地域における理想的な海岸環境モデルの創出 9
 - ② 都市郊外地域における環境・社会が有する価値についての研究 33
 - ③ 越劇の理解と普及を通して新たな地域文化を創出するための研究 71
 - ④ 明石大蔵町を中心とした地元との共同作業による町の文化資源の再発見と活用、
および未来への継承 101

2. 文化生活の拠点づくり、町づくり再発見チームの立ち上げ
 - ① アートによる地域活性化と魅力創造の実践的研究 107
 - ② 地域における体力づくりと生涯にわたる健康学習に関する研究 113

1. 各種の市民団体との協働により、
伝統的民俗文化、伝統的地域産業等を
テーマに、地域資源の再発見チームの
立ち上げ

① 高人口密度地域における
理想的な海岸環境モデルの創出

「高人口密度地域における理想的な海岸環境モデルの創出」 2011 年度報告

鹿島基彦、矢嶋 巖、大塚成昭、須磨海浜水族園、NPO 日本ウミガメ協議会

1 章 明石市林崎地区の人工養浜海岸の残留砂の現状調査

鹿島基彦、2011 年度鹿島ゼミ 4 回生（山田卓也、櫻井かおり）

1.1 はじめに

本研究の主な対象地域である明石市周辺の海岸は「東播海岸」と呼ばれる。この神戸市西端から加古郡播磨町に至る延長約 26 km の東播海岸は、昔は白砂青松と呼ばれた美しい海岸であったが、近年は他地域の埋め立てにより海流が変化したことや、河川工事による土砂の流出量の減少などから侵食が進み、典型的な侵食海岸を形成した海岸である（国土交通省、2011/11）。また、この海岸地域は人口密度が比較的高い割に、関西圏では水が綺麗で、沿岸漁業も盛んであり、休日や夏場を中心に多くの海水浴客や釣り客で賑わう（図 1.1）。そんな背景もあり、近年多くの人工砂浜海岸が造成された。しかし、同時に、砂の流出を防ぐためにコンクリートや石による突堤も多数築かれ、決して美しいとは言い難い風景が出来上がってしまった（図 1.1 左、1.2）。さらに、美観の問題に加えて、大蔵海岸での砂浜陥没死亡事故なども起きている（土木学会海岸工学委員会、2002）。

この地域の海岸線整備として、大規模な人工砂浜海岸がはたして適切だったのであろうか。むしろ、特に理由もなく、目的意識・問題意識のないまま漠然と長く長い砂浜海岸のイメージを再現してしまったのではないだろうか。日本の海岸は約 3 万 4 千 km で世界第 2 位の長さがあるが、このうち約 1/3 は人工海岸である（磯部、1994）。これらの多くの人工海岸についても同様のことが心配される。そこで本プロジェクトでは、当該地域を対象に、自然科学、人文科学、社会科学の様々な視点から、人工海岸整備とその後の変遷を調査するこ



図 1.1 (左) 海水浴客で賑わう林崎海岸と人工突堤。手前は 2 番浜（図 2）の東側突堤（2011 年 8 月 14 日）。
(右) 防波堤釣り客で賑わう垂水漁港（2009 年 9 月 6 日）。

とにより、当該地域に大規模な養浜が適していたのかを検証し、さらに、当該地域のような小規模地形かつ高人口密度の他地域の海岸にも適した海岸環境の理想像を提言することを目的としている。

初年度として、人工砂浜海岸の砂の状態を調べた。その経過を以下に報告する。

1.2 林崎周辺の残留砂

東播海岸の大規模養浜は同じ時期に一齐に行われたわけではなく、場所によって養浜時期がそれぞれ異なる。そのため各砂浜の養浜後の期間は異なる。養浜時の砂が同じであったと仮定すると、現在の残留砂を検証することで、養浜後の浜の変遷を確認することができることになる。本年は、明石市の林崎海岸地区を中心とした、明石川と谷八木川の間を調査した。

調査方法としては、突堤間を一つの浜と定義し、その中央付近波打ち際 1 m 付近の砂を採取することで各浜を代表する砂として、砂の粒子サイズの割合を調査した。砂の粒子サイズは、0.29 mm 未満、0.29 mm 以上-0.40 mm 未満、0.40 mm 以上-0.50 mm 未満、0.50 mm 以上-1.00 mm 未満、1.00 mm 以上で分類し、その割合を求めた（亀崎直樹私信）。

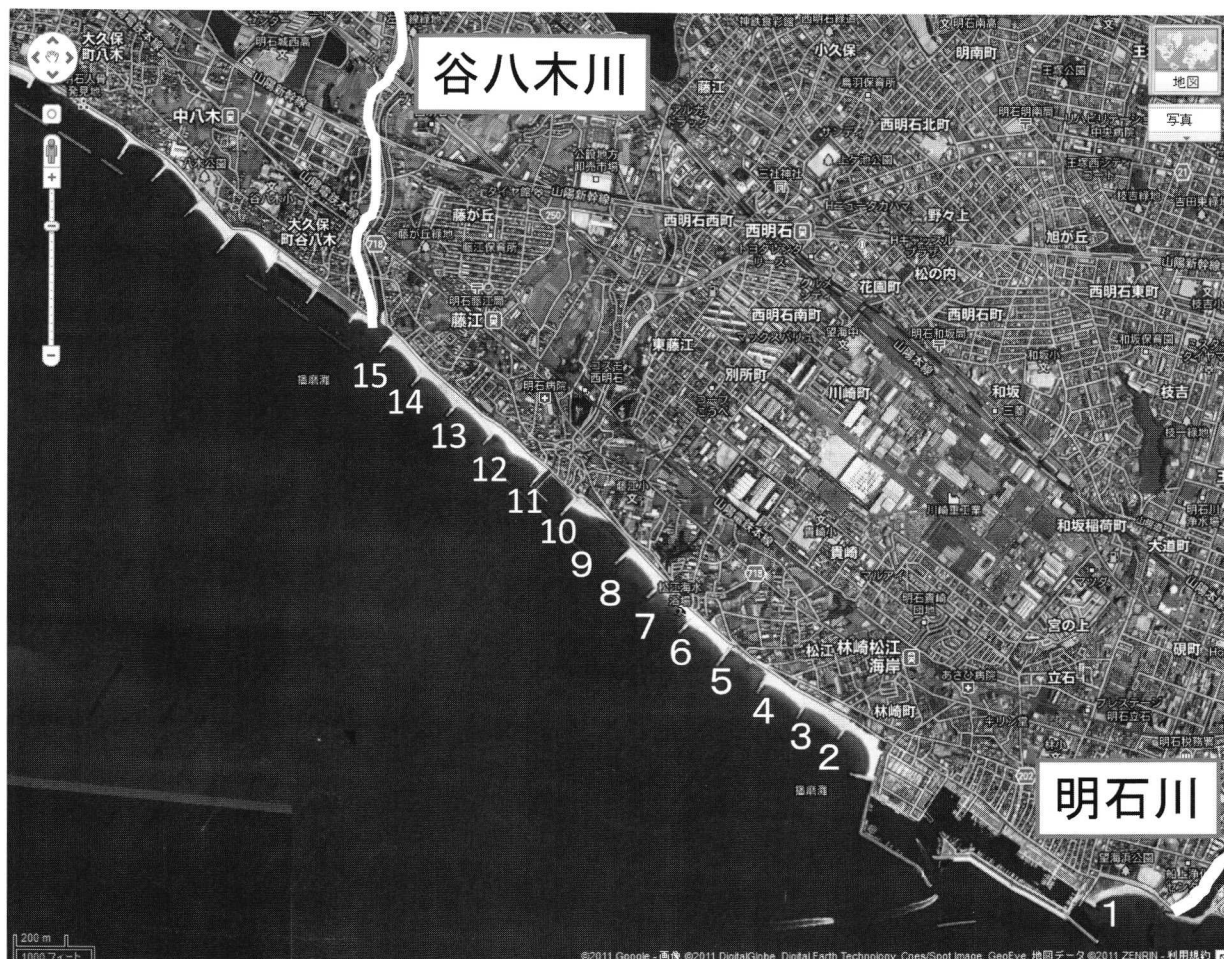


図 1.2 林崎海岸を中心とした明石川と谷八木川（水色線）の間の人工砂浜海岸。明石川側から、1 番-15 番浜（地図：Google マップ、2011）。

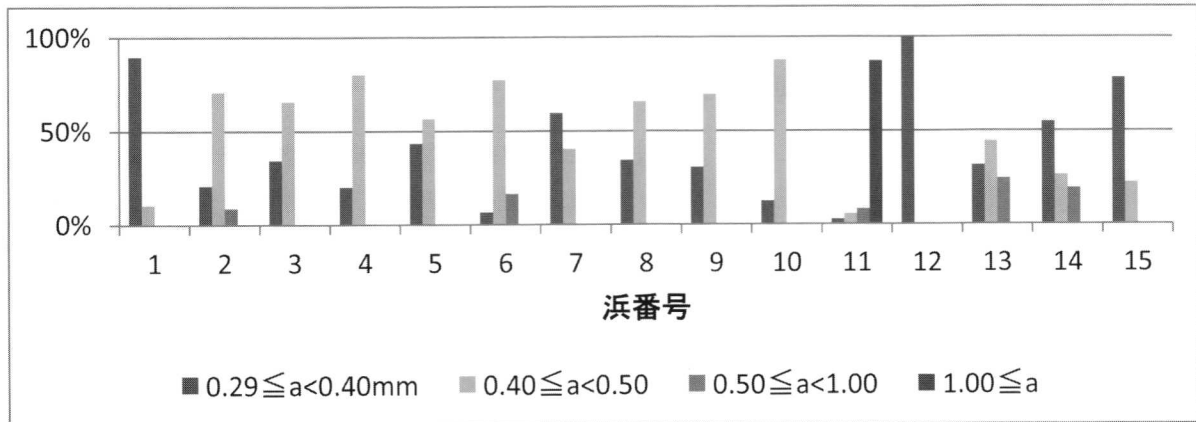


図 1.3 明石川ー谷八木川間の人工砂浜海岸の砂粒子サイズの割合。

1 番浜と 12ー15 番浜に砂が細かい傾向が見られた (図 1.3)。どちらも川に近いために流入砂が多いことが考えられる。さらに、12ー15 番浜は砂の量も多く、養浜時の砂の違いや養浜時期が比較的新しいことが考えられる。11 番浜は礫状の大きな砂が多く占めており、他の浜と状態が大きく異なった (図 1.3)。西側の水路の影響も考えられる。9 番浜は砂が極端に少なかった (図 1.2)。9 番浜と 10 番浜の間の突堤は小さく、実質的に他の 2 倍の突堤間隔の浜になっている。これは突堤間隔が長いほどこの地区では砂が定着しないことを現しており、現在の短い突堤間隔は妥当であったとも考察できる。2ー10 番浜の区間には、4、6 番浜を除くと、連続した傾向が見られ、中央ほど 0.29 mm 以上ー0.40 mm 未満の小さい砂が多く、端ほど 0.40 mm 以上ー0.50 mm 未満の比較的大きい砂が多かった (図 1.3)。

今後の課題

今年度は砂の粒子サイズ調査を一部で行った段階であり、今後は、調査範囲の拡大と養浜時期の情報の入手が必要である。また、予備的に行った海岸沿いの街並の再調査や地域住民の要望等を聞き取り調査する必要がある。さらに、地域の魅力アップのためにも地域の伝統文化行事は重要である。特に、当該地域には岩屋神社の「おしゃたか舟神事」などの海岸地区ならではの伝統文化行事がある。これらの伝統文化と海岸整備の兼ね合いも調査・考察していく予定である。

参考文献

- 国土交通省 (2011/11) : 話そうはりま、<http://www.kkr.mlit.go.jp/himeji/index.php>。
土木学会海岸工学委員会 (2002) : 大蔵海岸陥没事故調査報告書、土木学会、40 頁。
磯部雅彦 (1994) : 海岸の環境創造〜ウォーターフロント学入門〜、朝倉書店、208 頁。

2 章 人工海岸と地域とのよりよい関係の構築を目指して —兵庫県明石市大蔵海岸を事例に—

矢嶋 巖 2011 年度人間環境学演習Ⅱ（矢嶋ゼミ）履修生
泉川辰弥・小野智之・白井貴志・白井貴大・鈴木晨平
坪田康佑・内藤奨太・中村千種・西島佑紀・増田翔太
水野綾菜・森本慎吾・山内翔太・山本 葵

2.1 はしがき

本報告は、神戸学院大学地域研究センターの 2011 年度研究事業である私立大学戦略的研究基盤形成支援事業における明石センターのプロジェクトの一つである、「高人口密度地域における理想的な海岸環境モデルの創出」の一環として行なわれた、2011 年度人間環境学演習 2（3 回生前期矢嶋ゼミ）での研究結果をまとめたものである。なお、この研究は、神戸学院大学地域研究センターの 2010 年度研究事業の一環である「映像による明石の自然・文化再発見のための準備的研究」として行なわれた 2010 年度人間環境学演習 1（2 回生後期矢嶋ゼミ）における大蔵海岸埋め立て問題についての研究結果を踏まえて行なわれた。

2010 年度の研究では、現在の大蔵海岸の景観が国の巨大なプロジェクト事業の結果として生み出されたこと、そしてこの事業をめぐる地域の中で厳しい対立があったことをゼミ生とともに知った。2011 年度前期のゼミでは、すでに存在している大蔵海岸について現実的に考えていくこととし、どうしたらより地域に根付き、生かされる存在となっていくのかについて考えることとした。

現在の地域研究センターのプロジェクト研究では複数のプロジェクトに乗り入れをしているため、本研究は 2011 年度前期を期限とする必要があった。また、ゼミ生の関心の点から、研究の視点を、白砂青松の海岸としての大蔵海岸、大蔵海岸公園の利用、大蔵地区と明石市中心部の小売業の変化、大蔵海岸整備事業地区の大型商業施設という 4 点に絞り、報告としてまとめることとした。研究に当たっては、2010 年度の研究の途中で福原貞子氏より矢嶋が譲渡された反対運動に関係する一連の資料のうち、とくに大蔵海岸整備事業に関する公的機関が作成した資料を活用し、本事業の当初計画における目的について明らかにすることとした。2011 年度の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業では、学生と地域の協働が大きな目的の一つとなっていることから、研究の過程で生じた疑問点について、事業実施者である明石市役所で所管する土木部海岸課にゼミ生が問い合わせをしたり、明石市の小売業について商工会議所の関係者にゼミ生がお話をお聞きし、その結果を報告に反映させることで、曲がりなりにも地域との協働となるように心がけた。

本報告を見直すと、分からないなりに頑張ったゼミ生たちには誠に申し訳ないが、よく研究できたとはお世辞にもいえない。前期のわずか十数回のゼミで、十分な知識も経験もなく、まして大蔵地区の住民でもない 3 回生が、まして力量不十分の教員の指導で、地域にとって役に立つ研究報告を書き上げられるとは到底思えない。ゼミ生たちによって語られた理想について、その根拠は何なのか、現実性はあるのか、住民のみなさんの合意形成ができるのかなどと、冷静に問われれば、教員自ら押し黙らざるを得ない。

だが、ゼミ生は「学生」である。この地域研究センターにおける研究プロジェクトは、「研究」の場であるとともに、「教育」の場とも位置づけられている。いずれ自分の研究課題を見つけて卒業論文を書き、大学を卒業して社会に出ていかなければならない学生たちである。市役所や商工会議所に所属する企業人といった、「社会」の人々にお話を聞き、地域の実情について学ぶ機会とさせて頂きたかったというのが、指導教員としての本音である。

よって、本研究が大学と地域との協働に基づくとはいえ、教育の結果として位置付けられることが許されるならば、恐らくは本報告書の別頁として掲載されているであろう、加古川市の都市近郊農村における研究報告をご参照頂きたい。学生たちの地域への視点がより鋭いものとなり、現実感覚が増していると思う。このことが、教育プログラムとしての側面を持つ本研究プロジェクトの最も重要な成果であるといえる。

つくづく幸いに思うことは、取りかかりとして、埋め立てによる大蔵海岸整備事業とその反対運動について学ぶ機会を得たことである。大蔵地区のみなさんの中には、耳を塞ぎたい歴史とお感じになる方もおられるかもしれない。しかし、埋め立てられて整備された海岸は、昔からの大蔵地区の南側にいままさに存在し、将来も存在し続けることだろう。いつになるかはわからないが、大蔵地区のみなさんの子孫となる方々が、海岸整備の歴史を振り返る時がきっと来ると思う。2010年度2回生後期矢嶋ゼミでおこなった聞き取り調査を受けて、3回生前期におこなわれた研究をまとめた本報告は、上記の研究のための糸口の役割を果たすことができると信じる。

そして、矢嶋ゼミでは、現在も引き続いて、大蔵地区のみなさんにさまざまなご協力を頂きつつ、大蔵地区で勉強をさせて頂いている。大蔵地区の人たちが歴史の中で築いてきた、自治組織、祭礼組織などが、将来にわたって続いていくことを心より願う次第である。

本研究においてお世話になった大蔵地区の住民の皆様、明石市土木部海岸課の皆様、明石商工会議所議員で株式会社吉川工務店代表取締役の吉川悟様に、心より感謝申し上げます。

なお、本報告の校正作業において、中村千種君が大きな役割を果たしたことを記しておく。

(矢嶋 巖)

2.2 白砂青松の歴史と大蔵海岸の理想像

白井貴大・鈴木晨平・西島佑紀・森本慎吾

1. はじめに

大蔵海岸は、かつては風光明媚な白砂青松の海岸だったが、昔からの海岸浸食が進んできた上に、埋め立て事業などにより白砂青松の海岸はなくなり、さらに1997年には人工海岸が作られた。しかし、白砂青松の海岸を復活させてリゾート地として明石を活性化させるという計画段階の目的を十分に達成していないのではないかとと思われる。その目的も本当に正しいのかはわからない。そこで、人工海岸の大蔵海岸が作られた目的について触れたのち、白砂青松の海岸に対する日本人の意識の変化について述べる。それらを踏まえて、今後大蔵海岸はどの方向へ進んでいけばよいのかを検討する。

2. 大蔵海岸埋め立て工事が行われた目的

大蔵海岸はかつて白砂青松の海岸だった。ところが、現在国道28号沿いに直立護岸が続き、その前面に消波ブロックが並べられたことで、白砂青松の海岸はなくなり、さらに海に近づけない状態になった。しかし、大蔵海岸は、瀬戸内海国立公園として淡路島や海峡の良好な景観を持つことに加え、世界最長の吊り橋である明石海峡大橋を一望できる絶好の位置にある。そこで、この優れた立地条件を生かし、地域環境の向上や地域の活性化につながる海岸の整備、活用が期待され、1992年から1997年にかけて大蔵海岸の埋め立て工事が行われた。この埋め立ては、浸食や災害から地域を守るという海岸保全機能のより一層の充実に加えて、この海岸を昔のような松並木と砂浜が広がる海浜へと復元し、市民にコミュニティ活動の場を提供するとともに、明石海峡大橋の雄大な人工美と海峡の自然美が調和する緑豊かな海浜レクリエーションゾーンとして総合的整備を行うことを目的としていた(明石市2004)。

3. 白砂青松の海岸に対する日本人の意識の変化

日本人には万葉の時代から海岸の松に特定の思いがあったとされる。さらに江戸時代後期には自然景観を素直にの自然に捉えられるようになり、瀬戸内海の松原や白砂が従来にも増して賞賛を受けるようになった。しかし、明治時代になると、日本人は欧米からもたらされた近代的風景観を受容し、特定の地名が重要な伝統的風景観より、新たな自然景や人文景という無名の景観そのものが重要な近代的風景を見出していくようになった。さらに 1927 (昭和 2) 年の『日本八景』が新時代を代表する自然景観として、山岳・渓谷・瀑布・河川・湖沼・平原・海岸・温泉の 8 景観に分類を立て、従来の景観とは異なる新しい自然景観を見出そうとした結果、山岳景観に大きくシフトし、海岸景の注目度は低迷していった。また、日本最初の国立公園の選定では海洋景観よりも山岳景観が重視された。具体的には、海洋の国立公園は瀬戸内海が唯一であり、他には吉野熊野国立公園の一部に海岸を含むだけであった。このように海洋景観よりも山岳景観が重視された理由は、海岸景への注目度の低迷のほか、海岸は中遠景からみると自然海岸か人工海岸かの区別がつかないこともあったためであるとされる。さらに、白砂青松は国立公園指定の区域指定にはそれほど反映されていなかったという点も理由とされる。このように、近代以降の白砂青松に対する日本人の意識は低下傾向にあったといえる。

4. 大蔵海岸における現状

しかし、近年、その様相が変化してきている。具体的には、1987 年 1 月 10 日、日本の代表的な風景を 21 世紀に引き継ごうと、日本の松の緑を守る会（稲山嘉寛会長）が「白砂青松 100 選」を選定した（朝日新聞社 1987 年 1 月 11 日朝刊記事）。それ以外にも「渚 100 選」、「海岸 100 選」、「夕日 100 選」、「快水浴場 100 選」など様々な海岸に関するジャンルの 100 選がある。選定された海岸には、自然の海岸が多いものの、わずかながら人工海岸も選ばれている。また、1987 年に福岡市では博多湾沿岸に松を植え、滅びゆく松原を守り育てるという運動が起きた（朝日新聞社 1987 年 7 月 4 日夕刊記事）。このような運動が近年全国的に行われ、再び白砂青松に対する意識が上昇しつつある。しかし、西田（2001）は次のように分析している。昭和 40 年代以降の松枯れ病の猛威による松林の衰退や、人工海岸化により、海岸景観が消失されるようになった。それに対して海岸景への注目度を回復させるために、1980 年代以降、名松・渚・白砂青松の百選の選定が行われたが、これらの選定箇所は人々の注目を集めず、あまり効果がなかったとしている。

明石市が打ち出した大蔵海岸の整備計画は、1991 年秋に「白砂青松の復活」「大橋の雄大な人工美と海峡の自然美の調和」をうたっていた。埋め立て工事は 1993 年に始まり、1998 年に海水浴場が開場した。この埋め立て計画に対し、古くからの住民が多い地元の八町で組織する「大蔵町連合町内会」からは、「昔のような砂浜が戻ってくるのは防災面からも喜ばしいこと。景観が変化しても大半の住民は『時の流れ』だと納得している」という歓迎のコメントも出ていたという。2001 年 6 月 3 日には、クロマツの植樹が大蔵海岸で実地された。これには、一般から植樹希望者を募り、大蔵海岸の 3 ヲ所に潮風に強いクロマツの若木が植えられた。当時樹木が少なかった広場を、クロマツが成木になる 10 年後には白砂青松の地にするという狙いがあったとされる（朝日新聞社 1995 年 6 月 24 日朝刊記事、朝日新聞社 1996 年 11 月 27 日朝刊記事、神戸新聞 2001 年 4 月 27 日朝刊記事による）。だが、予定の 10 年が経過した今でも、松はまだ成長過程のままであり、まだまだ樹木自体も細いと感じられた。明石市都市整備部緑化公園課担当者への電話での聞き取りによれば、市民から植樹してもらった松をむやみに切る事ができず、松の成長を促すための間伐も行えない状態であり、現状維持というのが市の当面の方針であるという。

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

5. 大蔵海岸の理想像を考える

今後も大蔵海岸を活用し、利用者の増加を図ろうとするのであれば、これまで以上に催し物などを増やし、今後公園内の設備として必要なものを取り入れていく必要があるのではないだろうか。理想としては、地元住民も安心して使える公園であり、明石でも有名な観光スポットとなるように努めていかなければならない。そして、それは大蔵海岸埋め立て着工時の目標でもあったはずだ。

そこで、大蔵海岸の工事の際に住民が望んでいた、白砂青松の景観を残した海岸づくりということが、この海岸の理想像としてのキーワードとなってくる。

現在大蔵海岸は東西二つのエリアに分けられ、西部の海岸公園と東部の海水浴場の約 1.5 km に渡って海岸が広がっている。遊具がそろった「子ども広場」は東部海水浴場横に設置されている（図 1 参照）。この東部海水浴場と西部海岸公園を行き来する場合、子供連れの利用者や公共交通機関の利用者にとって、移動が容易ではない。そのため、海水浴場と海岸公園を結ぶ両エリアを、利用者が多い時期だけでもシャトルバスを運行し、両エリアの行き来をスムーズにすることができれば、広大なスペースを有効に活用して様々な催し物の開催などにも役立てられるのではないかと考えられる。

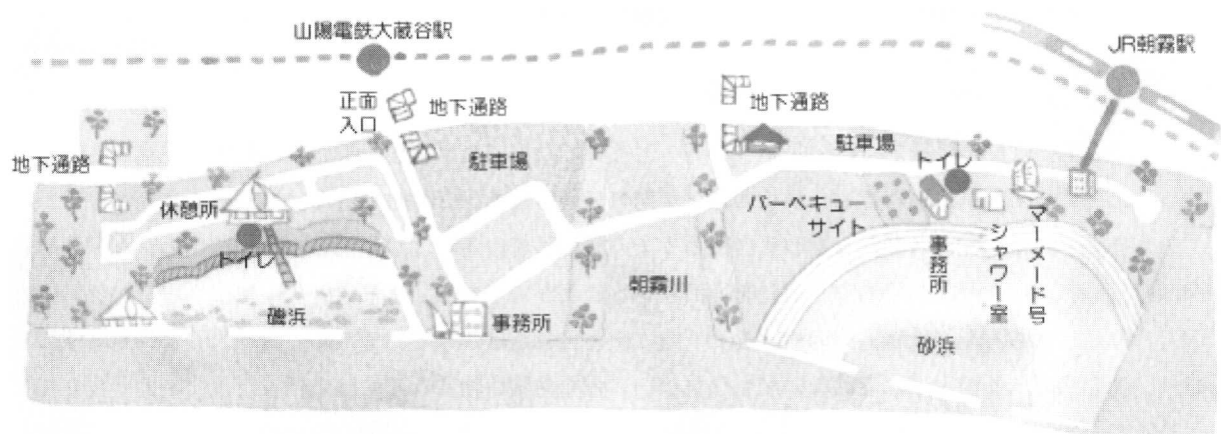


図 1 大蔵海岸と海水浴場全体図

出典 あかし子育て応援ナビ「大蔵海岸子ども広場」

大蔵海岸には、風光明媚な松林の近くを通る散歩道が設置されている。また、公園利用客のペットに対するマナーを向上させるために、マナーの良い犬をマナードッグに認定する取り組みが行われている。そこで、散歩道として作られたこの公園の構造を生かし、人の散歩道としてだけではなく、犬の散歩道という意味も含ま

せてドッグランを整備することで、ペットを飼っている来園者も楽しめる海岸というテーマを持たせるのも一案である。犬のマナーに対して関心のある海岸であることから、マナードッグを海岸利用者の見本とするだけでなく、犬が主役のイベントを考えていくといったことで先進的な取り組みをしていくことも期待できないだろうか。

また、年齢層を絞って、イベントを企画することも必要だろう。明石市のホームページによれば、明石駅前広場では JR・山陽電車明石駅すぐのところ、明石の商業の活性化と観光客誘致、また市民に楽しんでもらうことを目的として、2011 年度からイルミネーションが開催されている。「冬の風物詩として広く親しまれ、明石のまちを口



写真 1 明石駅前イルミネーションの様子

出典 明石市観光協会ホームページ

マンチックに彩っている」と明石市観光協会ホームページには紹介されていて、期待されていることがわかる(写真 1 参照)。

さらに、このような取り組みの一環として、大蔵海岸全体のライトアップとイルミネーションを、季節毎に特定の年齢層に絞って、明石海峡大橋のライトアップとともに取り組むということ、一つの催し物として行えないだろうか。実際に、大蔵海岸の海水浴場スペースに設けられている子ども広場一帯では、約 3 万個の発光ダイオード(LED)で照らすイルミネーションが 2009 年 11 月～2010 年 2 月まで行われていた。大蔵海岸公園の一部のスポットも、夜になるとライトアップされている。現在のライトアップを両エリアで統一性を持たせ、季節限定のイルミネーションを取り込むことで、観光資源になると考えられる。

さらに、地域のお祭りの際に、御神輿を担いで回るコースに海岸公園を加えることで、海岸公園ごとお祭りムードに引き込むことも可能ではないのかと考えられる¹⁾。その際、出店や屋台などを海岸公園で行うことができれば、来場可能な人数も増加させることができ、同時に大蔵海岸の集客にもつながることが期待される。白砂青松の景観を残した海岸でお祭りを行うことにより、地元住民にもその景観を楽しみ、懐かしんでもらいたい。

以上のように、大蔵海岸の活用と利用者の増加のためには、白砂青松のみを海岸の景観と考えるのではなく、大蔵海岸の立地を活かし、ここでしかできない取り組みを強く関連付けて行うべきであると考えられる。

6. まとめ

「快水浴場 100 選」を見ると、自然の海岸が多く選ばれている。だが、数少ないながらも人工海岸も選ばれている。たとえ人工海岸だとしても、多くの人々が訪れている場所は存在している。こうした人工海岸に共通していえる点として、元から存在している自然とうまく調和していることが挙げられる。そこで、大蔵海岸にも白砂青松が昔からあったのであり、それを復活させることができれば、よりよい公園に生まれ変わるのではないだろうか。もちろん、大蔵海岸の松は 2001 年に植えられたばかりであるため、幹の力強さや木の成長具合では、他の松のある海岸には及ばないかもしれない。強く力強い松になるにはまだまだ長い時間が必要だろう。そこで、現在の松をみて成長していく人と同じように松の成長を見届けられる公園として、大蔵海岸において白砂青松の整備と維持を行っていくのはどうだろうか。このように白砂青松の景観を残しつつ、10 年後、20 年後に作ってよかったと思えるような、地域に根付く公園づくりを行っていくことが、地元住民に望まれることではないだろうか。ただし、松の成長をただ見届けるだけではいけない。松の成長を待つ間もできることはあるはずである。それこそが第 5 節で述べた様々な取り組みであり、今こそ実施しなければならぬことである。そうすることにより、「理想像」に近づくことができるのではないだろうか。

〈注〉

1) 筆者の一人である森本は、神戸学院大学チームとして、2010 年稲爪神社秋祭りの御神輿に参加した。

〈参考文献・ホームページ〉

大蔵海岸砂浜陥没事故報告書

http://www.city.akashi.hyogo.jp/soumu/bousai_ka/h_safety/documents/0403saisyu.pdf

西田正憲(2001)「瀬戸内海における海岸景の変遷」ランドスケープ研究 64(5), pp.479-484

あかし子育て応援ナビ 大蔵海岸子ども広場のページ

http://www.city.akashi.hyogo.jp/fukushi/kodomo_shitsu/kosodate_navi/jyoho_map/park/okura.html

(2011 年 7 月 23 日閲覧)

明石市観光協会 年間行事イベントガイドのページ

<http://www.yokoso-akashi.jp/main-event.htm> (2011年7月23日閲覧)

神戸新聞記者クラブ 2009年11月21日掲載記事

<http://club.kobe-np.co.jp/mint/multimedia/odekake/chotto-odekake/0002530656.html>

(2011年7月23日閲覧)

2.3 大蔵海岸利用の実態と課題 —大蔵海岸整備計画を踏まえて—

泉川晟弥・小野智之・増田翔太・水野綾菜

1. はじめに

明石市の大蔵海岸は、1992年からの大蔵海岸整備事業の一環として作られた。しかし、明石市が発行したパンフレットである「大蔵海岸整備事業計画と環境影響評価のあらまし」と現在の大蔵海岸を見比べると、当初計画していたように整備されていないように感じられる。そこで、本班では大蔵海岸利用の実態に迫り、今後のあり方について考えていきたい。

研究方法としては、1991年に明石市が発行した「大蔵海岸整備事業計画と環境影響評価のあらまし」というパンフレットに基づいて、大蔵海岸整備のあり方について検討を行い、そこで生じた疑問点について、明石市土木部海岸課の担当者にメールでの聞き取り調査を実施した。

2. 大蔵海岸における海岸整備の概要

大蔵海岸の整備全般に関して記されている「大蔵海岸整備事業計画と環境影響評価のあらまし」についての検討を行ったうえで、2011年6月23日に明石市土木部海岸課の担当者に対して海岸整備という点についての質問をメールで送り、回答を得た¹⁾。それらから次の事が明らかになった。

まず、大蔵海岸という場所を選び、整備した理由として、1987(昭和62)年に建設省(現・国土交通省)により制定されたCCZ(コースタルコミュニティゾーン)整備計画に基づいた防災目的である、海岸保全機能の充実があった。そして、中崎海岸にかつてあった白砂青松の風景を復活させるという、自然環境を意識した整備目的があった。そのうえ、海岸とこのような自然を生かした都市との融合を目指すとともに、明石のまちをアピールしようとしていた。また、大蔵海岸を整備することによるメリットには、観光資源の創出により経済の活性化を目指すということもあった。

今後大蔵海岸にをどのように利用していきたいかについては、利用者の利便性と安全性を両立させた施設などの増設を実施する方向で進めているとのことである。しかし、そういった計画が、どこまで、どのように進んでいるのかについては、現時点では分かっていない。

また、海水浴場などの観光資源を作ったものの、大蔵海岸で行われるイベントなどの情報が一般市民になかなか届きにくいと、観光資源としてあまり有効には利用されていないように思えた。CCZに基づいた防災拠点としてのメリットは、高波や高潮、浸水被害から地域を守ることであり、飲料用貯水槽や備蓄倉庫などが設置されていることから、この防災拠点としての役割に関しては十分に果たしている可能性があるように思えるが、確認が必要である。

3. 来園者アンケートについて

次に、明石市土木部海岸課にメールで質問をした際に、明石市が大蔵海岸の利用状況を把握するために行っている来園者アンケートのデータを得ることができたので、これに基づいて検討を行う。

表 1 2010 年度大蔵海岸来園者アンケート

		5/3(月) (112名)	8/8(水) (128名)	10/24(日) (125名)	3/19(土) (112名)	計 (477名)	
男女比	男	52	55	62	49	218	45.7%
	女	60	73	63	63	259	54.3%
年齢構成	20歳未満	6	4	4	12	26	5.5%
	20歳代	9	23	13	5	50	10.5%
	30歳代	25	51	34	29	139	29.1%
	40歳代	19	37	24	16	96	20.1%
	50歳代	16	6	15	17	54	11.3%
	60歳代	21	7	22	21	71	14.9%
	70歳以上	14	-	13	12	39	8.2%
	無回答	2	-	-	-	2	0.4%
各種催物	多い	14	21	24	29	88	18.4%
	少ない	4	8	8	18	38	8.0%
	普通	53	41	55	37	186	39.0%
	無回答	41	58	38	28	165	34.6%
海水浴場 開設	知っていた	83	80	98	91	352	73.8%
	知らなかった	25	39	20	13	97	20.3%
	無回答	4	9	7	8	28	5.9%
園内環境	快適	81	78	88	87	334	70.0%
	不快	30	2	3	1	36	7.5%
	普通	1	44	33	20	98	20.5%
	無回答	-	4	1	4	9	1.9%
全体的 満足度	満足	79	90	91	90	350	73.4%
	不満足	-	1	2	1	4	0.8%
	普通	32	33	31	18	114	23.9%
	無回答	1	4	1	3	9	1.9%

注1)9時から17時の間、2名が公園内東地区及び西地区を巡回し、公園利用者に対し実施。

出典：明石市役所土木部海岸課内部資料による。

表 1 に示した、2010 年度の来園者アンケートから、以下のことが読み取れる。まず、8 月のアンケートについては、全回答者のうち 40 歳代までの年齢層が多くを占めている。これについては、夏休みの時期と重なっているため、家族連れのレジャーの可能性があると推測される。

また、各種催物の実施回数についての質問では、無回答や普通といった回答が多いことから、利用している人はあまり大蔵海岸に興味を持っていないのではないかとと思われるとともに、そもそも催物を行っていることを知らない可能性がある。これに関して言えば、来園者が多い時期にあまり催物が行われていない可能性が考えられる。これらのことにより、大蔵海岸が、まだ十分に活用されていないと考えられる。実際、海岸部分を利用するしかないため、催物の種類が限定されるかもしれないが、夏季に「ビーチ○○」などの競技種目の催物をするなどすれば、来園者が増加するのではないだろうか。実際に、ビーチバレーの大会が行われているという情報を入手しているが、他にも海岸を利用した大会を実施して盛り上げてもいいのではないだろうか。

ただし、表 1 の来園者アンケートを実施している時間帯は、9時から17時までである。バーベキューサイトの利用時間が21時までであることから、この時間帯の調査では大蔵海岸の利用者の実態は正確に把握されているとは思えない。また、夜間のこの公園は明石海峡大橋などを望むビューポイントであるため、その時間にアンケートを行う意味は十分にある。筆者が2011年7月22日の夜間に視察した際は、多数の来園者が見られた。このことから、来園者アンケートの実施の時間帯などについては、改善の必要性があると思われる。

4. おわりに

以上から、現在の大蔵海岸の利用にはいくつかの課題があると考えられる。

1点目は、大蔵海岸で行われる行事が十分に知れわたっていない可能性があることである。

2点目は、明石海峡を望むビューポイントであるというメリットを十分に生かしきれていないのではないかとこの点である。2点目については、明石海峡大橋がライトアップされていることから、夜間にこの場所を訪れる人もいると考えられる。そこで、何か季節のイベントがあるごとに夜間にも催物を行ったりするとよいのではないかと考える。その際に、地域とつながりの深い催物をするなどして、その地域の人が親しみやすい海岸を作っていく、まずは近隣の地域住民から大蔵海岸を根付かせることが重要である。そのうえで、少し離れたところからでも来てもらえるような行事を行っていくことにより、多くの人に広く知られるような海岸を作っていくべきではないかと考える。

このように、今後大蔵海岸をよりよく利用していく方法は、まだまだあると思われる。しかし、これには数多くの人の知恵や努力が必要になるだろう。

〈注〉

2011年6月23日に明石市土木部海岸課の担当者に対して送った大蔵海岸の整備についての質問と回答を記載する。

Q：海岸を整備した理由は、海岸保全機能のより一層の充実、地域環境の向上、地域の活性化とあったが、この他にもあったのか。

A：全国CCZ（コースタルコミュニティゾーン）整備計画に基づき整備している。明石市の整備目的として、指摘以外には、海のまち明石をPRするとともに、自然と都市との融合、明石市の経済の活性化もあった。

Q：大蔵海岸の場所を選んだ理由は、明石海峡大橋を含めて景色が良いという点や、交通の便が良いという点以外にあったのか。

A：指摘以外に、浸食前の白砂青松があった中崎海岸の復元という理由もあった。

Q：記載されている完成イメージ図のように当初計画されていたイメージ通りにこの整備は完成したのか。

A：整備に関しては、ほぼ計画したとおり。

Q：大蔵海岸公園を整備したことで、明石市と明石市民にそれぞれどのようなメリットがあると見込んでいたのか。

A：明石市には、観光資源の創出による地域経済の発展、市民には明石海峡大橋を望める大蔵海岸において海浜レクリエーションや自然に親しんでもらえるというメリットが期待されていた。また、耐震性飲料用貯水槽や備蓄倉庫などを整備し、市民を守る地域防災拠点としての機能も有している。

Q：現在、どれくらいの方が大蔵海岸を利用しているのか。統計があるならば、性別・年齢別・時間帯別を把握しているか。

A：別紙の来場者アンケートのとおり。

- Q：これから大蔵海岸公園をどのように利用したいと考えているのか。また、具体的に何か計画はあるか。
- A：明石市では、海岸の利用の活性化が今後の大きな課題であると考えている。特に、交通アクセス、ロケーション等に恵まれた大蔵海岸では、明石の観光スポットの一つとして、オールシーズン楽しめる公園にしていきたいと考えている。今後は、バーベキューサイトのテント増設、販売棟の増築、救護所の拡充、海水浴場管理事務所の増築などを実施し、利用者の利便性と安全性を両立させ、大蔵海岸公園の活性化に向けて力を注いでいく。

2.4 明石市中心部における小売業の移り変わり

坪田康佑・中村千種・山本 葵

1. はじめに

大蔵地区は古くから宿場町として栄えていた土地である。江戸時代中期には本陣を中心に旅籠、下宿、茶屋などが立ち並んでにぎわっていた。明治に入り宿駅や本陣が廃止されてもしばらくは繁栄が続いたが、1888（明治 21）年に山陽鉄道が開通すると人足は次第に遠のき、街道はさびれていった（明石文化財調査団編：1997, pp.65-66）。また大蔵瓦が有名であり、明石の瓦産業の本場であった。明治のころは海岸もきれいであり、春はイカナゴ、秋はイワシといったように漁業も盛んであった（神戸新聞明石総局編：1979）。今回、我々が明石市中心部の小売業の移り変わりについて調査するきっかけとなったのは、2010年12月12日に行われた人間環境学演習Ⅰのフィールドワークで、2度大蔵地区を歩いたことである。フィールドワークを行い、実際に市場の衰退や個人商店の跡地を目の当たりにした。さらには、大蔵地区に住む住民の方々に対する聞き取り調査を実施し、大蔵地区が抱える高齢者の買い物過疎問題の現状を知った。そこで、明石駅周辺の小売業の発展によって、大蔵地区の小売業がどのような影響を受け、住民たちの買い物環境がいかに変わり、とくに高齢者が影響を受けるようになったのかを検討することにした。それにより、高齢者の買い物問題についての解決のきっかけにつなげていくことが、本研究の目的である。

研究方法は、明石商工会議所議員であり明石の小売業について詳しい吉川悟氏（明石に本社がある㈱吉川工務店代表取締役）に対する聞き取り調査（2011年6月29日、2011年7月25日）、元神戸新聞記者で明石の小売業や大蔵海岸の開発について詳しい松本誠氏に対する聞き取り調査（2010年12月12日）、明石市史や住宅地図、神戸新聞記事に基づく文献研究である。

2. 大蔵地区および明石市全体の老年人口の推移

表 2・3 からわかるように、大蔵地区の老年人口は 2000 年 4 月の時点で全体の 18.6% であり、明石市全体が 14.2% であったことから、大蔵地区は明石市の中では高齢化が進んでいる地域であったといえる。また、2011 年 4 月の時点で大蔵地区の老年人口は 24.2% であり、明石市全体が 21.1% であったことから、さらに高齢化が進んでいることがわかる。2000 年 4 月から 2011 年 4 月において、大蔵地区に比べて明石市全体のほうが老年人口率の上昇は大きい、明石市全体に比べて大蔵地区の老年人口の割合は依然高いままである。

3. 第二次世界大戦後の小売業の変化

明石・大蔵地区における小売業は、第二次世界大戦後に行われていた闇市から始まったとされる。当時は、ものがないうえに、ものを自由に売買してはならず、闇取引の品物を売る店が集まってできた闇市が盛んであった。その後、闇市から公設市場へと変わり、自由に買い物ができるようになったという。

明石に初めてできたスーパーマーケットは、共同経営者でつくられた丸一（東仲ノ町）で、その後経営がうまくいかず閉店し、同じ場所に井上洋装店が母体となった食料品のみを扱うスーパーイノウエができた。スーパーイノウエの開店で、同地区にあった個人商店での食料品の売り上げが減少したという。その他にも、明石市内各地に一つ一つの商店が少しずつ集合した総合市場ができた。それは、魚屋、八百屋、精肉店などが合体したものであり、現在も明石市朝霧町3丁目にある朝霧マーケットなどに、当時の形が残っているという（明石市史編さん委員会編：1999、p.669；吉川氏からの聞き取りによる）。

4. 1960年代頃の大型店舗の出現

吉川氏からの聞き取りによると、1966年頃、明石駅南東方向の桜町にスーパーマーケットチェーンのフタギ¹⁾明石店ができた。これは、1967年1月発行の住宅地図にも記載されている。ここでは食料品のほかに、衣料品も扱っていたという。フタギが登場すると、食料品しか扱っていなかったスーパーイノウエは閉店した。1966年に明石駅南側国道沿いにおいてダイエーができたのはその後だという（吉川氏からの聞き取りによる）。ダイエーでは、食料品、日用雑貨、化粧品、紳士・子供用品、寝具、電化製品などを扱っていた（明石市史編さん委員会編：1999、p.677）。同じ頃、フタギは大明石町1丁目に新店舗を設けた²⁾。また、1975年頃から明石駅周辺にマンションが建設され、新住民が移り住み人口も増えた。この頃、仕事帰りに駅前で買い物をするという行動が浸透していったという（吉川氏からの聞き取りによる）。

5. 1985年以降の小売業の変化

1985年頃には、明石の周辺部において大型店出店競争が起きていた。これにより明石の既存の商店や市場には衰退したものもあるとされており（神戸新聞1985年3月26日）、大蔵地区においても影響が及んだものと考えられる。明石駅前においてもアスピア明石（2001年11月オープン）という商業施設の建設が決まり、テナントとして大丸百貨店が入る予定だったが撤退した（吉川氏からの聞き取りによる）。その代わりとして、スーパーマルハチが地階フードフロアのキーテナントとして誘致された（スーパーマルハチホームページ内の会社概要による）。以上のような小売業の変化により、大蔵地区の住民の食料品や生活必需品の購入先が、明石駅の周辺や郊外の大型スーパーに移っていったと考えられる。こうした状況でも、大蔵地区の一部の商店や市場は、移動が困難な高齢者にとっては重要な買い物の場としての役割があったため、営業を続けていたという。

大蔵地区における小売店が衰退していく決定打となったのが、1995年の阪神淡路大震災である（松本氏からの聞き取りによる）。また、宅配サービスの利用や施設での食事といった理由により自宅での消費が減少したことも、個人商店が衰退した原因となった（吉川氏からの聞き取りによる）。小売店の衰退で、明石駅から離れたところにある大蔵地区に住む高齢者は、明石駅周辺や郊外のスーパーへ買い物に行かざるをえなくなったとみられる。

しかし、大蔵地区に住む高齢者にとっては、移動手段が限られているという問題がある。というのも、もともと大蔵地区は漁師まちで民家が密集しており、道が狭い土地であるために、古くから住む人には車をもたない人も多いという。また、高齢者であるため駅前や郊外まで歩くことも困難であり、大蔵地区にも明石市のたこバスや加古川市のかこバス³⁾のようなコミュニティバスがあれば便利だが、これらについても本数が少ないなどの問題があるため難しいという（吉川氏からの聞き取りによる）。

6. おわりに

以上の検討結果から見てきたことは、スーパーマーケットの進出による影響を受けて、大蔵地区を含む明石市中心部の小売店が減少していったことの持つ意味である。それにより、移動手段が限られている高齢者は買い物をする場所がなくなっていった。こうした問題は全国各地で起きていることが指摘されているが（「コトバンク」より）、神戸市の衛星都市である明石市の中心部においても同様に起きているということが本研究からわかった。

今後大蔵地区を事例とした小売業の変化について明らかにし、本章で挙げた問題の当事者である高齢者を中心とした住民に聞き取り調査をおこなっていくことにより、明石市の中心部や大蔵地区における買い物事情の問題点と今後の解決策について考えていく必要があるだろう。

表 2 大蔵地区における年齢 3 区分別人口と割合の変化（単位：人）

大蔵地区 年度別人口	年少人口 0～14歳	生産年齢 人口 15～64歳	老年人口 65歳以上	構 成 比 (%)			人口総数
				年少人口	生産年齢 人口	老年人口	
2000年4月	2,767	12,909	3,590	14.4	67.0	18.6	19,266
2001年4月	2,719	12,794	3,693	14.2	66.6	19.2	19,206
2002年4月	2,674	12,621	3,791	14.0	66.1	19.9	19,086
2003年4月	2,633	12,484	3,870	13.9	65.8	20.4	18,987
2004年4月	2,617	12,361	3,903	13.9	65.5	20.7	18,881
2005年4月	2,599	12,271	3,972	13.8	65.1	21.1	18,842
2006年4月	2,554	11,967	4,040	13.8	64.5	21.8	18,561
2007年4月	2,509	11,667	4,166	13.7	63.6	22.7	18,342
2008年4月	2,466	11,543	4,261	13.5	63.2	23.3	18,270
2009年4月	2,437	11,490	4,369	13.3	62.8	23.9	18,296
2010年4月	2,399	11,406	4,411	13.2	62.6	24.2	18,216
2011年4月	2,377	11,397	4,406	13.1	62.7	24.2	18,180

コミュニティ地区別年齢 3 区分人口を示す。
明石市役所ホームページ 統計情報による（人口と統計）。

表 3 明石市における年齢 3 区分別人口と割合の変化（単位：人）

明石市 年度別人口	年少人口 0～14歳	生産年齢 人口 15～64歳	老年人口 65歳以上	構 成 比 (%)			人口総数
				年少人口	生産年齢 人口	老年人口	
2000年4月	46,397	204,066	41,487	15.9	69.9	14.2	291,950
2001年4月	45,936	202,877	43,503	15.7	69.4	14.9	292,316
2002年4月	45,527	200,938	45,184	15.6	68.9	15.5	291,649
2003年4月	45,136	199,127	47,159	15.5	68.3	16.2	291,422
2004年4月	41,793	189,818	61,360	14.2	64.7	20.9	292,971
2005年4月	44,152	197,209	50,206	15.1	67.6	17.2	291,567
2006年4月	43,711	195,776	52,174	15.0	67.1	17.9	291,661
2007年4月	43,298	193,674	54,746	14.8	66.4	18.8	291,718
2008年4月	42,872	192,626	57,161	14.6	65.8	19.5	292,659
2009年4月	42,605	191,301	59,303	14.5	65.2	20.2	293,209
2010年4月	42,163	190,326	60,992	14.4	64.9	20.8	293,481
2011年4月	41,737	189,892	61,842	14.2	64.7	21.1	293,471

明石市役所ホームページ 統計情報による（人口と統計）。

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

表4 大蔵地区と明石市における世帯数及び世帯人員数の推移（単位：人）

	大蔵地区				明石市合計			
	世帯数	人口総数	世帯人員数	平均年齢	総数	人口総数	世帯人員数	平均年齢
2004年4月1日	7,589	18,881	2.49	43.3	115,681	291,782	2.52	40.8
2005年4月1日	7,671	18,842	2.46	43.5	116,847	291,567	2.50	41.2
2006年4月1日	7,611	18,561	2.44	44.0	118,185	291,661	2.47	41.2
2007年4月1日	7,600	18,342	2.41	44.4	119,414	291,718	2.44	41.9
2008年4月1日	7,677	18,270	2.38	44.7	121,268	292,659	2.41	42.2
2009年4月1日	7,754	18,296	2.36	44.9	122,813	293,209	2.39	42.6
2010年4月1日	7,795	18,216	2.34	45.2	124,418	293,481	2.36	42.9
2011年4月1日	7,854	18,180	2.31	45.4	125,500	293,471	2.34	43.2

明石市役所ホームページ 統計情報による（人口と統計）。

〈注〉

- 1) 後にスーパーマーケットチェーンのジャスコへ吸収合併された。
- 2) 現在このビルにはレンタルビデオチェーン店や居酒屋チェーン店が入居している。
- 3) 加古川市コミュニティバス「かこバス」は、「東加古川ルート」「別府ルート」「鳩里・尾上ルート」の3路線で運行しており、年間約56万人の利用がある（加古川市ホームページによる）。

〈参考文献〉

- 明石市史編さん委員会編（1999）『明石市史 現代編Ⅰ』明石市
- 明石文化財調査団編（1997）『新明石の史跡』あかし芸術文化センター
- 神戸新聞明石総局編（1979）『聞き書きあかし音がたり』もくせい文庫
- 神戸新聞記事 1985年3月26日「明石の商店街は今…23」
- 明石市役所ホームページ 統計情報
- http://www.city.akashi.hyogo.jp/soumu/j_kanri_ka/i_toukei/jinkou_toukei_index.html
（2011年7月20日閲覧）
- 加古川市ホームページ「かこバス・かこタクシーについて」
- <http://www.city.kakogawa.lg.jp/18,3247,179,1075.html>（2011年8月20日閲覧）
- コトバンク「買い物弱者とは」
- <http://kotobank.jp/>（2011年8月20日閲覧）

2.5 大蔵海岸公園における商業施設の理想と現実

白井貴志・内藤奨太・山内翔太

1. はじめに

明石市大蔵海岸通り1・2丁目に位置する大蔵海岸公園は、公園としての整備とは別に、1999年から商業施設の建設が行われてきた。現在では、スポーツ用品店、ゴルフ専門店、温浴施設、住宅展示場、ディスカウントストアが立ち並んでいる。

1991年に明石市開発部海岸整備第2課が作成した「大蔵海岸・レクリエーション施設の概要」と現地調査との比較から、現在の大蔵海岸公園の商業施設は、当初計画されていた商業施設とは異なることがわかった。そこで、大蔵海岸公園における商業施設の変遷を辿り、当初の計画からどのような変更が行われ、現在の大蔵海岸公園の商業施設整備に至ったのかを明らかにする。これに基づき、今後いかに商業施設整備を行い、大蔵

海岸公園の活性化につなげていくべきかについて考えていきたい。

本研究では、2010 年 10 月 24 日、2011 年 6 月 10 日に実施した現地調査に加え、明石市開発部海岸整備第 2 課が作成したパンフレット及び 1999 年 3 月 7 日の説明会にて配布された資料を基にして、明石市土木部海岸課へメールでの聞き取り調査を 2011 年 6 月 23 日から 7 月 11 日にかけて実施した。また、2011 年 6 月 29 日に、株式会社吉川工務店代表取締役で明石商工会議所の議員でもある吉川悟氏に、大蔵海岸公園整備における商業施設の位置づけについて聞き取り調査を実施した。なお、1999 年から 2009 年にかけての大蔵海岸公園付近のゼンリン住宅地図を資料として使用した。

2. 大蔵海岸公園で計画されていた商業施設と現在出店している商業施設

そもそも大蔵海岸整備事業は、国土の整備、保全を図るとともに、人々が海と親しみ、また、集い憩える海浜地域を整備することを目的として全国 41 の地域で実施された、全国 CCZ（コースタル・コミュニティ・ゾーン）整備計画に基づき、その整備が行われた（「大蔵海岸・レクリエーション施設の概要」、「コースタル・コミュニティ・ゾーン（CCZ）の整備について」による）。CCZ 整備計画とは、1987 年から建設省（現国土交通省）が取り組んだ政策で、豊かな国民生活を生み出し、海洋性レクリエーションの要望等に対応できるよう、様々な機能を備えた海浜空間を整備し、地域の人々が気軽に海と親しめる、うるおいのある空間をつくりだそうとするものである（「あかし大蔵海岸 CCZ 整備事業」による）。

そこで、大蔵海岸公園整備事業では、浸食前の中崎海岸の復元という目的と、海のまち明石の PR を目的として、自然と都市の融合をはかり、明石を訪れる観光客に 1 日でも長く滞在してもらうことで、明石市の経済活性化を促進させるという狙いがあった（「大蔵海岸・レクリエーション施設の概要」、吉川氏からの聞き取りによる）。

明石市の当初の計画では、新しいリゾート・レクリエーションのまちづくりを基本方針として、人と自然が調和する“心”と“体”のリゾートエンターテイメント・パークを整備するという施設コンセプトが考えられていた。その計画に基づいて、図 2～6、表 5・6 で示されている施設の導入が計画されていた。その中には、宿泊施設や、コンベンション・メッセ施設などの、大規模なリゾート・レクリエーション施設の建設も含まれていた（「大蔵海岸・レクリエーション施設の概要」による）。

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

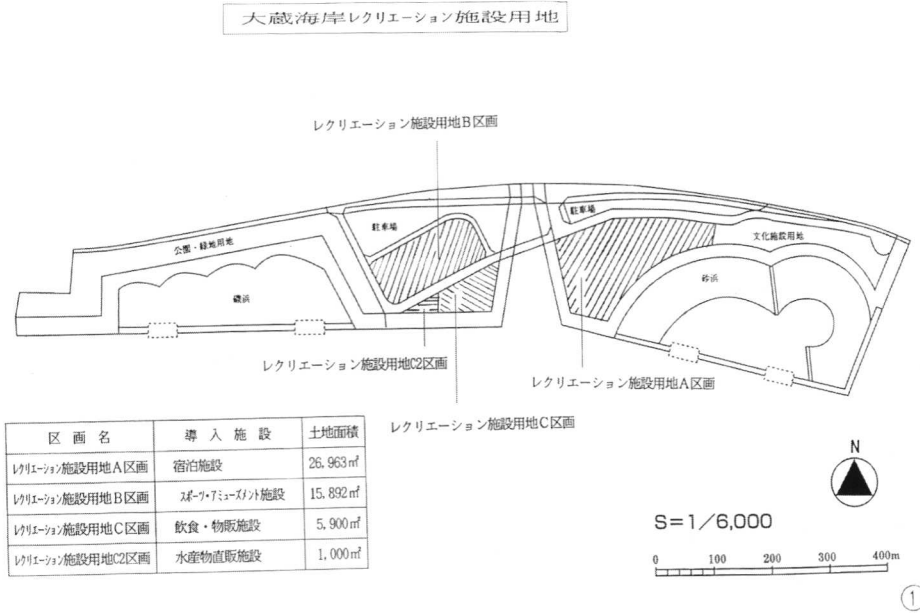


図2 大蔵海岸レクリエーション施設用地

出典：「大蔵海岸・レクリエーション施設の概要」

表5 区画ごとの導入施設（計画）

	A区画(宿泊施設)	B区画(スポーツ・アミューズメント施設)
企業名	明石大蔵海岸CCZ民活ゾーン開発推進協議会	
階数	宿泊施設：15階建て、その他の施設：2～3階建て	4階建て
導入施設	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設 ・コンベンション・メッセ施設 ・リラクゼーション施設 ・リゾートマーケット施設 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・複合映画館 ・ボウリング場 ・ゲームパーク ・屋内型・アミューズメント施設 ・飲食、物販施設 他
	C2区画(水産物直販施設)	〔暫定計画〕C2区画(水産物直販施設)
事業者名	明石浦漁業協同組合	
階数	3階建て	1階建て(大型テント施設)
導入施設	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物加工処理・直販施設 ・漁民青空市(鮮魚、活魚直販) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海鮮寄せ鍋、海鮮バーベキューショップ(大型テント) ・漁民青空市(鮮魚、活魚直販)
建設時期	・2003年(予定)	・1999年度(1999年秋頃営業開始予定)

出典：「大蔵海岸・レクリエーション施設の概要」

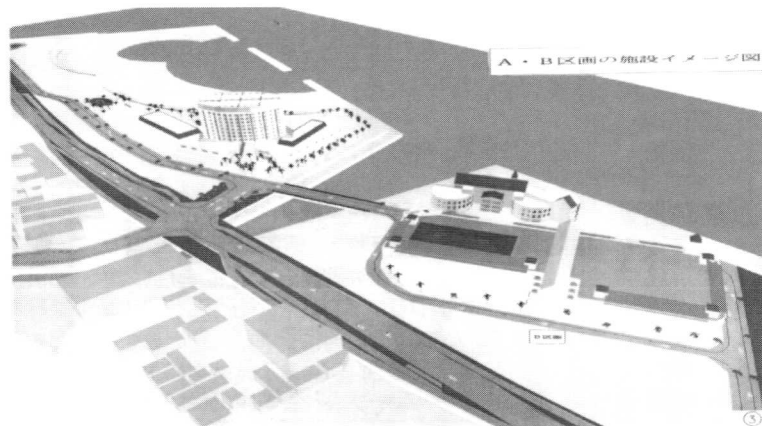


図3 A・B区画の施設イメージ図

出典：「大蔵海岸・レクリエーション施設の概要」

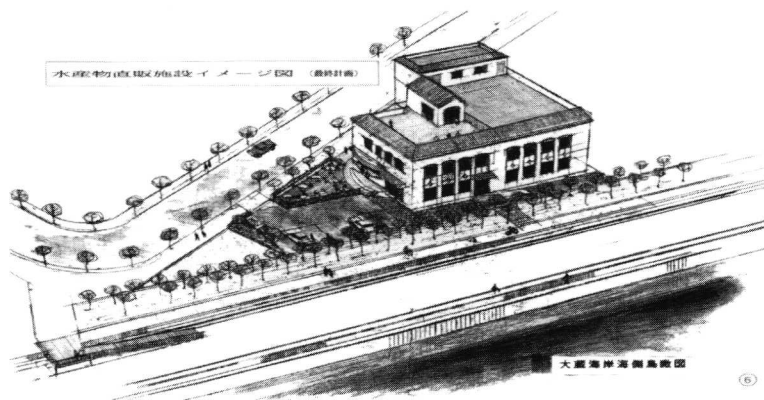


図 4 C2 区画に建設が計画された水産物直販施設イメージ図（最終計画）

出典：「大蔵海岸・レクリエーション施設の概要」

ダイニングスタジオ

Dining Studio

基本理念

本計画におきましては、すばらしい気候資源と美しい自然環境に恵まれた立地条件を活かし「海・海岸へのアクセス」と「豊かな食文化」の両方を「観光」のシンボルにあわせ、魅力ある施設づくりをめざしました。

大蔵と浜路島を結ぶダイニングな眺望に「人々が賑い、賑わい、ほほえむ空間……」明石の豊富な食材と各国の料理との交流に「人々が見て、買って楽しむ空間……」

「Dining Studio」は、そんな魅力空間です。

施設概要

所在地：明石市大蔵海岸2丁目2番
 敷地面積：5,900.02㎡
 構造：RC造 新築 地上4階 建設：地
 延床面積：24,462.71㎡
 築年：西暦 多目的ターミナルビル

事業スケジュール

1998年2月20日 土地取得開始
 1998年4月15日 竣工
 1998年4月下旬 グランドオープン（予定）

■土地信託委託者■
 フンドーキチ醤油株式会社

■土地信託受託者■
 三井信託銀行株式会社

図 5 C 区画で建設されたダイニングスタジオの概要及びイメージ図

出典：「大蔵海岸・レクリエーション施設の概要」

また、1999 年から現在までの大蔵海岸公園付近の住宅地図から、表 6 のように商業施設が変化してきたことが明らかになった。

表 6 大蔵海岸公園における商業施設の変更内容

年	区画	変更の種類	変更の内容
1999 年	A	新設	KIRIN バーベキューランドオクトパス
1999 年	C	新設	ダイニングスタジオおおくら海岸(複合飲食施設)(未完成)
2000 年	A	名称変更	KIRIN バーベキューランドオクトパス→バーベキューランド
2001 年	A	名称変更	バーベキューランド→バーベキューコーナー
2002 年	C	建設中	ダイニングスタジオおおくら海岸
2003 年	A	新設	スポーツクラブアクトス明石大蔵リゾート(スポーツクラブ)
2003 年	A	建設中	あかし湯(仮称)
2003 年	A	名称変更	バーベキューコーナー→バーベキューサイト
2003 年	A	名称変更	あかし湯(仮称)→明石大蔵海岸龍の湯(温浴施設)
2003 年	C	新設	スポーツデポ明石大蔵海岸店(スポーツ用品店)
2003 年	C	新設	ゴルフファイブ明石大蔵海岸店(ゴルフ専門店)
2004 年	A	新設	ABCハウジング明石・海岸通り住宅公園(住宅展示場)
2005 年	A	閉鎖	ダイニングスタジオおおくら海岸
2009 年	C	新設	ラ・ムー大蔵海岸店(ディスカウントストア)

出典：ゼンリン住宅地図「明石市・東部」(1999～2009年)より作成

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

現在大蔵海岸に出店している民間の商業施設は、スポーツクラブアクロス大蔵明石リゾート、龍の湯、ABCハウジング明石・海岸通り住宅公園、スポーツデポ明石大蔵海岸店、ゴルフファイブ明石大蔵海岸店、ラ・ムー大蔵海岸店の6施設である（図6）。



図6 大蔵海岸付近における商業施設の配置

出典：「スーパーマップル関西道路地図2008年」に加筆

3. 大蔵海岸公園の商業施設の問題点と今後の大蔵海岸公園の整備の行方

図5に示したダイニングスタジオおおくら海岸（写真2）は、建物自体はほぼ完成しながら約9年間放置された商業施設である。朝日新聞2008年1月19日の記事によれば、この年に取り壊し作業に入ったとされる。そして、神戸新聞2008年4月18日の記事によると、ダイニングスタジオおおくら海岸の跡地には、ディスカウントストア（写真3）が出店することが明らかになっている。また、写真3のディスカウントストアと、写真4の住宅展示場は、当初計画していた新しいリゾート・レクリエーションのまちづくりを基本とした“心”と“体”のリゾートエンターテイメント・パークには含まれていなかった商業施設である（「大蔵海岸・レクリエーション施設の概要」による）。



写真2 未完成のまま取り壊されたダイニングスタジオおおくら海岸

注 「オレ、レオ」2008年1月18日のブログ記事「大蔵海岸が動き出すか!？」による（2011年7月23日閲覧）。



写真3 ダイニングスタジオおおくら海岸の跡地に 2009 年に出店したディスカウントストア「ラ・ムー 大蔵海岸店」
2011 年 6 月 10 日山内撮影



写真4 A 区画に出店した住宅展示場「ABCハウジング明石・海岸通り住宅公園」
2011 年 6 月 10 日山内撮影

なぜ、このように当初の計画とは違った施設が建設されたのか。その理由は、バブル経済の崩壊による厳しい経済情勢のもとで土地を造成したため、その一部を民間企業に売却することが困難になったためであるという。そこで、明石市は民間の土地売却を借地方式¹⁾へと方針転換し、大蔵海岸のレクリエーション計画を事実上白紙に戻した。誘致活動の結果、スポーツクラブアクトス明石大蔵リゾート、明石大蔵海岸龍の湯、ABCハウジング明石・海岸通り住宅公園、スポーツデポ明石大蔵海岸店、ゴルフファイブ明石大蔵海岸店が出店した（2011年7月11日、明石市土木部海岸課へのメールでの聞き取り調査、「大蔵海岸・民活施設整備事業計画の概要」による）。

大蔵海岸公園では、現在借地方式で貸し出している区画は事業用定期借地として全て貸し出してしまっているため、新たに商業施設を誘致する計画はないという（2011年7月11日、明石市土木部海岸課へのメールでの聞き取り調査による）。

しかし、事業用定期借地の設定期間に基づくと、大蔵海岸公園の商業施設では貸付期間が、2002年から最長で2022年までとなっているため、明石市は土地を貸し付けてから20年以内に新たに企業を誘致しなければ、整備区画に空きができてしまう可能性がある（「大蔵海岸・民活施設整備事業計画の概要」、「定期借地契約」による）。

さらに、2008年から事業用借地権の設定期間がこれまでの10年以上20年以下の契約から、10年以上30年未満、30年以上50年未満の2種類の設定期間に改正され（借地借家法が改正され、2008年1月1

日より事業用借地権の設定期間が10年以上50年未満になります」による)、30年以上50年未満の貸付期間の場合、今までにない長期間の貸付期間を設定することが可能となった。このような長期の貸付期間で商業施設を誘致する際に重要なことは、公園の周辺で暮らす地域住民の生活に直結し、なおかつ、利用しやすい商業施設を呼び込み、持続的な利用につなげることではないだろうか。

4. まとめ

以上から、大蔵海岸公園では、明石市がリゾート・レクリエーションとしてのまちづくりを計画していたが、バブル経済の崩壊などから宿泊施設やコンベンション・メッセ施設などの大規模なリゾート・レクリエーション施設を建設できなかったことがわかった。しかし、商業施設が出店しなければ市の財政を圧迫させてしまうため、借地方式による民間企業の誘致を進めてきたが、区画が埋まれば商業施設を誘致できないという問題も明らかになった。

2008年の借地借家法改正により、事業用借地権が最大で50年と長期間の貸付期間が可能になったことにより、これからの大蔵海岸公園における商業施設の整備では、計画段階で存在しなかったディスカウントストアを2009年に出店させたように、地域住民の生活に役立つ商業施設の誘致を行うことが、持続的な商業施設の利用につながる有効な手段ではないだろうか。これにより、明石市の財政圧迫を軽減させ、地域住民の生活環境の改善にも貢献するのではないかと考える。

〈参考文献〉

- 明石市開発部海岸整備第2課(1991)「大蔵海岸整備事業計画と環境影響評価のあらまし」
神戸新聞「大蔵海岸誘致施設／コンベ要綱決まる／スポーツや宿泊など幅広く」
2000年6月23日朝刊明石版 p.24
神戸新聞「大蔵海岸レク施設白紙へ／落胆、批判の声続出」2001年5月22日朝刊明石版 p.24
朝日新聞「花火大会事故、企業誘致にダメージ 明石の大蔵海岸」2001年7月29日朝刊兵庫県版 p.31
神戸新聞「大蔵海岸の行方」2001年11月4日朝刊 p.6
朝日新聞「大蔵海岸に3社が進出 明石市の事業計画で協定」2002年2月16日朝刊兵庫県版 p.24
神戸新聞「明石・大蔵海岸 工事中断、9年放置の商業施設 活用断念、解体へ」
2008年1月17日朝刊 p.22
朝日新聞「建設中断9年、取り壊し決定 明石の商業施設」2008年1月19日朝刊神戸版 p.24
神戸新聞「大蔵海岸の商業用跡地 物販店が出店へ 地権者と交渉」2008年4月18日朝刊明石版 p.28

〈参考ホームページ〉

- 明石市ホームページ「大蔵海岸・民活施設整備事業計画の概要」
http://www.city.akashi.hyogo.jp/seisaku/seisaku_shitsu/h_ccz/pdf/shisetunogaiyou.pdf
(2011年7月26日閲覧)
明石市役所ホームページ「あかし大蔵海岸CCZ整備事業」
http://www.city.akashi.hyogo.jp/seisaku/seisaku_shitsu/h_ccz/gaiyou.html (2011年8月28日閲覧)
「オレ、レオ」<http://ameblo.jp/nakanishireo/> (2011年7月23日閲覧)
国土交通省ホームページ「コースタル・コミュニティー・ゾーン(CCZ)の整備について」
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/ccz/index.htm> (2011年7月27日閲覧)

国土交通省ホームページ

「借地借家法が改正され、平成 20 年 1 月 1 日より事業用借地権の設定期間が 10 年以上 50 年未満になります」

<http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/land/jigyoyouyou.htm> (2011 年 7 月 27 日閲覧)

福岡・博多交渉役場「定期借地契約」

<http://www.h6.dion.ne.jp/~ntry-fh/syakuti.htm> (2011 年 7 月 26 日閲覧)

〈注〉

- 1) 事業用借地権で土地売却を借地方式にすることで、通常の借地権と異なり、期間の更新がないなど、郊外型レストランや量販店など、事業を目的とする企業と地主間の土地利用関係を成立しやすくした借地権である。地主側にとっては、①契約更新がなく貸した土地は必ず返ってくる、②建物再築の場合も契約期間の延長はなく建物買い取り義務もない、③自己資金が少なくても良く事業リスクも小さくてすむ、④建物を建てる手間も要らず建物を所有する煩わしさもない、といったメリットがある。一方、借地人側にとっても、①優良な土地を借りることができる、②事業目的に応じた建物を建てることができる、③土地取得費用がいらす事業の撤退も比較的容易、④原則として高額な権利金や相当地代を支払わなくてもよい、というメリットがあるとされる（「福岡・博多交渉役場」のホームページによる）。

② 都市郊外地域における環境・社会が
有する価値についての研究

「都市郊外地域における環境・社会が有する価値についての研究」 2011 年度報告

矢嶋 巖、鹿島基彦、前田拓也、大塚成昭、須磨海浜水族園

1 章 都市近郊農村のよりよい生活環境を目指して —兵庫県加古川市西神吉町鼎を事例として—

神戸学院大学人文学部人文学科人間環境コース

矢嶋 巖

神戸学院大学人文学部人文学科人間環境コース

2011 年度人間環境学演習Ⅲ（矢嶋ゼミ）履修生

泉川辰弥・小野智之・白井貴志・白井貴大・鈴木晨平

坪田康佑・内藤奨太・中村千種・西島佑紀・増田翔太

水野綾菜・森本慎吾・山内翔太・山本 葵

1.1 はじめに

本報告は、神戸学院大学地域研究センターの私立大学戦略的研究基盤形成支援事業における明石センターのプロジェクトである、「都市郊外地域における環境・社会が有する価値についての研究」の一環として行なわれた、本学 2011 年度 3 回生による研究結果をまとめたものである。

このプロジェクトは、都市化村落などの都市郊外地域における残存する種々の環境的・社会的要素とその価値を評価し、地域住民の生活においてその価値が再発見され、再評価されることをめざしている。

その研究活動の一端を、神戸学院大学人文学部人文学科人間環境コース 2011 年度 3 回生矢嶋ゼミが担った。まず、前期の演習において、そもそも農村の環境がどうあるべきかについて検討し、次の世代によりよい農村環境を引き継いでいくために、農村の地域社会、自然環境、農業、生活基盤といった生活環境がより良い姿であることが望ましいとした。

そこで、研究対象地域とする都市近郊農村として、図 1 に示される、兵庫県加古川市西神吉町鼎地区の、清水、長慶、富木、西脇の 4 集落（以下鼎 4 地区と記す）を選定した。加古川市西神吉町鼎地区は、山陽本線宝殿駅の北方約 2～3 km ほどに位置する都市近郊農村である。表 1 は加古川市と西神吉町、そして鼎地区における人口と世帯数の推移についてまとめたものである。加古川市は京阪神大都市圏の衛星都市として高度経済成長期に都市化が進み、1990 年代半ばまで人口が大幅に増加した。しかし、鼎 4 地区では、少なくとも 1980 年以降は、人口が減少傾向にあることが、表 1 から読み取ることができる。

鼎 4 地区の歴史を振り返ると、1889 年に市制町村制に基づき清水・長慶・富木が鼎村として発足した。その後、鼎村は西神吉村の一部となり、1956 年に西神吉は加古川市に編入された。現在の鼎地区は清水、長慶、富木、そして富木から分離した西脇の 4 集落からなっており、加古川市の町内会として自治が行われているものの、こうした経緯から、4 集落とも住居表示は西神吉町鼎となっている。本研究では、鼎地区の清水・長慶・富木・西脇の 4 集落を独立した都市近郊農村と位置づける。

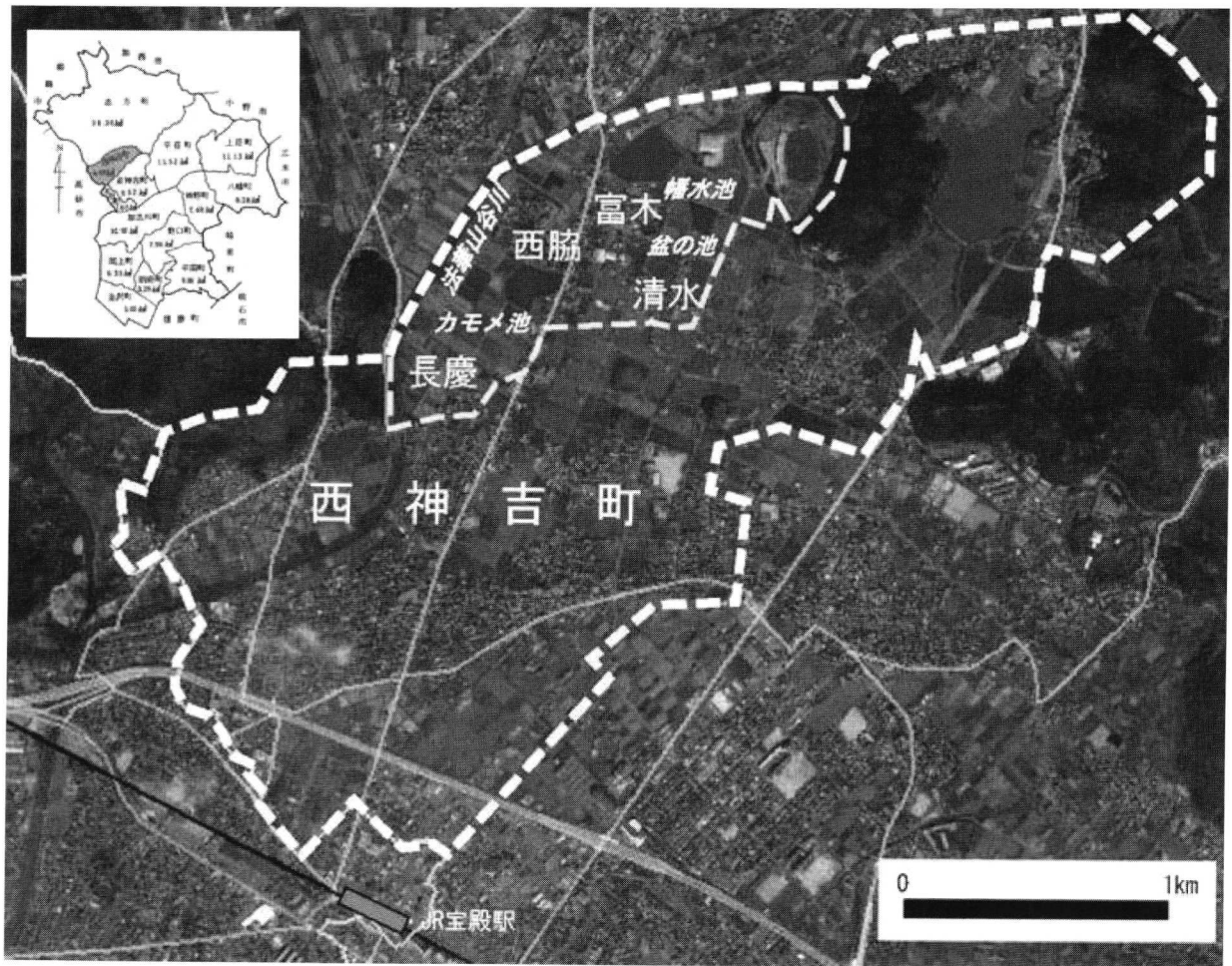


図 1 兵庫県加古川市西神吉町鼎地区の位置

『平成 22 年度版加古川市統計書』、Google Earth より作成

都市近郊農村である鼎 4 地区では、人口が減少している上に、高齢者が増加し、若年齢層が減少しているとされる。これにより、持続的な地域の運営、維持、地域問題の解決が困難になりつつあるといえる。また、自治体の財政状況が厳しいことも、こうした問題解決を困難にする要因となっているとみられる。さらに、こうした状況は、鼎地区に限らず、全国的に共通していると思われる。このような問題を解決するためには、住民自身が主体となった取り組みが必要であると考えられる。

そこで、よりよい生活環境のあり方について考えるための要素（分野）を、地域社会、自然環境、農業、交通・消費の 4 点とし、ゼミ生それぞれの関心領域によって分野班として班分けをし、鼎 4 地区の代表者に対して 4 分野を中心とした聞き取り調査を行ない、それぞれの地区における地域社会、自然環境、農業、生活基盤といった農村の過去から現在に及ぶ生活環境の変化を、地区による相違点や共通点に留意しつつ明らかにする。それを踏まえて、鼎 4 地区における次の世代に引き継いでいくための望ましい環境のあり方について検討し、その実現のための課題を提示することを本研究の目的とする。

調査については、2011 年 9 月 2・3・4 日に、鼎 4 地区の農業団体長を中心とする代表者などに対する聞き取り調査と現地踏査による確認を中心とするフィールドワークを実施した。聞き取り調査の際には、予め用意した項目にもとづいて質問を行ない、それらをまとめた上で、いったん分野班で集まって調査状況の確認と摺り合わせによる調整を行ない、それを踏まえて、聞き取り調査を再実施した。

調査の詳細については、まず 2 日に、鼎 4 地区の農業団体長らに対する聞き取り調査を実施した。9 月 3

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

日には、鼎地区に隣接し、里山である宮山を擁し村社神吉八幡神社が地区内に位置する宮前地区の農業団体長らから、地区内の農業のあり方や八幡神社の祭礼実施について説明を受けた。また、兵庫県東播磨県民局水辺地域づくり課（当時）の三輪 顕氏から、溜池保全に関する同課と北播磨県民局加古川流域土地改良事務所の取り組み（いなみ野ため池ミュージアム）についてのレクチャーを得た。なお、加古川農林水産振興事務所の椿原健右氏から地域の農業の概況を、加古川流域土地改良事務所の長谷坂兼司氏からは圃場整備についてのレクチャーを得る予定であったが、台風接近にともなう警戒態勢のため中止となった。さらに4日には、鼎4地区のうち、未明に発生した水害で対応困難となった長慶地区をのぞく、3集落の農業団体長に対して、聞き取り調査を再実施した。なお、長慶地区の農業団体長に対しては、9月17日に再実施した。

鼎4地区の農業団体長などへの聞き取り調査の際には、予め用意したこれら4分野についての質問項目にもとづいて質問を行ない、それらをまとめた上で、9月3日にいったん分野班で集まって調査状況の確認と折り合わせによる調整を行ない、それを踏まえて、4日あるいは17日に聞き取り調査を再実施することで、地区によって質問内容の疎密が生じることを極力防ぐよう取り組んだ。

後期ゼミでは、4分野班に分かれて、11月頃までゼミ時間内において本研究のまとめを実施し、3月に各班の最終的な報告が出来上がった。

なお、2011年12月24日に兵庫県東播磨県民局において、兵庫県加古川流域文化協議会の主催で開催された、第5回流域文化サロン「次代につなぐ水辺環境」の活動報告として、白井貴志、山内翔太、鈴木晨平の三君が、矢嶋ゼミ代表として本研究成果の中間報告を行なった。この報告に向けての三君によるブラッシュアップ作業が本報告の完成において、とくに大きな役割を果たした。2012年1月29日には、鼎地区富木の富木公民館において、鼎地区の住民を招いての中間報告会が行なわれ、ゼミ生全員が参加し、泉川辰弥、白井貴志、鈴木晨平、山内翔太の四君が報告を行なった。

学生の調査経験が浅いうえに、そのほとんどが非農家出身であり、さらに聞き取り調査をお願いした農業団体長を中心とした地区住民の参加者数が、地区によって1～3名と異なっていたことは、本報告の調査精度に関わることゆえ、最初に言及せねばなるまい。

なお、鼎地区で調査を行なわせて頂くことになった経緯は、矢嶋ゼミ卒業生である長尾貴人氏が、東播磨地域における溜池の維持活動について取り上げた卒業論文研究の対象地域のひとつとして鼎地区の富木を取り上げることになり、前東播磨地域ビジョン委員長で、富木地区に在住し、地区の農業団体長である富木 攻氏に聞き取り調査を行なった。そのため、長尾氏の卒業論文研究を通して、筆者に鼎地区について若干の知見ができた。また、富木氏が会長を務める富木地区環境保全協議会（ため池保全のための活動団体）

表1 加古川市・西神吉町・鼎における人口・世帯数の推移

地区	年	1965	1980	1995	2010	2011
鼎	人口	860	842	839	729	834
	世帯数	186	216	244	267	309
うち清水	人口	261	-	-	-	275
	世帯数	58	-	-	-	97
うち長慶	人口	122	-	-	-	158
	世帯数	25	-	-	-	56
うち富木	人口	267	-	-	-	177
	世帯数	54	-	-	-	68
うち西脇	人口	210	-	-	-	224
	世帯数	49	-	-	-	88
西神吉町計	人口	4,395	8,653	9,596	9,053	8,764
	世帯数	991	2,312	3,043	3,553	3,306
加古川市計	人口	101,841	211,317	257,162	268,096	269,087
	世帯数	23,345	61,308	84,696	105,744	107,439

注 10月1日現在のデータである。1965・1970年は、1971年発行加古川市統計書掲載の1965年国勢調査、1970年国勢調査による推計人口である。1975年～2010年は、加古川市総務課文書統計係内部データによる住民基本台帳人口である。2011年は加古川市地域文化課の内部データで町内会別による住民基本台帳人口である。

による 2011 年 1 月の溜池維持活動に、筆者と鹿島基彦講師が参加し、鼎地区の都市近郊農村としての有り様を事前に視察していた。そこで、富木氏に調査実施の相談をしたところ、鼎 4 地区の比較研究を提案頂き、他の地区の農業団体長にも調整を頂いて、この調査を実施させてもらえることとなった。

2011 年 9 月 2・3・4 日に実施した調査には、教員として筆者と前田拓也講師、地域研究センター研究員として倉田 誠氏（現近大姫路大学）が参加した。また、2010 年度矢嶋ゼミ卒業生の長尾貴人氏（兵庫県立大学大学院緑環境マネジメント研究科修士課程）、八木和樹氏（(株)エルクコンサルタント）のサポートを得た。また、本報告の最終的な校正作業において、中村千種君が大きな役割を果たしたことを記しておく。

（矢嶋 巖）

1.2 加古川市西神吉町鼎 4 地区における住民による地域活動の活性化の可能性について

地域社会班

泉川辰弥・内藤奨太・森本慎吾

1. はじめに

昭和 30 年代以降の高度経済成長に伴い、日本では農山漁村地域から都市地域に向けて、若年層（15 歳～34 歳）を中心として大きな人口移動が起り、都市地域においては人口の集中による過密問題が発生してきた。一方、農山漁村地域では、住民の減少により地域社会の基礎的生活条件の確保にも支障をきたすような、いわゆる過疎問題が発生した。他方で、近年の日本では、人口の高齢化や少子化により、地域社会における少子化が進んでいる（総務省ホームページ「過疎対策の沿革について」）。都市化が進んだ大都市圏の衛星都市において、合併で拡大した市域のなかに農村地域が残っているところがあり、こうした農村地域には、都市化が及んで人口が停滞あるいは増加に転じたところもあれば、過疎地域と同様に高度経済成長期以降人口が減少してきているところもある。

かつての日本では、町内会や自治会などの地縁組織が主体となって、地域の実情に合わせた活動やまちおこしなどのイベントが、住民自治のもとで行われてきた。しかし、人口減少や少子高齢化の進行などに伴う担い手不足などが主な要因となって、こうした住民自治機能が低下してきているとされる（白井ほか 2009）。住民がお互いに支え合う住みやすい地域社会を実現するために、自治体による地域活性化策が各地で行われてきているが、そういった活動に対して関心を持つ住民に限られていることが問題となってきている。こうしたことを乗り越え、住民自らの手で地域社会を活性化させ、住民自治機能を回復させていくことが必要である。そのためは、自治会・町内会などの自治組織が重要な役割を果たすことだろう。

2011 年 9～10 月に、神戸学院大学人文学部 3 回生矢嶋ゼミでは、兵庫県加古川市西神吉町鼎に位置する清水、長慶、富木、西脇の 4 地区（以下、鼎 4 地区という）において、都市近郊農村におけるよりよい生活環境のあり方について考えていくために、各地区の農業団体長を中心とする代表者などに対する聞き取りを主とした研究調査を行なった。

加古川市は京阪神大都市圏の衛星都市として高度経済成長期に都市化が進み、人口が大幅に増加した。鼎 4 地区は山陽本線宝殿駅北方約 2～3 km ほどに位置する町内会単位の地区である。表 2 に示されるように、鼎 4 地区では 1980 年代半ばにいったん人口・世帯数が増加したものの、高度経済成長期以降は人口が次第に減少してきて現在に至っている。また、1つ1つの地区の人口は 150 から 300 人程度で、比較的小規模である。4 地区のうち 3 地区が 2005 年農業センサスの対象集落で、1 地区が 2000 年まで対象であったことや、現在でも 4 地区ともに農業が営まれている。以上から、鼎 4 地区は都市近郊に位置する農村地域といえる。

聞き取りによれば、鼎 4 地区の住民組織による地域活動において、現在抱えている共通の問題点として、

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、
伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

若い世代が地域を離れ高齢化が進んでいることが挙げられるという。こうした状況は自治組織内にも影響を及ぼすものと考えられ、地元青年団が構成できなかつたり、行事の運営を行うのが困難になったりする場合が想定される。

表2 加古川市西神吉町における人口・世帯数の推移

年		1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2011
県	人口	860	857	847	842	833	866	839	811	797	729	834
	世帯数	186	199	211	216	217	241	244	257	278	267	309
うち清水	人口	261	255									275
	世帯数	58	56									97
うち長慶	人口	122	139									158
	世帯数	25	31									56
うち富木	人口	267	263									177
	世帯数	54	56									68
うち西船	人口	210	200									224
	世帯数	49	56									88
辻	人口	873	858	904	900	856	807	720	664	612	569	539
	世帯数	191	187	216	230	239	233	234	227	228	235	229
岸	人口	551	861	2,439	2,935	2,980	2,981	3,858	4,086	4,159	4,317	3,917
	世帯数	130	234	662	812	861	927	1,276	1,441	1,546	1,678	1,527
大国	人口	949	1,197	1,667	2,155	2,153	2,151	2,127	2,044	1,854	1,732	1,154
	世帯数	224	293	453	575	589	612	676	698	702	706	459
西村	人口	313	303	302	342	340	337	321	325	310	297	329
	世帯数	70	71	77	89	89	91	98	105	107	110	123
中西	人口	333	414	775	779	747	760	745	719	685	655	658
	世帯数	71	100	198	207	207	225	238	248	262	274	279
宮前	人口	516	504	569	700	986	995	986	933	829	754	733
	世帯数	119	122	145	183	252	263	277	287	287	283	277
西神吉町 合計	人口	4,395	4,994	7,503	8,653	8,895	8,897	9,596	9,582	9,246	9,053	8,764
	世帯数	991	1,206	1,962	2,312	2,454	2,592	3,043	3,263	3,410	3,553	3,306
加古川市	人口	101,841	127,112	167,902	211,317	226,890	240,144	257,162	266,010	266,370	268,096	269,087
	世帯数	23,345	31,131	50,252	61,308	66,733	73,761	84,696	93,171	98,970	105,744	107,439

(注)各年10月1日現在。

(資料)

1971年発行加古川市統計書掲載資料の1965年国勢調査、1970年国勢調査による。

1975年～2010年のデータは西神吉町大字別人口推移による。

2011年は加古川市地域文化課の内部データで、町内会別による。

そこで、本研究では県4地区における聞き取り調査をもとに、住民組織・自治組織による地域活動について、その内容や変化、地区間の連携といった点から検討する。これにより、同地区の住民組織による地域活動の現状を把握したうえで、地域活動という点から今後の県4地区の発展のあり方について考えていきたい。もちろん、このことは都市近郊農村である県地区だけの問題ではなく、全国の農村地域においても問題となっていることであろう。県4地区における検討結果を、こうした問題の一時例として示したい。

2. 加古川市や地区間における地域活動の取り組みの現状

加古川市では、2011年10月において住民の約4分の1が65歳以上の高齢者である（平成22年度版加古川市統計書 町丁別住民台帳より）。現在加古川市には、老人会という高齢者の集まりがあり、週2回のグランドゴルフやクリーンキャンペーン後の定期的な交流などの活動が行われている。また、地区によっては、高齢化対策として若い地域住民とのコミュニケーションをとるところもあるが、一般にはあまり取り組まれていないというのが現状である（聞き取り調査による）。

鼎 4 地区のうち富木地区では、低年齢層が少なくなっていく状況に対して、神吉八幡宮の秋祭りに興味を持ってもらうために老人会が小学校に出向いたり、クリスマス会を西脇地区と合同で開くなどの活動が行われている。

そのほかにも、こうした地区どうしが連携するイベントとして、カモメ池でのクリーンキャンペーンが西脇と富木地区により共同で行われているが、それ以外に地区どうしで行っている情報は、聞き取り調査では得られなかった。

鼎 4 地区の古くからの住民は、宮前地区に位置する神吉八幡神社の氏子である。この神社の秋祭りは、氏子となっている地区が持ち回りで担当することになっているが、鼎 4 地区については 4 地区が合同して担当することになっているという（聞き取り調査による）。そのため、世代間の交流が図られるのみならず、4 地区間の交流の機会になっているという。

3. 各地区における取り組みについて

(1) 清水地区

お祭りの運営や清掃活動といった地区の行事や、老人会による週 2 回のグランドゴルフなど、清水地区では高齢者が活発に活動している。その一方で、若者を対象とする行事はない。聞き取りによれば、高齢者の活動が中心となっている地区であるにもかかわらず、町内会としてはとくに高齢者向けの取り組みは行っていないという。また、他の地区との共同の取り組みもとくにないとのことである。

(2) 長慶地区

この地区では、祭りなど若者が運営や主催する行事が他の地区に比べて多く、子供が楽しめる行事が多いという。とくにスポーツ大会には子供から高齢者まで幅広い年齢層の方が参加しており、世代間の交流が取れているという。また、鼎地区や加古川市とも連携して行われている神吉八幡宮の秋祭りについては、他の地区と良い関係を構築できる機会と認識されている。聞き取りによれば、この地区でも高齢化が進んでいるとされており、若い世代の意見がこれからの長慶地区の地域活性化に必要と認識されている。

(3) 富木地区

この地区では、水田が広い範囲を占め、新しい家を建てるのが困難であるため、若い世代が地区を離れていく原因として認識されている。また、子供の交流の場とともに他の地区との連携の機会にもなってきた神吉八幡神社の祭りも、近年は参加する子供の数が減っているとのことである。少子化が進んでいる中、地域活性化策として、老人会が小学校に出向いて取り組みをおこなうなどしている。また、地区内の溜池クリーンキャンペーンやカイボリ（池干し作業）の活動を大きな行事として行ない、住民に積極的に参加してもらうようにしている。そして、この溜池を通じて地区の若者に地区としての取り組みについて関心を持ってもらおうとしているという。カイボリの実施は地区外や県外に在住する地区出身者にも参加が呼びかけられ、地区外に移り住んでいる出身者を惹きつけるという点で、大きな役割を担っているという。

(4) 西脇地区

この地区には単独のお寺や墓地がなく、住民の多くが富木地区の南宗寺の檀家であることや、富木地区と共同の墓地となっていることにも示されるように、西脇地区と富木地区との関わりは深い。これはもともと西脇地区が富木地区から分離してできた経緯を反映しているものと思われる。また、高齢化対策として行っていることで、人と人のつながりを大切にするために、地域住民のコミュニケーションをとることが意識的

に行われているという。一方、営農組合を主体とした農業を通して、若者に地元の良さをアピールしているという。

4. 鼎4地区の連携がもつ可能性と課題－おわりにかえて－

まず、現在の鼎4地区における若年層の減少は深刻であると考えられている。地区における町おこしをめざした行事などに、これからの担い手である若者が興味を示さなければ、近い将来、地域活性化を目的とした行事を行うことが不可能になってくるのではないだろうか。鼎4地区それぞれの人口規模は、西神吉町の他の地区と比べて小さい。人口の減少傾向が今後も続くならば、町内会の予算規模が限られるようになり、高齢化も進むことから運営担当者一人あたりの作業負担も次第に大きくなっていくと思われる。そのため、今後のイベントの継続はますます難しくなっていくものと考えられる。現状でも地区それぞれで住民から集められる町内会費の合計額は決して多くはないと思われる。このままでは子供達のためのクリスマス会やスポーツ大会といった地域住民と交流の場である行事も予算規模が限られ、よほどのことがない限り見込まれる参加者数は増加しないものと思われる。

そこで、4地区の住民が、地区それぞれの特色を生かしつつ、協力し合ってイベントを実施することができないだろうか。これにより、イベントの運営を担当できる人員数を増やすことができる上に、イベントの運営費が増えることで、より大がかりな運営が可能となる。

例えば、神吉八幡神社で行われる秋祭りは鼎4地区が合同で当番を担当しており、すでに顔見知りの人が多いことから、4地区がまとまって行事を運営していくことは不可能ではないと思われる。そこで、鼎4地区の町内会が連携してクリスマス会やスポーツ大会といった行事を合同で行うことで、参加者数や運営者数を増やして、行事を4地区の交流の場として有効活用することができる。これにより、地域活動を活性化させることが期待出来ないだろうか。4地区で調整することは決して楽なことではないと思われるが、もしこれが実現すれば、多くの参加者が見込まれ、行事の運営にあたることができる人も増え、より充実した行事へと発展させていくことができると思われる。こうした取り組みによって、地域の行事が地域活性化につながっていくことが期待される。また、富木地区で行われているカイボリは鼎の他の地区と合同で行っていくのは難しいとされている。しかし、4地区による交流が進んでいく中で合同で実施できる可能性も増すのではないだろうか。なお、鼎4地区における若年層の減少は深刻であるため、こうした行事を継続していくためには、地区の中にいる若年層をいかに巻き込むかが大切である。

最後に、今後の日本の地域社会における少子高齢化は、ますます深刻になっていくものと思われる。比較的近接する集落では、できることについては住民自治機能を共同化していくことが必要となってくるのではないだろうか。

1.3 鼎地区における自然環境・生物多様性について

自然環境・生物多様性班

中村千種・増田翔太・山内翔太

1. はじめに

都市近郊の農村地域では住宅開発や用水路の整備、河川・ため池の護岸整備などによって自然環境が失われ、生物の生息地が奪われてきている。また、外来生物の侵入も重なり、日本在来の生物は、種類も数も減少していく一方である。農業用水路がコンクリート化へと整備されれば、田に水を引くのもパイプラインの蛇口を回すだけで簡単に行うことができ、非常に便利である。ため池の護岸整備も、堤体の決壊や水漏れ防止の他

に、水抜きの簡易化や子供の落水事故の防止にもつながり、非常に有効的な手段であることは間違いない。しかし、住民たちが便利かつ安全で暮らしやすければ、昔からその地に生息していた生物はどうなってもいいのだろうか。また、本来の緑豊かな景観がさらに失われてもいいのか疑問を抱いた。そして、都市近郊農村の住民にとってどういったことが、環境問題としてとらえられているのかにも関心を持った。

兵庫県加古川市西神吉町鼎地区は、加古川駅からおよそ 5 km 圏内に位置する農村地域であり、ため池や田畑など自然の色濃く残る緑豊かな地域である。

兵庫県はため池保有数が約 44,000 と全国一ため池が多い県であり、中でも瀬戸内海に面している播磨地域、阪神地域、淡路地域は特にため池の数が多い。また、文化財としても価値があるものとされている（兵庫県農政環境部農林水産局農地整備課 2010）。このうち東播磨地域では、ため池を核とした地域づくりをめざす「いなみ野ため池ミュージアム」といった活動も行われている。地形図によれば、鼎地区には 5 つのため池が存在しており、地域行事の一環としてため池の池干し（カイボリ）が地域ぐるみで行われている。その池干しは地元の小学校と連携して行われ、獲れた魚をその場で調理して参加者に振る舞うなど、地域の特色を生かした独自のイベントが積極的に行われている。

そこで、2011 年 9 月から 10 月にかけて鼎地区で行ったフィールドワークと文献研究に基づき、東播磨地域に存在するため池の保全を目的としたいなみ野ため池ミュージアムの活動、地域が抱える環境問題、生物多様性の現状について明らかにしたうえで、今後の鼎地区の自然環境や鼎地区の環境に対する取り組みがどうあるべきかについて検討することが本研究の目的である。

2. いなみ野ため池ミュージアムについて

東播磨地域には、県下で最大あるいは最古のため池、絶滅が心配される生き物が暮らすため池など、個性豊かなため池が数多くある。東播磨地域では 2002 年度から、地域住民の参画と協働のもと、その貴重な水辺空間をより素晴らしい姿で次代へ引き継いでいくとともに、それを核とした魅力ある地域づくりをめざす「いなみ野ため池ミュージアム」の取り組みが行われている（いなみ野ため池ミュージアムホームページより）。

いなみ野ため池ミュージアムの運営には、これまでに設立された約 80 のため池協議会、自然保護団体、マスコミ、JA など各種団体の参画を得て「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」が組織され、運営されている。また、協議会間の交流を深めるため、市町ごとに「ため池協議会連絡会」等が結成され、これらの会合に参加している（いなみ野ため池ミュージアムパンフレット、南塾 2011、森脇 2011）。ため池協議会については、「ため池管理者である農家だけでなく、その周辺住民やため池を活動の場とする団体等、多様な主体が参画する「ため池協議会」の活動を通じて地域住民が協働することを基本姿勢としている」とされる（森脇 2011）。協議会が中心となり、食・遊・観・学をキーワードにそれぞれ地域の特徴を生かしたイベントが行われ、とくに地域住民参加によるため池の清掃活動（クリーン作戦）は、東播磨地域のどこかで毎週実施されているという（兵庫県農政環境部農林水産局農地整備課 2008）。

聞き取り調査によれば、鼎 4 地区（清水・長慶・富木・西脇）では、富木地区が富木地区環境保全協議会として、西脇地区と長慶地区はカモメ池協議会としてため池協議会を結成している。そのため、協議会としていなみ野ため池ミュージアムの会議やイベント、研修会等に参加している。一方、清水地区と長慶地区の農業団体の代表は、いなみ野ため池ミュージアムの名前は知っているものの活動内容は知らないという。このように、地区によっていなみ野ため池ミュージアムに対する興味や関心に差がみられる。これは富木・西脇地区のようにため池が地区内にある場合と、清水・長慶地区のようにため池が地区内がない場合との意識の違いから生じたものではないかと考えられる。ただし、長慶地区はカモメ池協議会の結成メンバーであり、この点については疑問が残る。

3. 鼎地区における水辺の生き物

(1) 在来種

聞き取り調査によれば、鼎地区の水辺（河川や用水路、ため池）には、昔からナマズやドジョウ、ホタル、メダカなどが生息していた。ナマズは主に平野部の水路や河川、湖沼などの流れがほとんどない所に生息する。夜行性で、魚類や甲殻類、両生類、水生昆虫などを食欲に食べる（内山 2005）。ホタルのほとんどは河川の上流あるいは源流域の小さな沢や用水路に辛うじて生息しており、上流域のわずかな環境の改変でも絶滅してしまう恐れがある。ドジョウやメダカは、水田、用水路、湿地、河川下流域の流れの緩い部分などの泥底に主に生息しており、かつては全国的に里山で普通にみられた（兵庫県監修 1997）。

聞き取り調査によれば、河川や用水路をコンクリートに改修することにより水の管理はしやすくなったが、水の流れが急になったこと、隠れる場所がなくなってしまったことで生物には住みにくい環境となったとされる。また、農薬・生活排水による水質悪化なども原因と考えられている。このような環境の変化によって、もともと生息していた在来種が減少してきたという。

外来種に関しては、池干し（カイボリ）や農薬散布等で外来種を駆除する成果があがっているとされるが、在来種に対しては特に保護対策がとられていないという。鼎地区においては、今後在来種をどのように保護していくかが課題とみられている。

(2) 外来種

聞き取りによると、鼎地区ではジャンボタニシ、ブラックバス、ブルーギルといった外来種による被害が生じているが、最も被害が多いのがジャンボタニシであるという。

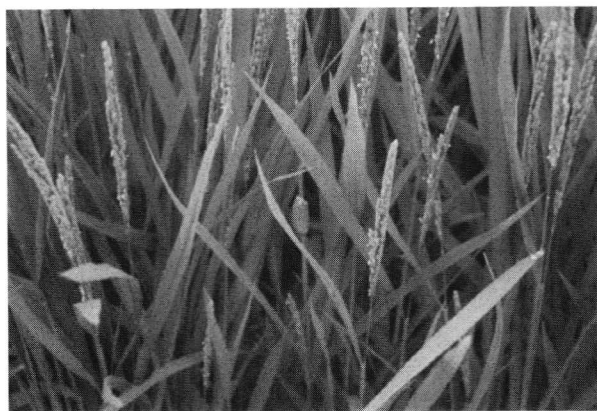


写真1 稲に付着するジャンボタニシの卵
(2011年9月撮影、鼎地区の水田)

ジャンボタニシは、1980年頃に台湾を経由して食用として日本に移入された。一時は全国各地で盛んに養殖されたが、需要がないことから一斉に廃業となった。その後、放棄された養殖場から逃げ出したり、故意に投棄されたりして野生化していった。また、近年水田の水深を極端に浅く保ち、雑草のみを食べさせる「ジャンボタニシ農法」を取り入れる有機栽培農家が見られるようになった。除草剤を使わないという点では良いが、よそに逃げ出さないよう厳重な管理が必要であるとされる（内山 2005）。

ブラックバスは、1925年に実業家によって食用目的として神奈川県芦ノ湖に日本で最初に放流された。1970年代にルアーフィッシングブームが起こったことにより、意図的に放流されるようになって急速に全国に拡がり、2001年には全都道府県に分布するようになった。魚類・甲殻類などを食べ、天然湖沼やダム湖、

ため池、公園の池、河川の中・下流域などに生息する（自然環境研究センター編著 2008）。

ブルーギルは、1960 年にアメリカ合衆国シカゴの水族館から贈られたことが日本に移入されるきっかけとなった。当初は食用として考えられていたが、養殖に適さないということが明らかになった。1970 年代にルアーフィッシングブームが起こったことにより釣りの対象として、またブラックバスの餌などとして意図的に放流されたことで急速に分布を拡大し、現在は全都道府県に定着している。ブラックバスと同じく天然湖沼やダム湖、ため池、公園の池、河川の中・下流域などに生息し、水草の繁茂する場所を好む。雑食性で、魚類（特に魚卵）、昆虫類、動物プランクトン、貝類、植物などを食べる（自然環境研究センター編著 2008）。

聞き取りによれば、鼎地区ではジャンボタニシは以前から生息していたが、ここ 5～6 年の間に大量発生し、植えたばかりの柔らかい稲の苗を食べるといった被害が多発している。また、ブラックバスやブルーギルが定着していて、在来種であるメダカやドジョウなどが見られなくなっているという。

ジャンボタニシへの対策としては、長慶地区と西脇地区の聞き取り対象者は、専用の農薬を使って駆除している。清水地区の聞き取り対象者も農薬を使っているが、ジャンボタニシは稲の苗が大きくなると食べなくなるため、苗が大きくなるまで必要最低限の農薬しか使っていない。また、富木地区の聞き取り対象者は、水田の水を浅く保ち、ジャンボタニシの動きを遅くすることによって稲の苗に対する被害を少なくしている。

ブラックバス、ブルーギルに対する対策として、富木地区ではため池のカイボリを行っており、外来種に対する駆除の成果はあがっているとされる。こうして外来種を減少・根絶させることによって、在来種の保護・増加につなげていくことができるのではないかと考えられる。

4. 鼎地区で認識されている環境問題

環境問題というと、一般的には地球温暖化や水質・大気汚染、ゴミ問題などが挙げられるが、身近なところで思いつくのはゴミ問題ではないだろうか。日本では昭和期の終わり頃から、家庭や事務所から出るゴミと、事業所から排出される産業廃棄物の増加と処分・処理の問題が各地で議論されるようになったとされる。これらの問題に対して、1991 年 10 月に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」が改正された。また、同年 4 月には「再生資源の利用の促進に関する法律」が制定されるなどの対策が講じられた。しかし、その後も全国各地のゴミは増え続け、不法に投棄されるゴミによる環境汚染が懸念されるようになってきた（脇坂 1995）。

一般に不法投棄されるゴミの中には煙草の空き箱や吸い殻、空き缶、ペットボトルがあり、これらが交差点や道路わきに捨てられていることをよく目にする。家庭や事務所から排出されるゴミの中でも特に多いのが、プラスチック類、紙類、空き缶であるとされる（脇坂 1995）。聞き取り調査において、鼎地区の住民が考える環境問題として「ゴミ問題」が 4 地区すべての代表者から挙げられた。具体的には、煙草の吸い殻や空き缶、ペットボトルが道端に捨てられているとのことで、日本全体の問題と同様であった。聞き取りによれば、一部の住民がゴミ拾いを行っているが、住民一人一人の意識に差があるため大きな成果は得られていない。このように地域の特定の人ばかりが行うのではなく、自治会が主体となり、学校などの団体にも参加を呼びかけ、地域の行事としてゴミ拾いを行っていくことで、ゴミ問題に対する一人一人の意識向上を目指すことが今後の課題であろう。

また、写真 2 のように、カモメ池に繁茂するガマの穂が強風で遠方まで飛散し、洗濯物に付着したり交通の妨げとなることで、地域住民からの苦情が多発しているという問題も挙げられた。

聞き取りによると、市に対応を求めたが、ガマの穂の飛散は地域の問題であるため市は対応できないとされ、地域で対応せざるを得なくなった。そこでガマを刈り取り、燃やすといった対策をとっているという。



写真2 カモメ池に繁茂するガマ

(2011年7月撮影)

5. おわりに

以上のように、加古川市西神吉町鼎4地区の自然環境・生物多様性について、フィールドワーク及び文献研究から明らかにできたことをまとめると次の通りである。

まず、いなみ野ため池ミュージアムについては、具体的にどんな活動を行っているか知らない地区もあるといったように、地区ごとに認知度や興味・関心に差がある。これには、地区内におけるため池の有無が要因として挙げられる。

次に水辺の生き物については、ジャンボタニシやブラックバス、ブルーギルといった外来種に対し、専用の農薬を散布したりカイボリを行ったりするなどの対策が取られ、成果もあがっていることが明らかになった。しかし、調査時点では、在来種を保護するための対策はとくに取られていないことも明らかになった。今後いかに在来種を保護していくかが課題である。この対策として、国土交通省が推進している多自然川づくりの方針を、鼎の農業用水路へ反映させていくことも選択肢の一つとして考えられないだろうか。多自然川づくりとは、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うこととされている（国土交通省ホームページ「多自然川づくり基本指針」）。ただし、これには多額の工事費用がかかるとみられるため、実現させるには地域が中・長期的に取り組んでいく必要がある。

環境問題については、少なくとも鼎4地区の農業団体長らには、ゴミ問題が地域の環境問題として最大の関心事であった。これに関しては地域住民一人一人がゴミ問題について意識を高めていくことが重要である。

しかし、鼎4地区ではこれらの問題に対して何も対策を取っていないわけではない。カイボリや清掃活動をイベント化し、地域住民の参加を促して活動を行っている地区もある。ここで注目すべき点は、これらの活動の取り組みやその認知度が地区によって違うことである。そもそも鼎4地区の自然環境や生物多様性に関する問題は、西神吉町のみならず加古川市や東播磨地域に広く共通する問題であり、一つの地区のみが対策を行ったところで解決するようなことではない。1.1に記した通り、鼎はもともと一つの村であったうえに、1.3に記したように、富木地区と西脇地区が農業でのつながりがあること、西脇地区と長慶地区が法華山谷川から引いているユミゾという用水路を通してのつながりがあること、さらに鼎4地区合同で神吉八幡神社の祭りを担当するなど、現在でも各地区のつながりを有することに注目したい。これらのつながりを生かし、自然環境や生物多様性に関する情報共有の機会を設け、鼎4地区協働での解決策を模索していくことが有効ではないかと考えた。鼎4地区がこれらの問題に対し協働をもって取り組みを行うことによって、地区が抱えている環境問題の解決につなげ、さらに加古川市全域、東播磨地域全体へと取り組みを広げていくことが可能では

ないだろうか。

また、これらの活動が地域住民主体で行われることによって、東播磨地域の水辺の取り組みを推進しているいなみ野ため池ミュージアムがさらに活用され、同ミュージアムによって地域住民の活動がよりバックアップされていくことで、「地域みんなの参画と協働のもと、その貴重な水辺空間をより素晴らしい姿で次代へ引き継いでいくとともに、それを核とした魅力いっぱいの地域づくりをめざす」（兵庫県農政環境部農林水産局農地整備課 2010）といういなみ野ため池ミュージアム本来の目的が、より現実的になってくるのではないかと期待される。

1.4 鼎地区における農業について

農業班

白井貴大・鈴木晨平・坪田康佑・山本 葵

1. はじめに

日本では、農業従事者の減少・高齢化にともなって耕作放棄地が増え、農地の荒廃が進んでいる。農業の衰退とともに地域経済基盤が失われていくことも問題となっている（宮地 2007、pp.28-29；作野 2007、p.77）。農業生産額や農業所得の激減、農地面積の減少が引き続いて起きており、新規農業者の参入も進まず、産業としての持続可能性が喪失する危機にある。また、農村においても、過疎化や高齢化の進行、所得機会の減少が進んで疲弊し、地域コミュニティの維持すら困難となっているところもあるとされる（農林水産省編 2010、p.1）。

また、1960年代からの高度経済成長によって急速に都市化が進み、都市の外延的拡大に伴って、都市周辺村落は宅地や商工業地へと変化してきた（作野 2007、p.76）。さらに、農外労働市場の拡大は、農業部門から非農業部門へと農家から大量の労働力流出（その多くが若年労働力）を促し、農業労働力が一貫して減少したとされている（木村 2010、p.359）。こうして、都市近郊農村における農地の荒廃が進んできたと考えられ、問題解決が望まれている。

今後も都市近郊農村において農業が継続されるならば、食料自給率の低下を抑えられるとともに、農地が維持されることで結果的に都市近郊農村としての環境が保全され、都市近郊農村の社会も維持されていく事が期待されるであろう。こうした中で、農業者も、集落営農による大規模化を進めて農業生産収入を上げようとしていたり、農産物のブランド化を進めることで付加価値を高めて収益性を上げるなどして農業を継続させ、生き残りを図っている。これらの対策には金銭的なコストもかかるため、専業で大規模な農業経営によりまとまった所得を得られる地域であれば実施することも可能と考えられ、ある程度の有効性があると思われる。しかし、兼業で小規模な農業経営が中心で、農業所得が低いと推測される都市近郊農村で、集落営農による大規模化や農産物のブランド化といった対策を行うことは容易ではないと考えられる。そのため、このような問題の解決には、農業の協働的組織による大規模化や農産物の高付加価値化について検討したうえで、都市近郊農村を事例にした研究の積み重ねが必要である。

神戸学院大学人文学部3回生矢嶋ゼミでは、2011年9～10月に、「都市近郊農村のより良い環境作りと維持」をテーマに掲げ、兵庫県加古川市西神吉町鼎4地区（清水・長慶・富木・西脇）の農業団体長らを対象に、聞き取りを中心とした研究調査を実施した。

加古川市は京阪神大都市圏の衛星都市として高度経済成長期に都市化が進み、人口が大幅に増加した。鼎4地区は山陽本線宝殿駅北方2～3kmほどに位置する町内会単位の地区で、4地区のうち3地区が2005年の農業センサスの対象集落となっていた。残りの1地区は、2005年で対象から外れたものの、現在でも4地区

ともに農業が営まれていることから、県4地区は都市近郊地域に位置する農村といえる。なお、県4地区は加古川市西神吉町宮前に位置する神吉八幡神社の秋祭りの当番を合同で担当していることもあり、地区住民同士の交流が見られる。

現在県4地区においては、兼業化が進んでいるうえに農家の高齢化も進み、減反政策もあり、全体的に稲の作付面積は減少傾向にあるとされる。また、稲の作付が行われなくなった農地が、市街地や耕作放棄地となってきたと考えられる。さらに、県地区では農業を継ぐ人や新規に農業を始める人が少なくなっているなどの問題が生じているとされる。それによって、各地区単位での農業活動や水まわりに関する共同作業が実施困難になってきており、一部の地区の連携では解決できない状況にまでなっている。そうした中で、すべての地区で共通して抱えているとくに大きな問題は、後継者不足や農業の個人経営が困難になっている点である(2011年9月の聞き取り調査による)。

また、県4地区には、今後農業を維持していくために、営農組合といった農事組織や特産物の生産等の取り組みを行っている地区もある一方で、特別取り上げるような取り組みを行っていない地区もある。そのため、都市近郊農村の今後のあり方を検討するために、県4地区の中の地区ごとに比較を行い、協働的組織の設立や農産物のブランド化による高付加価値化といった取り組みについて県地区の農業のあり方から、今後日本の農業を改善していくための事例として示すことが本研究の目的である。

こういった問題は短期間で解決できるようなものではないと思われるが、少しずつでも解消するためには、栽培する農産物の品質を高め、ブランド力を高めることが一つの方法ではないかと考えられる。ただし、個人でそれを行うのは困難であり、ブランド力を付加するにもいくつかの課題があるため、協働的な組織を作って協力する必要があると考える。

そこで本研究では、農業におけるブランド戦略について、新聞報道から日本各地の先進的取り組みを示して検討する。続いて、農業における協働的な取り組み、そして営農組合のメリット・デメリットについて、文献や他県の集落営農マニュアルから明らかにする。さらに、兵庫県のエコファーマー制度を例として紹介し、取り組みの可能性について検討する。そのうえで、県地区においてのブランド米の生産や営農組合の組織化、エコファーマーといった取り組みを概略的に示す。これにより、県地区の農業における後継者不足、農業の個人経営や専業継続が困難であること、地区間の協力や活動にばらつきがあるといった問題点を乗り越え、県地区の農業が今後いかに活性化していくことができるかを導き出すための方法について検討する。

2. 地域の農産物ブランド化戦略について

これまで地域の農業が力を付けていくために、全国各地において農産物にブランド力を加えるさまざまな取り組みがなされている。農産物にブランド力を加えるにあたって最も重要なことは、なにがどこで作られ、それがどういう人の手に渡り伝わってきたかを明らかにすることであるとされる(玉村 2003、p.32)。

また、ブランドには、生産された農作物の安全性も必要と考えられている。農林水産省によると、農業生産工程管理(GAP)という活動が行われており、その内容は、農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行う持続的な改善活動というものである。これにより食品の安全性の向上や、品質の向上といった効果が期待されるため(農林水産省編 2012、pp.1-6)、消費者側にも、安心して農産物が購入できるといったメリットがあると考えられる(日本経済新聞 2011年8月13日付記事)。というのは、農産物がブランド商品として高値で取引されることによって、農業所得が向上し、生産者の意欲も向上しやすくなるからである。また、それに伴って農業の後継者があらわれる可能性もなくはない。そして、そのような農産物を食べて育った子どもたちが農業に関心を向ける可能性もあるだろう。以上のことから、農産物のブランド化は将来的に地域農業の

活性化にもつながっていくことが期待される。そこで、この節では農産物、とくに米について事例を取り上げ検討していく。

兵庫県豊岡市では、農家が一丸となってブランド米を開発している。コウノトリの野性復帰のための環境整備をきっかけとして、2003 年からは稲作に使う農薬を 7 割以上減らし、通常の倍以上の期間にわたって水田に深く水を張ることで、ドジョウやカエルなどコウノトリの餌となる生き物をはぐくむ農法を進めた。これにより米の収穫量は 1～2 割程度下がるが、豊岡市によれば取引価格は「魚沼産コシヒカリと同等」となっているという（日本経済新聞夕刊 2010 年 9 月 9 日付記事）。

一方、過去には米のブランド化に失敗した例もある。ホクレン農業協同組合連合会が開発した、北海道産の「ほしのゆめ」という品種である。味の評判はまずまずであったが、天候の不順やももとの生産量が少ないために生産量がまとまらず、消費者にブランドイメージが定着しなかった。また、農家の直販が多かったことで、集荷が進まなかった点も要因に挙げられている（日本経済新聞 1998 年 1 月 23 日付記事）。しかし、テレビコマーシャルを放映し、消費者にブランドイメージを植え付けたこともあって、その後は代表的な品種となった（日本経済新聞 2000 年 8 月 31 日付記事）。このことから、農産物のブランド化を成功させるためには、まとまった生産量を確保することや、消費者にブランドイメージを植え付ける取り組みを行うことが欠かせないと考える。

ただし、個別の農家や集落で、知名度の高い高価格の農産物ブランドを形成することは困難である。そのため、農業団体を組織することで、まとまった量を生産する体制の構築をしていくことや、農業の安心・安全を押し出した PR 活動を県内外に向けていくことが必要ではないかと考える。これらをふまえて、3 節においては、農業における協働的な組織の持つ可能性について考えていきたい。

3. 農業における協働的な組織の取り組みが有する可能性

県地区において、2 節で記したようなブランド農産物をつくりだすためには、一定量の生産が必要である。しかし、農家数の減少や後継者不足が各地で問題となっており、ブランド力の付加は容易なことではない。これに対して、集落・地域単位で協働的な組織を設立することにより、現状を打破していくことができるのではないかと考える。そこで、協働的な組織の代表的な例である営農組合を、農地の保全やブランド力の形成を行うための母体とすることができないか、営農組合で農作業を行うことのメリット・デメリットの面から検討する。

営農組合とは、集落を単位として生産工程の全部または一部について共同で取り組む組織のことである。法人経営の一般的なメリットとして以下のようなことが挙げられる。第 1 点として、経営管理（計数管理、人事管理）が行いやすく、賃金、社会保険、年金など身分保障制度の適用が可能である。第 2 点は、複雑化する農業経営に対して機能分担ができるということである。第 3 点は、人材確保の範囲が広がるということである。第 4 点は、対外信用力が高くなるということである（農政ジャーナリストの会編、1998）。

しかし、デメリットも指摘されている。まず、組織の都合に合わせて出資しなければならないので個人の自由が利かないことや、組合員の営農意識が低下して管理がおろそかになるといった事が挙げられる。そして、なによりもまず水田を提供してくれる地主が必要とされることである（おおいた集落営農マニュアルによる）。

また、法人ではない営農組合の場合でも、構成員の「和」を尊重するあまり、利益の向上の経営方針が立てにくいことや、リーダーの権限不足、責任体制が不明確であること、農地の利用調整機能が不十分で団地化等の計画的生産ができない（農地の賃借契約、転作の実施主体になれないなど）などの問題が挙げられている（おおいた集落営農マニュアルによる）。

4. 兵庫県におけるエコファーマー制度

現在の日本では食の安全が重要視されているため、エコファーマーの認定を受けて安全性をアピールしていくことも先々検討していくべき課題ではないかと思われる。エコファーマーの認定を受けることによって、ブランド農産物のさらなる高付加価値化や、営農組合の信用度を上げることができると考える。

エコファーマーとは、農林水産省が施行した持続性の高い農業生産方式の促進に関する法律（持続農業法）に基づいて、持続性の高い農業生産方式を導入する計画を作成し、知事の認定を受けた農業者の愛称の事である。その目的は、持続性の高い農業生産方式の導入を促進するための措置を講ずることにより、環境と調和のとれた農業生産の確保を図り、健全な発展に寄与する事である。その内容や指導方針は各県ごとで異なっており、兵庫県の場合は表3の通りである。

表3 兵庫県におけるエコファーマー制度認定の方針

内容	備考
県は、地域の特性に即した持続性の高い農業生産方式を明確化する（導入指針の策定）。	
県は、農業者に対し、導入指針達成のために、必要な助言、指導、資金の融通のあっせん等援助する。	
県は、農業者からの導入計画について、適切なものであるときは認定する。認定の有効期間は5年間。	
農業者に対し、農業改良資金（標準需要額の増、償還・据置・返済期間の延長）の特例措置を設ける。	
県は、認定導入計画の実施状況の報告を求めることができる。	報告しない、又は虚偽の報告をした者は、10万円以下の罰金に処する。

出典：兵庫県庁ホームページより

量販店のバイヤーのなかには、「ガイドライン」に準じて策定されているところの多い都道府県の認証策定農産物よりも、エコファーマーの生産した農産物や国のガイドライン表示のある農産物を求める者も少なくないとのことである（宮地 2007、P.54）。さらに、農産物に添付するシールやポスターなどにエコファーマーマークを使用することが許可されるので（兵庫県庁ホームページ「エコファーマーについて」より）、消費者や量販店など買い手に対してのアピールとなるだろう。

以上の点から、エコファーマーに認定されるということは、食の安全性をアピールする方法の一つになるのではないだろうか。

5. 鼎地区の農業が抱える課題と農業のあり方についての検討

(1) 鼎地区の農業

兵庫県加古川市西神吉町鼎 4 地区は、清水・長慶・富木・西脇の 4 集落からなる。現在、地域で広く栽培されているとされる主要作物は稲と麦であり、トマトやキャベツといった野菜は自家消費用が中心であるという。稲について図 2 をみると、近年の富木地区を除いて、作付面積が減少傾向にあることが分かる。関係者からの聞き取りによれば、減反政策への対応が主たる要因であるとのことである。減反政策に対しては、清水地区以外の 3 地区が連携し、毎年ローテーションで休耕田の担当を替えている。休耕田においては、長慶地区ではコスモス、富木地区ではレンゲ、西脇地区では麦を栽培しているとのことである。

富木地区と西脇地区は農作業などにおいても連携しているが、大型農業機械はそれぞれの地区で保有している。長慶地区と西脇地区には両地区西部を流れる法華山谷川を水源とするユミゾとよばれる用水路が通っており、カモメ池に水が流れ込んでいる。そのため、両地区がカモメ池の水利権を持っており、水利組合が年に一度のカモメ池の清掃活動を行っている。

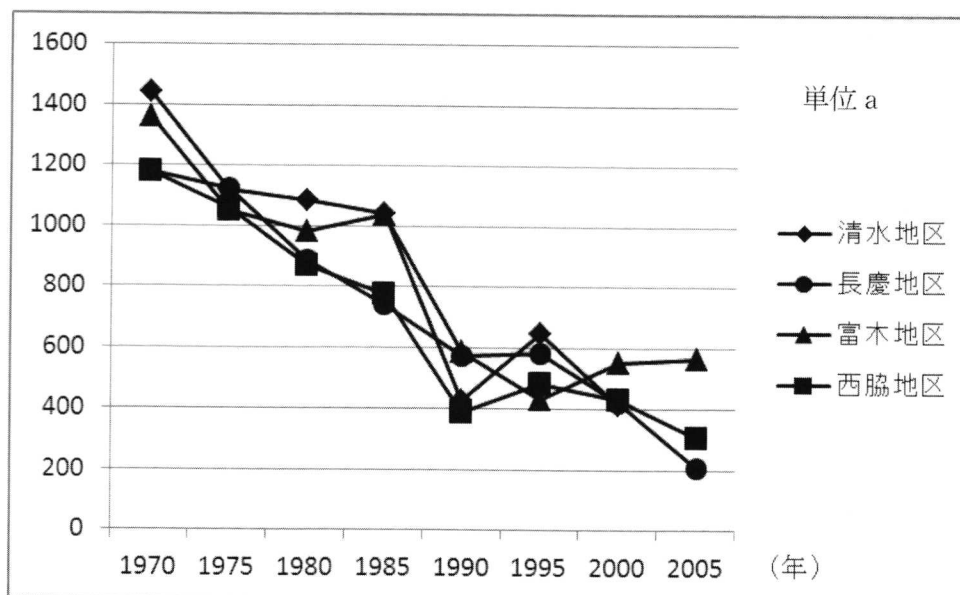


図 2 鼎 4 地区における稲の作付面積の推移
2000・2005 年の農業集落カード

現在の鼎地区においては、兼業化が進んでいるうえに農家の高齢化も進んでいる。鼎 4 地区における農家数を示した図 3 によれば、とくに 1980 年代以降各地区の農家数が著しく減少してきたことがわかる。中でも清水地区の減少が著しく、2000 年では 6 戸にまで減少し、2005 年には清水地区が農業集落の対象から外れるまでになった。農林業センサス農業集落カードの対象となるのは、農家数が 5 戸以上の集落であり、2005 年の清水地区では農家数が 4 戸以下にまで減少しているとみられる。

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、
伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

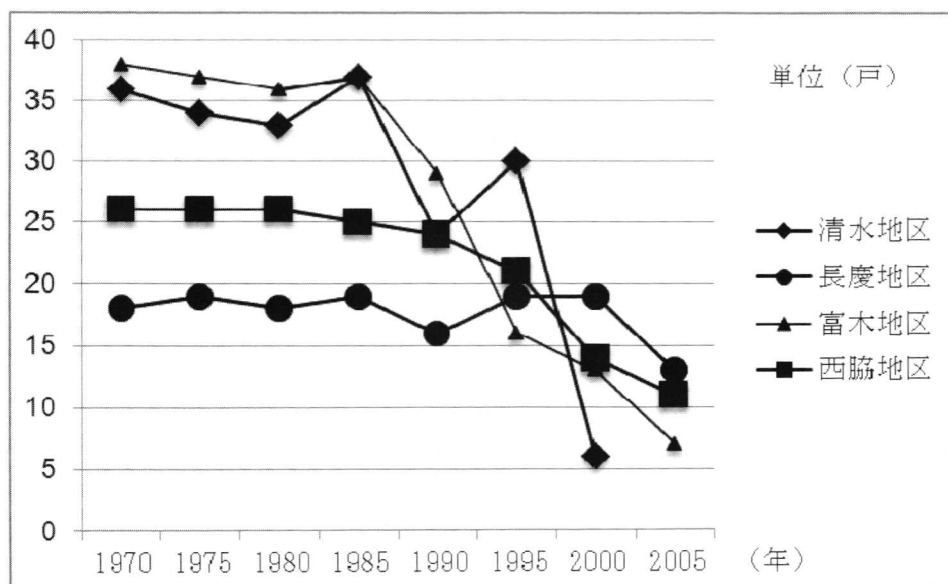


図3 県4地区における農家数の推移

出典：2000・2005年の農業集落カード

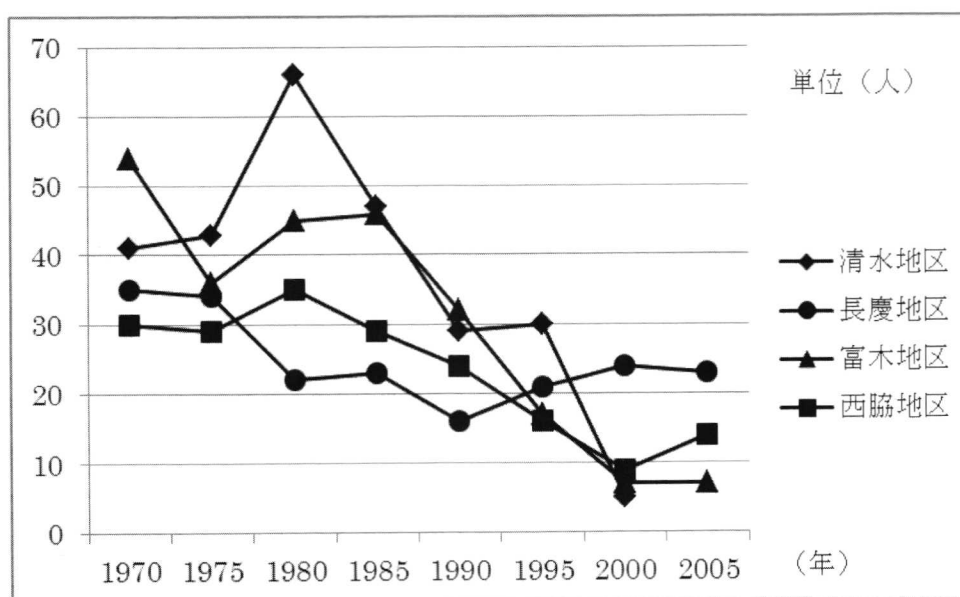


図4 県4地区における農家就業人口の推移

出典：2000・2005年の農業集落カード

また、県4地区における農家就業人口について示した図4によれば、1970年に比べると、どの地区においても一様に農家就業人口が減少してきていることがわかる。農家数が減っているため、この先増えていくとは考え難い。

以上から、県4地区の清水・長慶・富木・西脇のいずれの地区においても農業者が減少し、今後農業を個人で経営していくことが困難な状況になってきているといえる。

(2) ブランド化のとりのくみ

現在、加古川市志方町高畑地区において、「鹿児の華米」というブランド米が栽培されている。同地区は県から北方約 2 km の位置にある。鹿児の華米は、加古川市、兵庫県農業普及センター、JA 兵庫南、そして加古川の米穀店の団体である加古川米穀商連合会などの団体で構成される加古川ブランド米推進協議会の管理・指導により、生産・販売されているブランド米で、品種はコシヒカリである。農事組合法人である志方東営農組合高畑支店のみで生産されている（志方東営農組合ホームページ）。志方町高畑地区の土は粘性があり、米作りに向いているという理由から、この地で栽培がスタートしたとされる。通常の米の栽培よりも農薬や化学肥料の使用を極力減らした減農薬・減化学肥料栽培であり、地産地消を目的に加古川市内の小学校の給食にも使用されている（メイド・イン・加古川応援委員会事務局ホームページ）。

富木地区農業団体長への聞き取りによれば、「鹿児の華米」を県地区で生産することは、志方東地区と県地区における田植え時期の違いや、地区間のライバル意識が強いという点などから困難であるとされる。だが、志方町高畑地区は西神吉町県地区の近隣であり、県地区の土壌も志方町高畑地区のそれに類似している可能性が高いと考えられるため、県地区でも鹿児の華米に近い高品質の品種の米を栽培し、ブランド化させることは不可能ではないと考えられる。

また、1 節で述べたように、農産物のブランド化を成功させるためには、まとまった生産量を確保する必要があるとされるが、県 4 地区においてブランド形成を実現するためには、農家が個々に栽培するのではなく、県 4 地区でより大規模な協働的組織を作り、品質向上のための作付け指導も含む徹底した技術研修などを行ったり、協働による作業効率化をはかることが必要であろう。

(3) 協働組織の可能性

県 4 地区では、農業就業人口が減少して後継者も不足し、農業の個人による経営が困難になってきている。清水・長慶の 2 地区では営農組合は設置されておらず、農業は個人によって行われている。また、富木地区には営農組合があるが、小規模なものであるという。西脇地区の営農組合では、比較的活発な活動が行われている。

聞き取りによれば、自分の畑を自分で管理したいという考え方から、営農組合に参加したくない自給的農家もいるとのことだった。そのため、県 4 地区をまとめるような営農組合を設立することは決して容易なことではないといえる。とはいえ、一つ一つの地区では規模が小さく農家の数も減少してきているため、今後強力なブランド力を形成し、小規模な地区ごとの取り組みで成果を出していくことは、実際容易なことではないと思われる。こうした状況を考えると、やはり 4 地区が協力して何らかの協働的な営農組織を作る必要があるのではないだろうか。それにより、作業の協働化が進むうえに人材確保の幅も広がり、複雑化する農業経営に対して機能分担が可能となる。

その実現のため、協働的な組織を設立した場合のメリット・デメリットを地区の農家や農地所有者に対して十分に説明を行い、理解と協力を得ていく必要がある。その方法の一つとして、この地域に根付いているつながりを利用することが考えられる。県地区では、東神吉町の神吉・天下原と、西神吉町の大国・西村・中西・宮前・県の氏神である神吉八幡神社の秋祭りの当番を県 4 地区合同で担当しているため、県 4 地区の古くからの農家はお互いに顔が見えていると考えられる。そこで、これをきっかけとし、ここから農家同士の連携を深めていくことができるのではないだろうか。

以上から、県 4 地区で協働的な組織を設立することを、農産物のブランド形成へつなげていく可能性として指摘したい。

(4) エコファーマーのとりくみ

兵庫県ホームページのエコファーマー認定状況によれば、加古川市では、2007年10月に1名、2010年10月に1名の、わずか2名が認定されているにすぎない。

聞き取りによれば、エコファーマー制度について、「全く知らない」あるいは「知っていても興味がない」、「一概に賛成とは言えない」、「大いに関心がある」など、認知度に大きな差があることがわかった。また、聞き取りで得られた情報の限りでは、調査時点では鼎地区にエコファーマーはいないとみられる。

エコファーマーの認定を受けることは個人でも可能ではあるが、協働的組織を設立して取り組むことで、個人で行うよりは認定を受けやすいものと思われる。現代の日本では、農業を減らすことや安全性の追求が時代の趨勢となっていることから、農産物に安全という付加価値をつける方法の一つとして、エコファーマー認定を進めていくことも有効ではないかと考える。

6. おわりに

本章では、農産物のブランド化について全国の具体的な取り組みについて取り上げ、ブランド力の形成には組織による取り組みが有効であることを指摘した。次に、協働的組織を設立することのメリットとデメリットについて指摘したうえで、それでもなお協働的組織を設立することの意義について述べた。さらに、ブランド農産物の高付加価値化と協働的組織の信頼度向上につなげる点からエコファーマー制度導入の有用性について示した。以上をふまえたうえで、都市近郊農村である鼎4地区を事例に、農産物のブランド化の可能性、協働的組織の有用性、エコファーマーの現状と課題について示し、農業の維持・活性化について検討した。

その結果、鼎4地区において農産物のブランド形成の可能性があることや、エコファーマー認定が高付加価値化につながる可能性を指摘した。さらに、鼎4地区による協働的な組織の設立は容易ではないものの、神吉八幡神社の秋祭り当番のつながりが組織化のきっかけとなりうる可能性が示された。ただし、4地区にまたがる協働組織の設立をいきなり促すのは困難であると考えられる。4地区の農業者どうしが顔をつきあわせてよく話し合い、農業従事者に理解を深めていく機会を設けていくことが必要であると考えられる。

今回の研究では、鼎4地区の農業の維持・活性化のための取り組みについて検討したが、現状ではそれによって具体的にどのような成果が上げられるのかまでは明らかにできなかった。今後、鼎4地区におけるこれらの取り組みによって成果を上げられることが確認できれば、他の都市近郊農村においても同様の成果を期待できるのではないだろうか。そのためにも、今後さらにこの研究を深めていく必要がある。

1.5 都市近郊農村における高齢化社会に対応した交通システムに向けて

交通・消費班

小野智之・白井貴志・西島佑紀・水野綾菜

1. はじめに

日本におけるモータリゼーションは、高度経済成長に伴う国民所得の向上と、安価な大衆車の登場などをきっかけに、1960年代から始まっていった(田中2009)。日本の自動車保有台数は、1966年から2007年の間に、約812万台から約7,924万台まで増加した(財団法人自動車検査登録情報協会ホームページによる)。これに伴い、日本各地で遠距離通勤を自家用車で行うケースが増加し、通勤・通学などによる自家用車の利用が勤務地と居住地の分離を促す一つの要因となったとされる(交通評論家集団1975)。

一方で、自家用車の普及は、モータリゼーション以前の日本において都市郊外地域の移動を担ってきた路線バスなどの公共交通機関の運行本数の減少や路線廃止などをもたらしてきたとされる。一般に、公共交通機関

が時刻表や路線図を一度作成すると、利用者がゼロの状態でも定期的に運行する必要がある。そのためモータリゼーションで利用者数が減った都市郊外地域のバス路線ではバスの燃料や人件費などの経費がかさみやすく、財政状況が逼迫している地方自治体の場合にはこうした公共交通機関の維持は難しい。このため、国内における公共交通機関の利用者が特に地方において減少すると、利用者が減少したバスや鉄道が経営難に陥って、運行本数の減少や路線廃止へと至ったとされる（田中 2009）。

モータリゼーションは消費行動にも影響を及ぼした。自家用車の普及に伴い、特に郊外地域において居住地と買い物先が必ずしも隣接している必要がなくなってきた。その要因の一つとして、1973年に施行された小売店舗の大規模な営業を規制する大規模小売店舗法が廃止され、2000年に大規模小売店舗立地法が施行されたこともある。この法律では、店舗面積が1000㎡を超える大型商業施設の設置に際して、駐車場の確保や騒音の抑制、廃棄物の保管のための施設を用意する必要が生じた（経済産業省ホームページ「大規模小売店舗立地法の施行」による）。このため、1000㎡を超えた大規模な商業施設が、駐車場や廃棄物の保管に必要な土地代が中心市街地と比較して安価な都市郊外地域に進出するようになったとされ、巨大店舗が出店しやすい幹線道路沿いに新規出店する傾向が強まった（矢作 2005）。

郊外地域において展開してきた大規模商業施設は、それまで地域住民が買い物先として利用してきた個人商店と比較して、営業規模が大きく取扱品目も多いことから、自家用車を保有している都市郊外地域の住民にとって、魅力的な商業施設であったとされる。それにより、日本各地の個人商店などの小規模な商業施設が、間接的に廃業に追い込まれたとされる（矢作 2005）。

他方、日本の総人口は2007年をピークに減少傾向に入っており、2025年には老年人口が30パーセント台に突入することが予測されている。住民の高齢化が進むことにより、自動車利用を前提とした大規模商業施設での買い物は困難になってくることが考えられ、今後の公共交通機関のあり方が課題となる。また、人口が減少するにつれて消費者も減少し、消費行動の縮小が見込まれるため、個人商店などの小規模商業施設の減少に加えて、買い物先の中心となってきている大規模商業施設の経営にも影響が及んでくる可能性もある。そうした施設が今後撤退するようなことになれば、地域における消費行動の減退や地域経済の低迷が予想される。また、大規模商業施設が撤退すれば、来街者の減少、失業者の発生、税収の減少といったように、地域経済にも影響を及ぼすことが予想されている（矢作 2005）。

神戸学院大学人文学部3回生矢嶋ゼミでは、2011年9月から10月にかけて、兵庫県加古川市西神吉町鼎地区でフィールドワークを行った。その際、9月2・4・17日に、鼎4地区の農業団体長を中心とする各地区の代表者に対して、鼎地区の住民の交通手段や消費行動の変化についての聞き取り調査を行なった。また、9月4日には鼎地区の交通や商業施設の実情を視察した。それらを踏まえ、本研究では鼎地区住民の交通手段と買い物先との関係性について明らかにしたうえで、人口が減少傾向にある都市郊外の農村地域における今後の消費行動を支える交通手段のあり方について検討していく。

聞き取りによれば、鼎地区では高齢化が進んでいるうえに、2011年現在において路線バスの本数が少ない。また、コミュニティ交通も導入されていないことから（「加古川市地域公共交通アクションプラン」による）、主たる交通手段として自家用車に依存する状況となっていると考えられ、本研究課題の研究対象地域として妥当である。

そこで、まず鼎地区における交通手段の変遷や地域住民が利用する買い物先について、地図を用いて空間的に検討する。また、加古川市が交通計画として策定した「加古川市公共交通プラン（公共交通体系基本計画）」（2006年策定）、「加古川市地域公共交通アクションプラン」（2011年策定）について、鼎地区を念頭に置いて検討を行なう。そのうえで、都市近郊農村をはじめとした大型商業施設の建設に伴う問題を検討した矢作（2005）や、郊外地域における持続可能な交通システムについて研究した田中（2009）を参考にして、財政

状況が逼迫している地方自治体におけるより効率のよい、地域住民や高齢者にとって便利な公共交通機関の整備についてのあり方について、鼎地区を事例に模索する。これにより、自家用車に頼らずとも持続可能な消費行動を可能とする地域社会の実現につなげていくきっかけづくりに貢献することが期待される。

2. 高齢化社会とコミュニティ交通対策

総務省統計局政策統括官（統計基準担当）統計研修所の「人口の推移と将来人口」（発行年次記載）によると、日本の総人口は2007年をピークに減少傾向に入っており、2025年には老年人口が30パーセント台に突入することが予測されている。人口が減少すれば、消費者の減少や消費行動の縮小が見込まれる。そのため、個人商店などの小規模商業施設がさらに減少していくものとみられることに加え、買い物先の中心が大型商業施設になってきている都市郊外地域において、今後大規模商業施設が撤退することもあり得なくはない。

また、現在公共交通機関が縮小した地域では、公共交通機関が再度整備されないまま、自家用車中心で移動せざるを得ない状態が続いた場合、高齢化の進展とともに、高齢者が自家用車を運転する頻度は高まるものとみられる。一般に、高齢者ドライバーは一般ドライバーに比べて認知・判断・操作の各プロセスが劣っているとされ、自動車運転による交通事故の増加も心配される。一方で、こうした状況を踏まえて、高齢者に運転免許証の返上を求める政策も各地で進んでおり、自動車を運転しない高齢者が増加することが予測されている（清水2004）。そのため、このような生活全般において自家用車に依存している地域においては、今後公共交通機関の整備が重要な課題であるといえよう。

福島県商工会連合会が、主に高齢者向け新規サービスとして、福島県旧小高町（現南相馬市）に導入した交通システムに、「おだかe-まちタクシー」がある。このサービスは主に高齢者の移動の手助けとなることを目的としていて、デマンド型交通システムという手段を用いた実証実験を1999年から3度実施している。

かつて、小高町ではいくつかの路線バスが運行されていたものの、乗客数が少ないために、廃止もしくは運行本数を減少せざるを得ないという状況となった。そのため、地域住民からは高齢者向けの福祉バスを運行してほしいという要望が出ていたが、福島県商工会連合会の試算によればバスの導入には、運行を民間委託したとしても年間約2,300～2,700万円かかることが予測され、財政が逼迫する自治体にとっては大きな負担となることが見込まれた。そこで、小高町は財政状況を勘案しつつ、高齢者福祉サービスを提供する手段として、デマンド型交通システムで既存のタクシーを乗合方式に転換することを決めたのである（おだかe-まちタクシーホームページ「誕生の背景」）。

デマンド型交通システムとは、一般的な路線バスやコミュニティバスと違って、利用者の予定をあらかじめ把握したうえでの運行を行う交通である。主にタクシー会社が乗合型タクシーとして運行を行う。利用者はあらかじめタクシー会社に乗車する便と区間を伝える必要があるが、タクシー会社にとっては利用者数に応じて運行車のサイズを選択でき、利用者がいない場合は運休することができるため、利用者がゼロの場合でも運行しなければならない一般的な路線バスに比べて、バスの燃料や人件費など、輸送にかかる経費を下げることが可能とされる（田中2009）。

全国デマンド交通システム導入機関連絡協議会によれば、デマンド型交通システムは2007年度末までに36の市町村で導入されている（田中2009）。デマンド型交通システムでは利用者からの電話予約をもとに、利用場所と時間の情報を集約して、地元タクシー会社にオンラインで配車を請求する場合と、オンラインシステムは導入せず利用者が直接タクシー会社に電話し、タクシー会社が直接配車するケースの2つのパターンがある。なお、オンラインシステムを導入している乗合タクシーとしては「おだかe-まちタクシー」があり、岩手県雫石町では、タクシー会社が直接配車を行う乗合タクシーのものがある（田中2009）。

3. 近年の加古川市におけるコミュニティ交通対策

1999 年から 2005 年にかけての加古川市における自動車保有台数は、16 万 5500 台から 16 万 8700 台へと増加傾向にある。聞き取りによれば、住民自らも自動車保有台数の増加により、交通量が多い幹線道路では日常的に交通渋滞が引き起こされてきていると考えているようである。自家用車の利用の増加に伴い、神姫バスなどの公共交通機関では利用者の減少が問題となっている（「加古川市公共交通プラン」より）。一方で、加古川市では高齢者の割合が 2005 年には 16.9%であったのに対し、2015 年には 23.4%、2030 年には 26.9%になると予測されている（「加古川市公共交通プラン」より）。

加古川市では公共交通機関の課題として、地域公共交通のより効果的で効率的な運営、公共交通の利便性向上と利用者増加、公共交通不便地域の解消、車移動制約者の移動手段確保が挙げられている（「加古川市地域公共交通アクションプラン」による）。そこで、加古川市は、解決方法の一つとしてコミュニティ交通である「かこタクシー」の整備を進め、2005 年 6 月から加古川市西市民病院から西原公民館の区間で導入した。現在では、志方、東西神吉、米田地区の一部で導入されている（加古川市ホームページによる）。「かこタクシー」は、平日は午前 6 時半から午後 10 時まで、土日祝日は午前 7 時から午後 7 時半まで運行していて、運賃は最大 200 円までとなっており、年間 2 万人が利用しているとされる（加古川市ホームページ「加古川市コミュニティタクシー「かこタクシー」について」）。

また、加古川市が 2006 年に発表した「加古川市地域公共交通プラン」によれば、今後の人口減少や高齢社会に対応し、なおかつ道路交通渋滞の要因となる自動車利用を減少させ、公共交通機関の見直しや整備を行う必要性を唱えている。そのための施策として、例えば鼎地区を含む志方・東西神吉・米田地区においては、既存の路線バスの再編・拡充やコミュニティバスの導入が必要であると指摘している。

さらに、2011 年には、加古川市の財政状況を考慮して「加古川市地域公共交通アクションプラン」が策定された。このプランでは「かこタクシー」などの効率的な運営を目指して、コミュニティ交通の導入地域を選択し再構築することで、残された公共交通不便地域に新たな地域公共交通の導入を進めるとしている。

しかし、現状のコミュニティ交通である「かこタクシー」や既存の神姫バス路線などは、時刻表や路線図を保有する定期便であるために、利用者が少ないときにかかる人件費や燃料費がかかってしまうという問題があると考えられる。このため、「かこタクシー」や既存の神姫バス路線に対して経済性・公共性の観点から評価基準を設定し、評価基準を満たさない場合には見直しや再編を検討しているという（「加古川市地域公共交通アクションプラン」による）。

4. 鼎地区における交通手段の変遷と消費行動

(1) 交通手段の変遷

日本の高度経済成長によって全国各地に自家用車が普及し始めるまで、農村で自動車が走っている光景は珍しいことであった。自動車は現在と比べて非常に高価なものであった。

モータリゼーション以前の日本各地の農村においては、馬に貨物輸送を行わせ、牛に農耕作業を手伝わせることが多かった。聞き取りによれば、鼎地区においても 1955 年頃の貨物輸送では馬が使われており、おもに家の基礎となる石を運んでいたということから、現代の軽トラックの役割を担っていたと思われる。牛は田畑を耕すなどの農耕用として使用されていた。

旅客交通においては、神姫バスが鼎地区唯一の公共交通機関であり、かつてラッシュ時には 1 時間に 3 本ほど走っていたという。また、身近な移動手段としては自転車が普及しており、聞き取りによれば、自家用車が各家庭に普及する以前には、自転車で姫路まで行くこともあったという。

聞き取りによれば、鼎地区での自動車の普及は、商社を営む人が荷物を載せるための荷台つきの軽トラッ

クを購入したことが始まりである（時期は不明）。1965年頃になると一般家庭にも自家用車が普及し始めたという。それまで鼎地区内の道路は砂利道であったが、自動車の普及とともにアスファルト舗装が整備されてきたという。

(2) 鼎地区における交通手段と消費の現状

聞き取りによれば、鼎地区住民の現在の生鮮食料品や雑貨品、家電製品の購入先のほとんどは大規模商業施設であり、それらの多くが加古川バイパスや国道2号線沿いに立地している（表4、図5参照）。このうち、大規模商業施設のほとんどは鼎地区から遠く、Google MAPによる所要時間検索によれば、鼎交差点から最も遠い「ヤマダ電機テックランド New 加古川本店」は10.7 km離れていて、自動車で約21分程度の時間を要するとされる。聞き取りの限りでは、現在こうした買い物先に向かうために、ほとんどの場合で自家用車が利用されていることが明らかになった。

鼎地区の中でも最も宝殿駅に近い長慶地区の住民からの聞き取りによれば、自家用車の利用は買い物先への移動だけでなく通勤にも利用されている世帯も多い。このため、鼎地区の住民は通勤の移動手段と、買い物先への移動手段として自家用車を目的別に複数台所有している世帯が多く、自家用車があるから買い物先が遠くても不自由していないという。さらに、自家用車を保有していなくても、親戚が近隣に住んでいる場合には、親戚の自家用車を利用して移動を行う世帯もみられる。鼎地区は、加古川市がコミュニティ交通として導入したコミュニティタクシーである「かこタクシー」の導入地域には含まれていない。その理由として、現在鼎地区には、神姫バスが唯一の公共交通機関として地区を走行していることが考えられる（「加古川市公共交通アクションプラン」より）。しかし、運行本数が少なく、6時以前と20時以降は運行されていない（図6参照）。また、地区内における走行路線は1本で、バス停も県道の長慶、西脇の2ヶ所に限られており、高齢者が便利に利用できる状態とはいえない（図7参照）。

以上から、都市近郊農村である鼎地区においては、自家用車が主たる交通機関となっており、現時点では買い物も自家用車中心となっている。一方で、唯一の公共交通機関である路線バスは利用しづらい状況となっている。

3節で触れた「加古川市公共交通プラン」の指摘のように、高齢化が進んだ将来に向けて、鼎地区を含む西神吉町においては、既存の路線バスの再編やコミュニティバスの導入などの抜本的な対策が必要であると考える。

表 4 鼎地区の住民が利用する買い物先と鼎交差点からの距離と移動時間

店舗名	鼎交差点から車での移動時間	鼎交差点からの距離
＜生鮮食料品・雑貨品購入先＞		
銀ビルストアー志方店	3分	1.1km
コープこうべ神吉店	9分	2.5km
スーパーみやび西神吉店	5分	1.7km
ナフコ西加古川店	11分	5.2km
パルプラザ	4分	1.4km
マックスバリュ加古川西店	11分	5.2km
マックスバリュ宝殿店	8分	2.8km
本岡商店	0.5分	0.2km
＜雑貨品購入先＞		
ナフコ西加古川店	11分	5.2km
モリスドラッグ調剤薬局アイモール高砂店	11分	5.2km
＜家電製品購入先＞		
キヨタ電器	3分	0.6km
ジョーシンイオンタウン加古川店	12分	5.6km
ミドリ電化ニッケパークタウン店	13分	5.8km
ヤマダ電機テックランドNew加古川本店	21分	10.7km

Google map 所要時間検索より作成

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、
伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ



- ・・・生鮮食料品購入先
- ◆・・・家庭用雑貨品購入先
- ・・・家電製品購入先

図5 県地区住民の現在の主要買い物先店舗の位置

注1 聞き取り調査による。

注2 アトラス RDA4 近畿道路地図（2002年発行）に加筆

平日	行先	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
	宝殿駅～加古川駅(0)		宝28	宝12 宝58	38	15	40		10	10	10	10	10	宝09 59	宝34	宝16 宝51
土曜日	行先	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
	宝殿駅～加古川駅(0)			宝48	31	50	44		14	10			宝09 59	宝29	宝14 宝59	
日祝日	行先	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
	宝殿駅～加古川駅(0)			宝48	31	50	44		14	10			宝09 59	宝29	宝14 宝59	

宝…宝殿駅行き

図 6 神姫バス 西脇停留所の時刻表

注 神姫バスホームページより転載 (2011年11月閲覧)

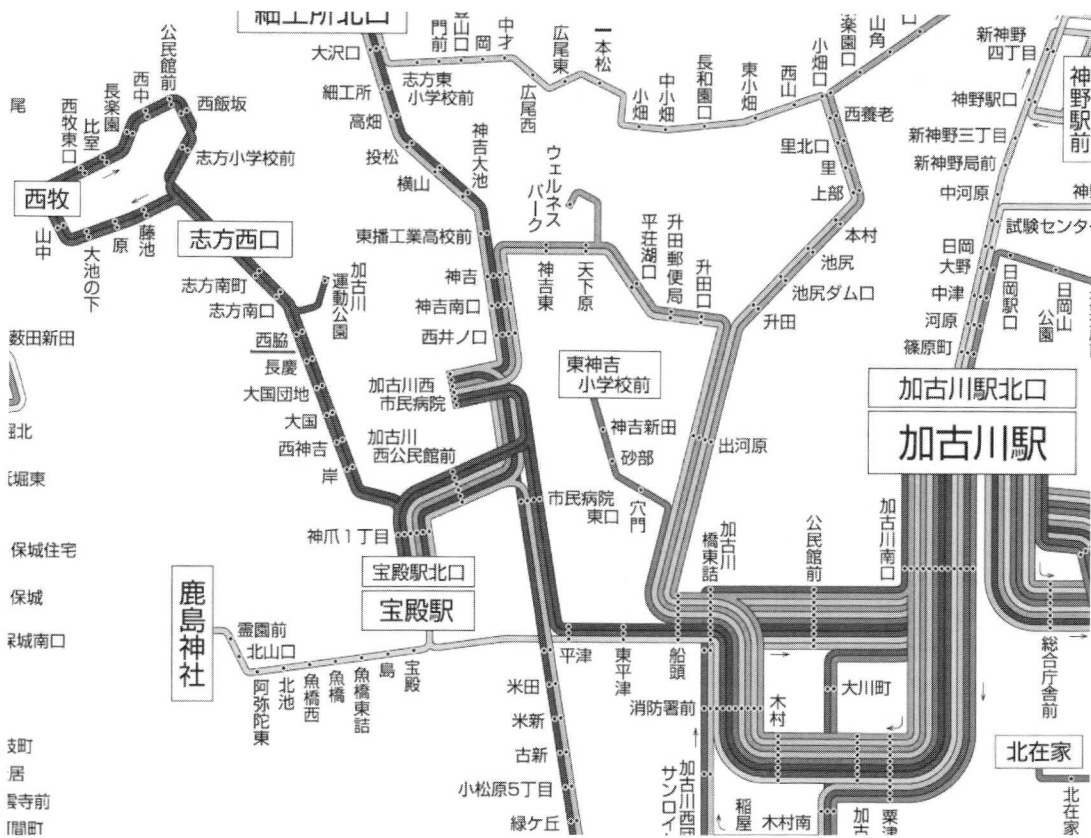


図 7 県地区付近における神姫バスの運行系統図

注 神姫バスホームページに掲載される「加古川・北条運行系統図」より転載 (2011年11月閲覧)

5. おわりにかえて

都市近郊農村である県4地区においては、人口が減少傾向にある中で高齢化が進展してきているとされる。そうした状況の中で、買い物先への交通手段は自家用車利用が中心で、比較的遠距離の大型商業施設が買い物先の中心となっていることが明らかとなった。

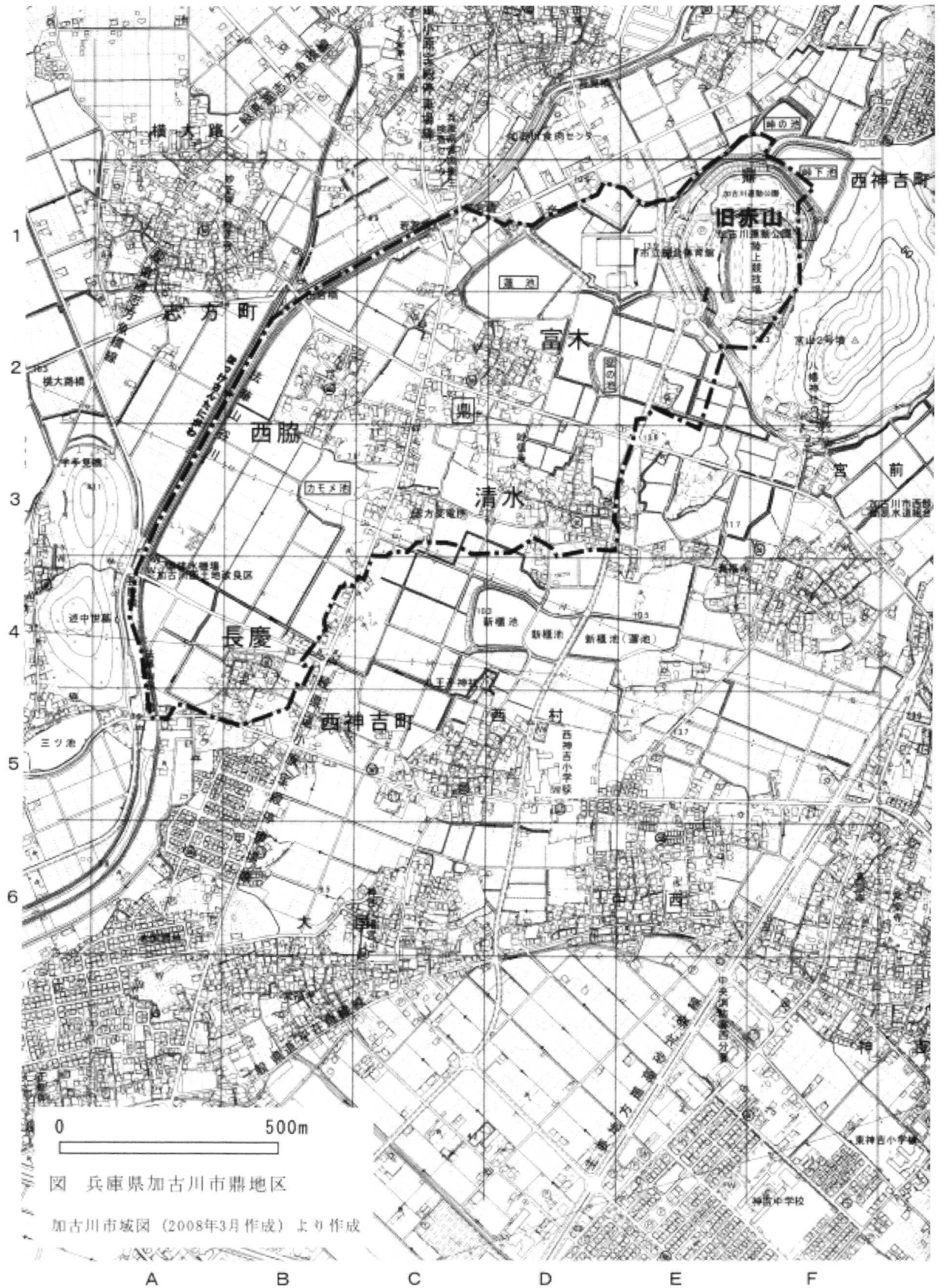
加古川市にはコミュニティ交通である「かこタクシー」が導入されているが、この「かこタクシー」をデマンド型交通システムに転換することで、小高町の事例のようなきめ細やかなコミュニティ交通が実現できる可能性は高い。また、この手法のメリットとして、初期の設備投資にかかる費用を安くすることが可能であると考えられる。仮にこうした取り組みが実現したとするならば、「かこタクシー」が導入されていない他の地域においても、自動車免許を返納した高齢者など自家用車を保有しない、あるいは運転できなくなった地域住民にとって、利用しやすい交通手段となるのではないだろうか。

しかし、4節で指摘したとおり、すでに神姫バスが公共交通機関として存在していることから、こうした取り組みの導入が容易ではないことは確かである。とはいえ、地域住民のニーズや実情に合わせて早期から必要な施策をとっていくことで、都市近郊農村のような人口減少地域の魅力が再び高まっていくことにもつながる。そのためには、地域住民からの働きかけが重要である。加古川市から働きかけられるのではなく、県4地区の住民自身からデマンド型交通の導入を働きかけることによって、自家用車に頼らない地域づくりの実現へとつなげていくことが必要である。

そのためには、県4地区の住民が協働して加古川市に提案を行っていくことが望ましい。県4地区では神吉八幡神社の秋祭りの担当を4地区が合同で担当していることから、県4地区で協働することは十分に可能ではないかと思われる。県4地区の地域住民と加古川市が協働していくことで、地域における将来の交通と消費の問題が解決される方向へ向かい、地域社会の維持へとつながっていくことが期待できる。

現在の日本の都市近郊農村においては、県地区のように買い物先が徒歩の移動圏内に存在しない地域は、各地に存在しているとみられる。こうした地域の住民の買い物先は、バイパスや幹線道路に隣接する大規模商業施設などが消費活動の中心となっていると思われる。しかし、人口減少社会に突入した現在、人口減少が地域の消費の縮小をもたらした場合、消費活動の中心的存在である大規模商業施設が撤退する可能性もある。また、老年人口が2025年には30パーセント台に突入することが予測されている現在、買い物先への交通機関の確保は重要な課題である。

なお、公共交通を維持するための抜本的解決のためには、根本的な発想の転換も必要ではないだろうか。現在、公共交通機関のほとんどが、利用者から運賃を徴収して収入を得る独立採算制で経営を行っている。そこで、携帯電話の利用者から固定電話の赤字の一部を通信業界からの拠出で穴埋めする「ユニバーサルシステム料」のように（朝日新聞2006年9月16日朝刊記事）、増加傾向にある全国の自家用車の保有者からも税金として公共交通機関の維持費を支払うなどのシステムを整備することができれば（土屋2009）、デマンド型交通システムの拡充を図ることができるばかりでなく、既存の路線バスの運行本数の増加や料金の改定など、公共交通機関そのものの拡充につながり、地域で路線バスの利用促進が図られるのではないかと考える。そして、それにより、地域と行政が高齢化社会に対応した地域づくりに協働して取り組む一つのきっかけとなることを期待する。



1.6 おわりに

以上、県4地区における、地域社会、自然環境、農業、交通と消費の4分野についての聞き取り調査を中心とした研究結果について、分野ごとにまとめた。

まず、地域社会という点からは、各地区の人口が小規模で、若年層が減少して高齢化も進み、地域行事の運営が困難になっていることが指摘された。自然環境の点では、4地区に共通する問題が多いものの、対応策や各地区の認知度に差がみられた。農業の点では、後継者が不足しているうえに、今後の持続的な経営が困難な状況であるとした。交通と消費という点では、今後さらに高齢化が進むことによって、地域住民の自家用車利用が困難になっていくと、自家用車での来客を前提とした大規模商業施設での買い物が難しくなっていくことが予想される。

これらの問題を解決するためには、まず地域社会という点では、行事の規模を大きくして運営の負担を減らし、参加者数を増加させていくことが必要であろう。自然環境の点では、県4地区の協力による解決策の模索が有効である。農業の点からは、規模拡大を図っていくことが必要であり、それにより農作物のブランド力形成も可能になっていくことが考えられる。交通と消費の点からは、地域からデマンド型交通システムの導入を働きかけることが必要となろう。

これらを実現するために、一つ一つの地区で対策や働きかけを行なっていくことは容易ではない。より大きな規模の単位で対応していくことが必要である。その場合、西神吉町のような単位では地域差が大きいために問題が地区によって異なり、まとまっていくことは簡単なことではないと思われる。いくつかの波が合わさってうねりができあがっていくように、いくつかの地区が合わさることでこうした対応や働きかけが実現できないだろうか。神吉八幡神社の秋祭りの当番を担当する、県4地区という枠組みであれば、すでに顔見知りの人が多いため、こうした問題に協働して対応していくことが可能ではないだろうか。それにより、問題の解決にあたることのできる人が増え、これらの取り組みを継続的に行うことが可能となるとともに、各分野の問題を町内会の枠組みを超えて、相互的に解決できる可能性が高まるのではなかろうか。

上に挙げた問題は東播磨地域に共通していえる問題である。それは、東播磨地域では、ため池が農業用水源の中心となっており、東播磨地域がため池を中心とした水辺環境、地域づくりを推進しているからである。水辺環境の点からいえば、県4地区はため池からの農業用水に大きく依存しているため、県4地区でよりよい水辺環境を次の世代につなげていくためには、いなみ野ため池ミュージアムのさらなるバックアップの活用が欠かせない。先に述べた取り組みが東播磨地域に広がっていった際には、いなみ野ため池ミュージアムがさらに重要な役割を果たすと思われる。

今後、県4地区が協働してこれらの取り組みを実施していくことができれば、将来的には加古川市や兵庫県を動かし、東播磨地方をかえていくことができるのではなかろうか。

(矢嶋 巖・白井貴志・山内翔太・鈴木晨平)

〔付記〕

本研究調査においては、久保克己氏、菅原悦夫氏、菅原 豊氏、宗佐 長氏、富木 攻氏、中末吉信氏、野村和秋氏、堀田忠良氏をはじめとする県4地区の皆さまにご協力を頂いた。また、神吉正弘氏、藤河昌信氏をはじめとする宮前地区の皆さまにもご協力を頂いた。東播磨県民局の米津良純氏、三輪 顕氏（当時）、北播磨県民局の長谷坂兼司氏をはじめとするいなみ野ため池ミュージアムの皆さま、東播磨県民局の椿原健右氏、加古川市総務課の皆さま、そして、加古川ウェルネスパーク、市立総合体育館、加古川アクア交流館を管理する神鋼不動産の皆さまにお世話になった。とくに富木 攻氏には、本調査において県4地区の皆さまへの窓口となって各方面への調整を行なって頂いた。以上、ここに記して心より感謝申し上げます。

〈参考文献〉

- 有馬俊明（1991）『村おこし・町づくり成功の決め手：「栗山村カンパニー」にみるローカル・ビジネスの発想と戦略』こう書房
- 池田清彦監修（2006）『外来生物事典』東京書籍
- いなみ野ため池ミュージアム運営協議会事務局（2011）『いなみ野ため池ミュージアム～先人の“遺産”を次代の“資産”に～』いなみ野ため池ミュージアム運営協議会事務局
- 内山りゅう（2005）『ヤマケイ情報箱 田んぼの生き物図鑑』山と溪谷社
- 木村茂光（2010）『日本農業史』吉川弘文館
- 交通評論家集団編（1975）『過剰モータリゼーションを考えるークルマ社会への反省ー』有斐閣
- 作野広和（2007）「都市近郊における村落景観」上野和彦・椿真智子・中村康子編『地理学基礎シリーズ1 地理学概論』朝倉書店、p.76
- 作野広和（2007）「耕作放棄の発生と村落景観の崩壊」上野和彦・椿真智子・中村康子編『地理学基礎シリーズ1 地理学概論』朝倉書店、p.77
- 佐久間功・宮本拓海（2005）『外来水生生物事典』柏書房
- 自然環境研究センター編著（2008）『日本の外来生物：決定版』平凡社
- 清水浩志郎（2004）『高齢者・障害者のための都市・交通計画』山海堂
- 白井清兼・西村 崇・山本淳子・伊藤興一・加藤浩徳・城山英明（2009）「旧佐原市地区におけるまちづくり型観光政策の形成プロセスとその成立要因に関する分析」社会技術研究論文集 6、pp.93-106.
- 田中耕市（2009）「中山間地域による公共交通の課題と展望」経済地理学年報 55-1、pp.33-48.
- 玉村豊男（2003）『食と農のブランド力とまちづくり』文屋文庫
- 土屋敏治（2009）「地方都市における公共交通の新機軸とその課題」経済地理学年報 55-1、pp.12-32.
- 農政ジャーナリストの会編（1998）『『新たな米政策』は何をを目指すか』農林統計協会
- 農林水産省編（2011）『2010年 食料・農業・農村白書』
http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h21/zenbun.html
- 兵庫県監修、兵庫県自然保護協会編集（1997）『ひょうごの野生動物：絶滅が心配されている動物たち』神戸新聞総合出版センター
- 兵庫県総務部地方課（1962）『兵庫県市町村合併史 上巻』兵庫県
- 兵庫県農政環境部農林水産局農地整備課（2008）『ひょうごのため池ファイル』
兵庫県農政環境部農林水産局農地整備課
- 兵庫の生きものたち編集委員会編（2004）『兵庫の生きものたち さまざまな環境を生き抜く命』神戸新聞総合出版センター
- 夫 恵真・金 料哲（2001）「過疎山村における住民組織の自治機能の維持ー広島県安芸高田市川根地区を事例にー」人文地理 62-1、pp.36-50.
- 南埜 猛（2011）「溜池の存続とその維持管理をめぐる取り組みー兵庫県東播磨地域を事例としてー」経済地理学年報 57-1、pp.75-89.
- 宮地忠幸（2007）「日本における有機農業の展開と地域農業振興」経済地理学年報 53、pp.41-60.
- 宮地忠幸（2007）「グローバル競争化における日本農業の課題」上野和彦・椿真智子・中村康子編『地理学基礎シリーズ1 地理学概論』朝倉書店、pp.28-29.
- 森脇 馨（2011）「東播磨地域におけるため池保全の取組みについて」水資源・環境学会 NEWSLETTER 56、pp.6-7.

湯川尚之（2009）「大規模ショッピングセンターが周辺居住者に及ぼす外部効果の地理学的分析－浜松市郊外の市野 SC の場合－」経済地理学年報 55-2、pp.128-136.

脇坂宣尚（1995）『徹底分析・日本のゴミ問題：環境保全・美化の現状と課題』中央法規出版
朝日新聞 2006 年 9 月 16 日朝刊記事「固定電話網、赤字穴埋めへ 交付金制度の適用固まる」

〈参考ホームページ〉

いなみ野ため池ミュージアムホームページ（ため池王国・東播磨の挑戦）

<http://www.inamino-tameike-museum.com/01.html>（2011 年 11 月閲覧）

大分県 おおいた集落営農マニュアル

<http://www.pref.oita.jp/site/syuraku/nini1.html> 2011 年 12 月閲覧

おだか e-まちタクシーホームページ「サービス・ルート・インフラの創出」

<http://www.f.do-fukushima.or.jp/e-machi/system2/system2.htm>（2011 年 11 月閲覧）

おだか e-まちタクシーホームページ「収支バランス」

<http://www.f.do-fukushima.or.jp/e-machi/zisseki/zisseki-2.htm>（2011 年 11 月閲覧）

おだか e-まちタクシーホームページ「誕生の背景」

<http://www.f.do-fukushima.or.jp/e-machi/haikai/haikai4.htm>（2011 年 12 月閲覧）

加古川市ホームページ「加古川市公共交通プラン（公共交通体系基本計画）について」

<http://www.city.kakogawa.lg.jp/18,3412,179,904.html>（2011 年 11 月閲覧）

加古川市ホームページ「加古川市地域公共交通アクションプランについて」

<http://www.city.kakogawa.lg.jp/20,0,179,904.html>（2011 年 11 月閲覧）

加古川市統計書

<http://www.city.kakogawa.lg.jp/18,39734,188,968.html>

経済産業省ホームページ「大規模小売店舗立地法の概要について」

http://www.meti.go.jp/policy/economy/distribution/daikibo/Ricchi_Ho.pdf（2011 年 11 月閲覧）

国土交通省ホームページ「多自然川づくり基本指針」

https://www.mlit.go.jp/river/press_blog/past_press/press/200607_12/061013/s02.pdf

（2011 年 11 月閲覧）

JA みな穂だより

<http://www.ja-minaho.or.jp/koho/0903/tokusyuu.html>（2011 年 11 月閲覧）

志方東営農組合ホームページ

<http://sikatahigasieinou.or.jp/index.html>（2012 年 6 月 12 日閲覧）

自動車検査登録情報協会ホームページ「自動車保有動向」

<http://www.airia.or.jp/number/index2.html>（2011 年 11 月閲覧）

総務省ホームページ「過疎地域」:

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

（2011 年 12 月閲覧）

総務省統計局・政策統括官（統計基準担当）・統計研修所ホームページ「人口の推移と将来人口」

<http://www.stat.go.jp/data/nihon/02.htm>（2011 年 11 月閲覧）

農林水産省 農業生産工程管理（GAP）に関する情報

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/index.html>（2011 年 11 月閲覧）

農事組合法人安曇野北穂高農業生産組合

<http://www.kitahomai.jp/> (2011 年 11 月閲覧)

兵庫県 エコファーマー (持続農業法に係る計画認定) について

http://web.pref.hyogo.jp/af07/af07_000000007.html (2011 年 11 月閲覧)

兵庫県内の持続性の高い農業生産方式導入計画の認定状況

<http://web.pref.hyogo.jp/af07/documents/000176224.pdf#search> (2011 年 11 月閲覧)

メイド・イン・加古川応援委員会

<http://www.madeinkakogawa.com/contents/> (2011 年 11 月閲覧)

2章 明石市周辺のため池のカメ捕獲調査

鹿島基彦、2011年度鹿島ゼミ4回生（樋高真規、工藤大貴、櫻井かおり）、須磨海浜水族園

2.1 はじめに

瀬戸内海地域は雨が少ないためため池が数多くある。全国のため池は約20万ヶ所で、そのうち兵庫県内には約4万4千と全国の約5分の1が集中している。明石市にも2009年4月時点で108ヶ所のため池がある（明石市産業振興部農水産課、2012）。このように当該地域は日本有数のため池地帯であるために、その魅力の再発見が期待されている。

近年日本各地で水生生物の外来種問題が発生している（香坂、2009；盛山、2010）。その中の一つにミシシippアカミミガメ（以後、アカミミガメ）の問題がある。ワニなどの天敵のいない日本国内の湖沼河川においてアカミミガメは無敵であるために、在来生物を駆逐して生態系を破壊してしまう恐れがある。日本には固有在来種であるニホンイシガメ（以後、イシガメ）とスッポン、それとクサガメも生息しているが、近年これらの在来のカメが減少していると考えられている（谷口と亀崎、2011）。

アカミミガメは北米産のカメで、頭部の両側に橙赤色の斑紋があり、淡水、海水、水質に関係なく生息できることが特徴である（国立環境研究所、2011）。1950年代後半から幼体はミドリガメの名称でペット用として日本国内で販売されはじめた。それが成体になり、攻撃性が増し、体長も大きくなると池に捨てる人が増えたために野生化し、日本各地に定着したと考えられている（村上ほか、2002）。

ため池の生態系の保全のためにも外来種問題は解決しなければならない問題である。当プロジェクトでは、その対策の一環として、現状を把握するために明石市周辺のため池を対象とした亀の捕獲調査を行った。

2.2 調査方法

2011年6月17日から11月3日にかけて、明石市周辺の109ヶ所のため池（2009年4月調べと今回確認1ヶ所）のうち29ヶ所のため池にて、定置網罟による亀の捕獲調査を実施した。周辺環境（住宅、田畑、森林等）に違いが出る、かつ、均等な分布になるようにため池を選定した（図2.3）。

一日目に網の設置（図2.1）、二日目に網の回収と記録を不定刻に行った（図2.2）。池内3ヶ所に均等に網を設置することを理想としたが、周辺環境によっては可能な範囲で設置した。用いた網は須磨水族園特別仕様のものである（図2.1左）。おとりエサとして解凍小イワシ1、2匹を用いた。なお、安全のために2名以上にて調査を行った。アカミミガメ駆除のために、アカミミガメは須磨海浜水族園に保管し、クサガメは元の池に返した。

2.3 捕獲結果

2.3.1 種別割合

計446匹のカメを捕獲した。内訳はアカミミガメ294匹（65.9%）とクサガメ152匹（34.1%）で、およそ2対1の割合であった。イシガメとスッポンなどの在来種は捕獲されなかった。また、CPT（Catch Per Trap：網あたり捕獲数）は全カメ4.96、アカミミガメ3.27、クサガメ1.69であった。

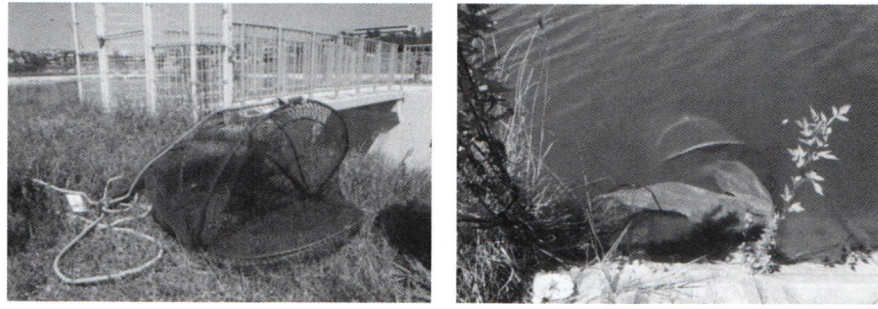


図 2.1 (左) 捕獲用の網。右側が網入口部 (八十島池 2011 年 9 月 7 日)。
 (右) 設置後。カメが呼吸できるように網奥部 (手前側) が水面に出るように設置 (鳴池 2011 年 9 月 7 日)。

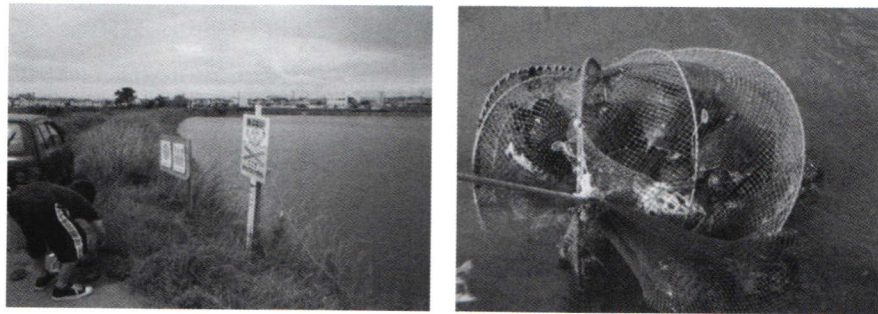


図 2.2 (左) 回収風景 (下川池 2011 年 7 月 2 日)。(右) 回収前 (上池 2011 年 10 月 7 日)。

2.3.2 種別分布

29ヶ所中 19ヶ所でアカミミガメのほうがより多く捕れた (図 2.3)。川や水路沿いほどアカミミガメが多く分布している傾向が見られた。特に、谷八木川流域では川から近いところほどアカミミガメ優勢の傾向が見られた。西部にはクサガメがより多く捕れる池は一つもなかった。また、クサガメの有無から見ても、西部や谷八木川近くでアカミミガメが優勢な傾向は見られる (図 2.4 右)。これらの地域はクサガメが比較的多い中部に比べて水路が混み合っている傾向がある。

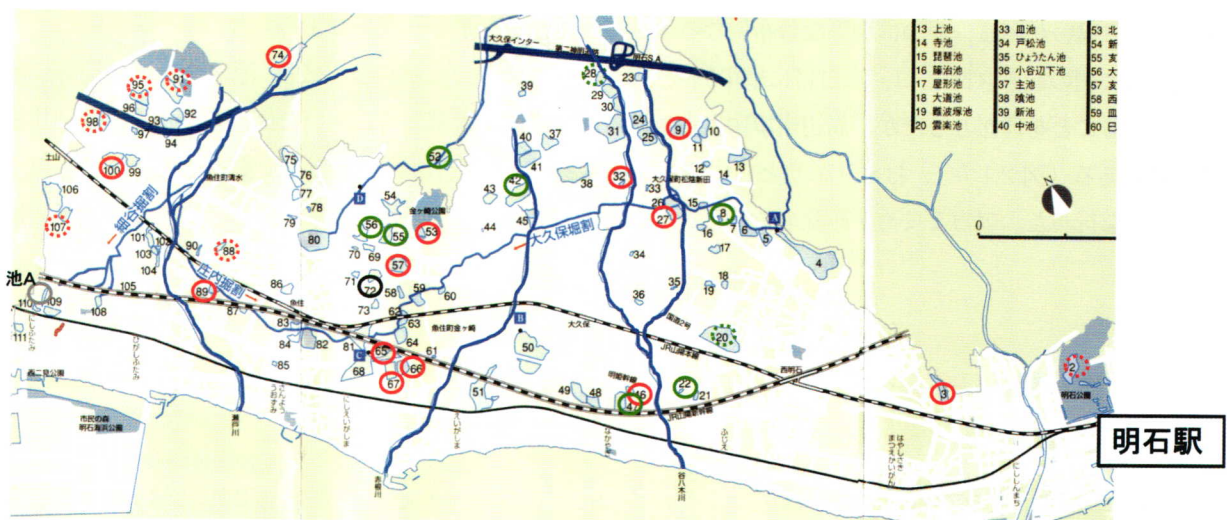


図 2.3 カメの優勢分布 (地図: いなみ野ため池ミュージアム運営協議会、2011)。アカミミガメがより多い池を赤、クサガメがより多い池を緑、差が顕著でない池 (捕獲数 10 匹以下で 2 匹差以下) を点線、同数の池を黒、捕獲なしの池 A (名称不明の池) を灰で示す。水色線は川および水路 (掘割) を示す。

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

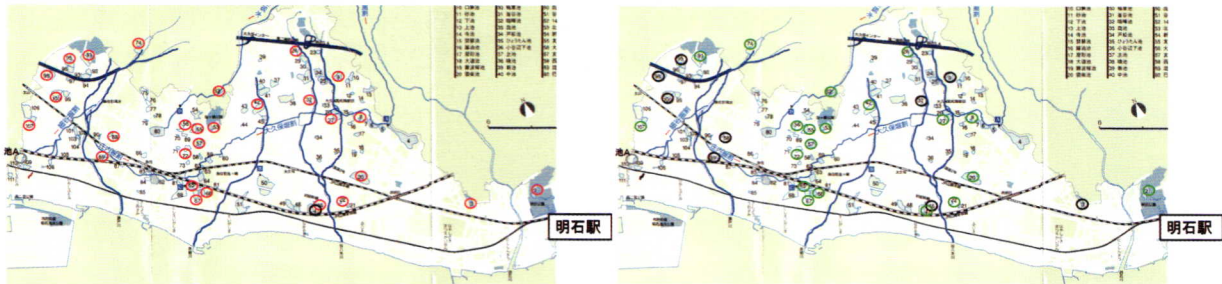


図 2.4 (左) アカミミガメ生息分布。アカミミガメが捕獲された池を赤で、捕獲されなかった池を黒で示す。
(右) クサガメ生息分布。クサガメが捕獲された池を緑で、捕獲されなかった池を黒で示す。

2.3.3 種別体長

個体別に甲羅の背中側の長い側の直径（背甲長）を計測してカメの大きさの指標に用いた。平均背甲長は、アカミミガメ 159 mm（標準偏差 42 mm）、クサガメ 144 mm（32 mm）であり、アカミミガメのほうがクサガメより 15 mm 大きかった。また、アカミミガメは 160 mm 以上 180 mm 未満にピークが見られたのに対し、クサガメは 120 mm 以上 140 mm 未満にピークが見られ、はっきりと両者の差がみられた（図 2.5）。

アカミミガメは 160 mm 以上 180 mm 未満の成亀のピークと考えられるもの以外にも、100 mm 以上 120 mm 未満にも第二のピークがみられる（図 2.5 左）。これは年齢の若い子亀と考えられる。それに対して、クサガメは小さい 120 mm 未満の子亀と考えられるものが少ない（図 2.5 右）。これが子亀の数を表しているとすると、今後さらにアカミミガメの比率が高まると危惧される。

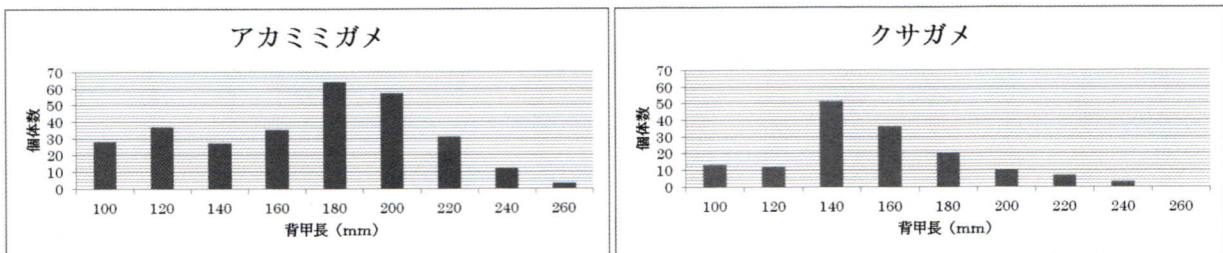


図 2.5 (左) アカミミガメと (右) クサガメの背甲長別頻度分布。ただし、横軸の 100 は 100 mm 未満、120 は 100 mm 以上 120 mm 未満 ～ 260 は 240 mm 以上 260 mm 未満を示す。

参考文献

- 明石市産業振興部農水産課（2012/9）：ため池まっぷ、http://www.city.akashi.lg.jp/sangyou/nousui_ka/nousui_hp/html/tochikairyu/map/。
- いなみ野ため池ミュージアム運営協議会（2011）：明石のため池、兵庫県、18 頁。
- 村上興正、鷲谷いづみ、安川雄一郎（2002）：外来種ハンドブック、株式会社地人書館、390 頁。
- 谷口真理、亀崎直樹（2011）：亀らく No.1、神戸市立須磨海浜水族園、19 頁。
- 国立環境研究所（2012/9）：侵入生物 DB、<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30050.html>。
- 香坂 玲（2009）：いのちのつながり～よく分かる生物多様性～、中日新聞社、203 頁。
- 盛山正仁（2010）：生物多様性 100 問、株式会社木楽舎、319 頁。

③ 越劇の理解と普及を通して新たな
地域文化を創出するための研究

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ



中国のタカラヅカ、 ご存じですか？



『梁山伯と祝英台』

2006年、神戸学院大学で杭州越劇院による古典名作が上演されました。『梁山伯と祝英台』は中国では千年にわたって語り継がれ、きわめて広い地域でさまざまな民間芸術形式によって演じられてきた作品です。男装し、男として学校で勉強する少女祝英台とその同級生梁山伯との悲恋物語。「中国のロミオとジュリエット」と呼ばれています。親の決めた結婚に逆らえず命を絶った二人は、墳に生まれ変わって、一緒にひらひらと飛んでいくのでした。
『万里の虹に満開の花、蝶はついでひらひらと、天地が裂けても離れぬは、梁山伯と祝英台』
梁山伯（男役）：陳雪萍、祝英台（女役）：周好俊

中国には三百近い地方劇種があります。そのひとつ「越劇」は、「中国の宝塚」と呼ばれます。女性観客をターゲットに女性俳優だけで演じる劇種です。

越劇の源流は1900年代初頭、浙江省紹興付近の農村芝居にさかのぼります。当時は男性農民が村の話題を民歌のように歌って聞かせる語り物に簡単な身振りをつけた素朴なものでした。

現在上演されている越劇は40年代上海で中国共産党の指導の下に形成された新しい劇種です。今や京劇に次ぐファン数を有する越劇。上海では明日のスターをめざす若手のオーディション番組も大人気。今日も多くの美女たちがしのぎを削っています。



2011年、孫文記念館友の会の中に、「越劇同好会」が発足しました。「地域力再発見をめざす大学と地域との連携・協同による実践的研究」の一環として、神戸学院大学の中山文が越劇と地域のファンの橋渡しをいたします。

定期的に越劇ビデオの観賞会、研究者を招いて講演会(勉強会)、越劇俳優による実演や越劇観劇ツアーも考えています。

あなたもいっしょに越劇を楽しんでみませんか？

越劇同好会世話役：中山文 fumi@human.kobegakuin.ac.jp , 小松敏美

「越劇の理解と普及を通して新たな地域文化を創出するための研究」 2011 年度報告

中山 文、伊藤 茂

第 1 回 越劇友の会

「組織作り」

① 孫文記念館（移情閣友の会）

2009 年 11 月、移情閣友の会 25 周年記念に、小松敏美会員の紹介で上海越劇院女優章瑞紅氏を招へい。当日の越劇紹介を中山が担当。前日に本学で越劇ワークショップを行った。

2011 年 8 月、中山から移情閣友の会の中に「越劇同好会」として発足させたい旨を提案。

6 人以上の友の会会員がひつようだが、小松氏による華僑女性の勧誘→6 名の参加

② 中国演劇に興味のある日本人探し

9 月、本学中国語非常勤への呼びかけ→他大学大学院生を 6 名の参加

* 「移情閣越劇同好会」の発足 <http://tomonokai.ko-co.jp/e195174.html>

「第 1 回例会」

10 月 10 日 孫文記念館 月見の会で、宣伝パネル（桑島先生作）の展示。それに合わせて第一回例会。8 名の同好会員が集まり、自己紹介。中山が同好会発足の経緯と趣旨説明、具体的活動方針を説明、第二回例会の日程を決定した。

第 1 回ミーティング。

孫文記念館が行った辛亥革命 100 周年記念イベント「月見の会」にあわせて、「越劇同好会」第 1 回ミーティングを行った。8 名の同好会員が集まった。

中山が同好会発足の経緯と趣旨説明を行い、具体的活動方針を説明



第2回 越劇友の会

2011年11月20日(日) 14:00-16:00 114D 参加者5名

「越劇の美しさ——梁山伯と祝英台」(2005)を見る

【感想カード】

Z.Y.

久しぶりに『梁祝』を鑑賞することができて、楽しかったです。

若い頃に越劇の『祥林嫂』『紅樓夢』などを見たことがあります。しかし、日本に来てから、こういう越劇を見る余裕もなく、とても残念でした。今日は、6年前に見られなかった『梁祝』を見ることができ、とても感謝すると共に感無量です。特に、2005年演出の楊小青先生が、定年退職年齢になっても、一生懸命に努めて素晴らしい越劇作品を創られていることに、とても感心しました。

陳雪萍の担当した男役・梁山泊も一心不乱に、素朴に演じられていて、その精神が印象深いものでした。

今日から、これから、気持ち的に越劇を基礎から勉強したらどうかな?と思いますが、中山先生が専門家なので、私にどんどん教えて下さい。

頑張ります。

M.K.

女の子が男装して活躍するお話は好きなので、元々ストーリー自体に興味を持っていました。当たり前ですが、読み物として味わうのと、実際にお芝居として味わうのとでは、全く印象が異なりました。

音楽や演出など、現代的な要素もどんどん取り入れられている分、馴染みのない者にも歩み寄り易い娯楽であると思います。

ただ客席で見るだけでなく、自分たちも参加していくという芸能が「現役」である、その状況が羨ましいです。

他の古典芸能にはあまり探し出せない、様々なタイプのヒロインが見られるのも楽しみです。

M.I.

面白かったです。歌唱力の素晴らしさに感動しました。舞台造形も現代的で、明るく、解り易いことに驚きました。

I.E.

権力や大人の思惑、駆け引きが渦巻く中で、梁山伯と祝英台のまっすぐで純粋な思いがとても印象的でした。

普段着ていた服が城を基調とした黄緑のものだったのも2人の爽やかさや初々しさを象徴しているようで、また結ばれ蝶になったときの赤い服も、結ばれひとつになったことで一層深まった2人の絆の強さを表しているように感じました。

赤という色は、中国では国旗に使われたりするなど、かなり重要な扱いを受ける色なので、蝶の服装には

ただ見た目の美しさだけでなく、なにか特別な意味合いが含まれているのかな、と思いました。

今回観たのはかなり現代人の感覚に合わせているようで、2人が完璧ではない、等身大の存在に感じ、とても親近感の湧くものでした。

ただ、もともとのオリジナルの時代背景が東晋だったという話も聞くので、オリジナルの時代背景とその雰囲気も併せて知っていれば、どこにどうアレンジを加えたかを比較したりして、一層楽しめた気もします。

以上、簡単で内容の薄いものではありますが、今回の感想とさせていただきます。

これを、2005年当時に生で観られなかったのが残念です……。

資料：「越劇の美しさ——梁山伯と祝英台」（2005）

1. キャストとスタッフ

梁山伯（りょうざんぱく）・・・陳雪萍

祝英台（しゅくえいだい）・・・周好俊

音響・・・李舟

衣裳・化粧・・・胡亜莉

ナレーション・・・宮本毬子

照明・・・池田誠一郎・瀬戸愛弓

音響・・・宮本秀彦・平井博道

字幕・・・中山文

字幕操作・・・田村容子

2. 越劇について

中国には三百近い地方劇種がありますが、そのなかに日本の宝塚歌劇団のように、女性観客をターゲットに女性俳優だけで演じる「越劇」という劇種があります。越劇の源流は1900年代初頭、浙江省紹興付近の農村芝居にさかのぼります。当時は男性農民が村の話題を民歌のように歌って聞かせる語り物に簡単な身振りをつけた素朴なものでした。

現在上演されている越劇は40年代上海で中国共産党の指導の下に形成された新しい劇種です。恋する男女がひとつになって封建主義と戦うというロマン主義のもつ革命性を劇種の特徴としていました。袁雪芬を中心とした「越劇十姊妹」の改革運動は、共産党員だけではなく、新時代を迎えようとしていた中国で広く女性たちの共感をよびました。謝晋監督映画「舞台姊妹」1966年には越劇成立当時の状況が詳細に描かれており、初心者にも理解しやすくおすすめです。

文化大革命では越劇も他の地方劇同様迫害をうけ、後継者不足と観客減少に悩みました。しかし80年代の改革開放政策以後、浙江省越劇“小百花”演出団が、戯曲界全体の希望の星として、華々しい活躍を始めます。このチームは世界マーケットに照準を合わせた総合芸術を目指し、新たな女子越劇のブームを生みました。その要となったのがトップ小生の茅威濤と彼女の育ての親である楊小青です。彼女の創る美しく詩情あふれる舞台は、中国の知識人を魅了してやみません。彼女によってそれまで「女子が見るもの」とされていた越劇に、新しいファン層がうまれました。楊小青の波乱万丈の人生については、「インタビュー：楊小青と越劇の60年」（『中国21』Vol.20 特集：中国演劇におけるジェンダー）をお読み下さい。

3. 『梁山伯与祝英台』について

「万里の虹に満開の花、蝶はつがいひらひらと、天地が裂けても離れぬは、梁山伯と祝英台」（孫玄齡著・田畑佐和子訳「中国芝居の人間模様」白亭社）

『梁山伯与祝英台』は中国でほぼ千年にわたって語り継がれ、きわめて広い地域でさまざまな民間芸術形式によって演じられてきた作品です。上の階層ではなく、庶民の間で愛され広まりました。

女性らしいしとやかな生活をするよりも男性同様に杭州で勉強したいという活発な女性祝英台が主人公。男装して勉学のために杭州に向かいます。道中、梁山伯に出会い、「女性も勉強をするべきだ」と語る彼に強い好意を抱きます。ふたりは兄弟として、また同窓生としての契りを結びます。祝英台は女であることを打ち明けないまま三年を過ごし、父に帰郷を促され実家に戻ることにになりました。

帰郷の前に彼女は師の夫人にふたりの仲人を頼み、結納の品として玉で作った蝶々の扇子飾りをあずけます。実家に帰る彼女を途中まで送っていき、塾に戻った梁山伯は夫人から祝英台が女性で、彼と結婚したがっていると聞かされます。梁山伯は大喜びで、先日送って行った道のりを今度は一人で歩いて求婚に向かいます。が、そのときすでに祝英台には地位ある馬家との結婚が決められていました。

父親から家柄が釣り合わないと言われ、バルコニーの二人は離れがたい思いに嘆き交わします。帰宅後、梁山伯はショックのあまり病死し、祝英台は死んだら彼のお墓に入ることを誓います。嫁入り当日、真っ赤な花嫁衣裳を着た祝英台はお墓参りを条件としてかごに乗り、真っ白の吊いの衣裳に着替えてかごから降り立ちます。すると突然の雷鳴に墓が二つに裂け、祝英台はなんのためらいもなくその墓に身を投げました。二人は蝶になり、雨上がりの虹の下、一緒にひらひらと飛んでいくのでした。

4. 杭州越劇院について

40年以上の歴史を持ち、レパートリーの豊富さ、俳優の層の厚さ、スターの多さで定評がある。『梨花情』『寒号鳥』『流花溪』など多数の国家レベル受賞作品をもつ。「人・作品・演技の新しさ、曲・舞・美術の美しさ」で「西子湖畔に咲き誇る満開の花々」とよばれる。これまで2度の日本公演をはじめ、アメリカ、カナダ、韓国、香港などの公演歴も多く、世界中に多くのファンをもつ。

5. 演出家ご挨拶

日本のみなさん、こんにちは。このたびは神戸学院大学で上演することができ、とても光栄に思っています。本日は『梁山伯と祝英台』の後半部分「回十八」「楼台会」「哭墳」「化蝶」の場面をご覧ください。本来越劇は舞台美術、照明、音響など現代的な効果をフルに活用する華麗な総合芸術です。今回は来日人数の関係で、最もシンプルな舞台と照明の下での上演になりました。日本のみなさんに気に入っていただけるでしょうか。

みなさん、どうぞ杭州においで下さい。そして今度は完璧な条件の下での越劇をご覧ください。きっとまた別の趣があることでしょう。お待ちしております。

出演者プロフィール



楊小青 (Yang Xiaoqing 1943 年生)

国家一级演出家。中国戲劇家協会理事、浙江省戲劇家協会副主席、浙江省演出家学会会長。主要作品に、越劇『西廂記』『陸游と唐琬』『流花溪』『家』など多数。『陸游と唐琬』は国家十大舞台芸術精品工程入選。『西廂記』は第4回文華大賞。越劇『西廂記』、昆曲『班昭』で演出家に与えられる最高の賞である中国戯曲学会賞を史上唯一の2度受賞。

陳雪萍 (Chen Xueping 1963 年生)

国家一级俳優。中国戲劇家協会会員。杭州越劇院男役俳優。2004年11月、胡錦濤中国国家主席のブラジル訪問に友好演出団メンバーとして同行。ヨーロッパ、東南アジアでの海外経験多数。『梁祝尋夢』の梁山伯、『流花溪』の成龍など、素朴で実直な範派の正統派後継者として非常に高い評価をうけている。中国戯劇節主



周好俊 (Zhou Yujun 1977 年生)

1994年浙江省芸術学院卒業、現在杭州越劇員女役俳優、越劇界のルーキーとして注目を受けている。『梁祝尋夢』の祝英台、『流花溪』の春花など、たおやかな美貌に芯の強さを感じさせる女性役に定評がある。『梨花情』の冷艶、『小宴』の貂禪など劇団の代表作ヒロインを好演。浙江省戯劇節優秀演技賞を受賞している。



第3回 越劇友の会

2011年12月24日（土） 14:00-17:00 142A

映画「舞台姉妹」（1965年）を見る

※ 18:30 より小瀋陽で忘年会

【感想カード】

M.I.

主演女優2人がとても綺麗でした。映像も舞台っぽく、平板な取り方で綺麗でした。

しかし、やはり舞台の方が良いです。現在の感覚でいえば、共産党のプロパガンダ臭ささえなければ、もっと良くなったのに、と残念な感があります。

I.E.

春花と月紅の生き方の違いが印象的でした。自分の生きる道として芸の技に磨きをかけて、芸の道に誇りを持って先を見据え、長年確執のある姉妹も愛せる春花はとても格好良い女性に感じました。同時に、月紅も春花と同じようにプライドを持ちながらも、そのプライドの為に芸から身を退いて別の幸せを求め、相手の男性からの暴力と支配を受け役者としてのプライドと女としての幸せを求める気持ちの狭間で苦しむ彼女の姿にも、個人的に共感できました。

春花が袁雪芬さんをモデルにしているということで、ひとつの映画としても楽しめましたし、女性として生きる上で、何が幸せか？ どう動いていくのか？ 考えさせられる作品でした。

T.A.

当時の演劇の様子がわかって、面白かったです。特に前半のドサまわりをしているあたりが。

資料：越劇史 映画「舞台姉妹」通して学ぶ越劇史

天馬電影制片廠 撮影 1965年

劇作：林谷、徐進、謝晋

撮影：周達明、陳震祥

主演：謝芳、曹銀

1. あらすじ

童養媳 竺春花は虐待に耐え切れず、婚家を飛び出し、ドサ周りの越劇一座に逃げ込み身を隠す。同情した座長は彼女の賢さと美貌に才能を感じ一座に迎える。娘の邢月紅はたいそう仲良く、姉妹の契りを結ぶ。座長の死後、二人だけは「まじめに芸に身を捧げろ」の言葉を守って上海デビュー、人気をきわめる。当時上海は西洋文化と民族資本が集中する「魔都」と呼ばれた華やかな大都市。緊張した時勢から目を背けたい人々は娯楽を求めており、俳優にとっては誘惑だらけ。月紅は「女優」らしく華やかに墮落し、春花は芸術と革命の道を選ぶ。別離の運命。解放とともに、出奔した妹が舞い戻る。二人で再び演劇と革命の道へ。

「舞台姉妹」の見方

- ① 越劇の歴史。江南地方のドサ周り劇団
- ② 童養媳の悲惨さ ふたりの春花
- ③ 唱堂会。地方官僚（警察）の腐敗ぶり
- ④ 姉妹の絆 姉役竺春花が旦（女性役）、妹役邢月紅小生（男性役）
「身を清く、正しく。まじめに芝居に取り組み。決して……」二人の手を重ね合わせる父
その後の二人の運命。竺春花は袁雪芬自身と重なる。
- ⑤ 越劇伝統劇目「梁山伯と祝英台」
- ⑥ 魔都。40 年代上海。外国の租界。民族資本家。地方との格差。
- ⑦ 演劇界の封建制
劇場主、興業主による経済的搾取。3 年間ただ働き。
男性による性的搾取→老いて落ちぶれた越劇女王
- ⑧ 新作「馬寡婦開店」（色っぽい作品）について。客は喜ぶが青衣（良家の子女）役竺春花は不満。時流に合わない春花。サインの練習をする邢月紅。
- ⑨ 上海でチンピラ生活をする阿金の頼み。「我不唱堂会的」昼夜 2 回興業、合間に放送局、お座敷……「私たちは牛馬じゃない！」
- ⑩ 養母の申し出。金持ちの奥様のパトロン。頼りになるごひいき筋「過房娘」
- ⑪ 「衣装が多く、友達が多いのは上海でバカにされないため。」田舎者のコンプレックス
看板の名前の大きさが変化。「嫉妬しないで」。唐支配人のひいき。姉妹に亀裂。過去の関係の思い、師匠の言葉を守りきれずに悩む春花。
- ⑫ 邢月紅、唐支配人と結婚、女優を引退。「これでバカにされずにすむ」
役者という差別から女であることを武器に逃れようとする邢月紅。
芸の道に精進し、女優であることにプライドを持てる社会にしようとする春花。
- ⑬ 「本当に彼を愛しているの？」「もう彼のものなの……」性的に支配
- ⑭ 商水花の首吊り自殺。「金のなる木、働き牛、唐の悪党、殺してやる」
- ⑮ 唐支配人による葬式。
- ⑯ 女性記者江波「どう報道すればいい？ 楠の棺桶を買ってすむことではない」
- ⑰ 共産党の接近、教育。春花「明らかに間違った道をなぜ進みたがるのだ？」
江波「今大事なのは生きている女優たちに正しい道を教えること」
- ⑱ 共産党がサポートする話劇、映画。越劇もこうしたい。→魯迅「祥林嫂」ヒット
- ⑲ 国民党に恩のある唐。「日本占領時代のことはパン委員がもみ消してくれた」
唐は月紅を使って上演阻止を図る。
- ⑳ 上演妨害するチンピラ、銃弾入り脅迫状。女優仲間の支援
- ㉑ 自分の道を後悔する邢月紅。「役者ふぜいが！」禁演
- ㉒ 越劇十姉妹による連合上演。自分たちの劇場を！「社会こそが舞台だ。小老板の後ろには大老板がいる。そのうしろにはアメリカがいる」搾取する制度。共産党指導による越劇改革。話劇からのブレーン
- ㉓ 暴漢に目をつぶされる。世論の支持→裁判
- ㉔ 国民党は共産党との争いを避けるために姉妹の争いに矮小化する。月紅が阿金を雇い春花を襲わせたというシナリオ。ドメスティックバイオレンス。
- ㉕ 実際の悪人は邢月紅ではない。彼女は墮落し、利用されただけだ。

- ②6 1949年、解放。「人民戯曲は民主精神と愛国精神で人民を教育するための重要な武器である」(『戯曲改革工作に関する政務院指示』)
1950 土地改革宣伝隊として全国慰問。「白毛女」上演。故郷へ。
小春花、邢月紅と再会。
- ②7 「やっと家に戻った。間違った道に進んでしまったこと、後悔してるの。必ず生まれ変わるわ」再び二人で芸の道に精進。父の言葉を守った娘たち
- ②8 竺春花の座り姿に注意!
「今後要認真的改造自己、唱一輩子革命的戲(これからまじめに自分を変えていき、一生革命の芝居を歌っていく)」→「父の娘」越劇。師匠から党へ。

第4回 越劇友の会

2012年2月19日(日) 11:00-17:30 113B

1部 11:00-13:45

『祥林嫂』ビデオ観賞

2部 14:00-15:30

森平氏講演会

「越劇大師袁雪芬氏ご逝去1周年を記念して」

*『梁祝』衣裳展示

15:30-16:00 質疑応答

16:30-17:30 次年度の活動と

「越劇入門」作成について会議

※ 19:00-21:00 三宮で懇親会(味香苑)

【感想カード】

N.A.

初めて越劇をDVDではありますが、見せて頂いて感謝します。

貧しい女性のあり得る人生を描き、来世にも救いがないことを描いて、あるべき生き方を考えさせられるものと思いました。

「森平先生」歴史的背景を分かりやすく説明頂き、ありがとうございました。

T.M.

森平先生の講演会については、恥ずかしいながら、自分は 20 歳まで中国に居たにも関わらず袁雪芬先生のことをあまり存じ上げなかった。越劇については、少しだけ知っているだけで、本当に恐縮に思います。森平先生のお話で、より一層興味を持って袁雪芬先生の偉大さと、越劇の由来を感じさせられ、大変勉強になりました。ありがとうございました。

K.S.

何の予備知識のないまま、今回の講演会に参加してしまいましたが、非常に興味深く聞きました。特に越劇と他の地方劇とは共産党が求める役割が違うという点です。革命の為の演劇としては他の地方劇の方が功績が多かったけれど、外交向きの華やかな劇であった為に別の方向に進んだという話は印象的でした。

また、袁雪芬先生が 4 つの女性の典型的な姿を表現したという話も楽しく聞かせて頂きました。

A.Y.

今回、越劇を観て中国のジェンダーな部分を非常に意識しました。未亡人というだけで縁起が悪いと言われる、祭りの手伝いや参加を拒否され、最期は惨めに亡くなっていく映像を観て、女性進出の社会問題を訴えていることがよく理解できました。「纏足」とか聞いたことがあるのですが、中国の男尊女卑の文化は日本文化のものよりも強いように感じました。中国の女性は本当に厳しい環境で生きてきた文化を持つのだな、と改めて感じました。

K.H.

1 度幸せを経験してしまったからこそ悲劇がまた染みしました。賀老六と阿毛が死ぬ時に泣く演技だけでなく、涙を流していたのが印象的でした。土地廟に敷居を奇進したけれど、祝福の準備には参加させてもらえず、暇を出される時の家の額が「積善堂」とあったところに皮肉を感じた。『祝福』の衣裳が借り物ではなく購入した所に先生の意気込みを感じました。靴の男女の違いが実際に履くことでよく解りました。見るだけでなく、体験できるのはやはり楽しいですね。

越劇の琴についてはほとんど知らず、袁雪芬の名前だけ聞いたことがあるくらいでしたので、今年年表で易しく講演して頂いて解り易かったです。『舞台姐妹』の映画の映像も少し見せて頂きましたが、舟に乗って客が観ている等、どのように観劇していたのかも、よく解りました。

派閥の話も、興味深かったです。新しい派を作らせて、独自に演目を作らせたり常に試行錯誤させることで、今の越劇があるのだな、と思いました。

Y.T.

ほとんど何も知らない状態で見させていただきました。魯迅については中山先生の授業で様々なものが物語の中に詰め込まれているというものを学び、考えながら観賞できました。もっとセリフを淡々とするものだと思っていましたが、あんなにミュージカル的なものだとは思っていませんでした。中華風のメロディーが好きなので楽しかったです。中国語は解らないのであらすじだけ頭に入れ、この場面はこうだなと想像しながら観ることができました。

Z.L.

越劇の歌のように、滑らかでさらっとした口調で 1 時間くらいお話を伺いました。とても解り易くて、充実した内容で思わず全部メモを取ってしまいました。袁雪芬の一生と彼女が努めた越劇界の変容や革命的な影響がよく勉強になりました。本当にありがとうございました。

张应华「我看《祥林嫂》」

越剧《祥林嫂》是根据鲁迅的原作《祝福》改编的。《祝福》原作是我中学时代语文课上学过的。当时对鲁迅的原著理解并不是很深刻。记得第一次观看的越剧《祥林嫂》是电影，大约是在30多年前看的。是在一所学校的露天操场上看的。椅子是自己带去的。但是，那时的我还没有结婚，对于守寡的苦难妇女生活还谈不到完全理解。时隔多年的今天，重新再看鲁迅的作品，重新再看袁雪芬的演艺和唱腔，才感到鲁迅是真正站在劳苦大众的立场上，替社会底层的无处伸冤的祥林嫂来叫冤，替千百万过着地狱般生活的妇女在呐喊。袁雪芬大师级的越剧表演也让我再次得到刮目相看。

祥林嫂是一个受尽了封建族权，神权，夫权甚至婆婆之权压迫的农村妇女。她的丈夫祥林病危时，债主就劝婆婆逼着要将祥林嫂卖给他人；祥林死后，祥林嫂为了躲避厄运，逃到鲁四爷家做女佣。债主又把祥林嫂抢到山里，强迫祥林嫂与贺老六成亲。贺老六人好，勤奋，又吃苦，夫妻恩爱苦也甜，隔年祥林嫂喜生一子。按说夫妻可以过上恩爱的生活。谁知没过几年，贺老六却突患伤寒而病死，儿子阿毛也被山里的饿狼吃掉了。迫于生活的无奈祥林嫂只好又回到鲁四爷家继续做女佣。而鲁家却嫌弃她嫁过的两个男人都死掉而不吉利，对祥林嫂千般欺负万般压，使祥林嫂受尽了折磨，吃尽了苦头。尽管这样，祥林嫂还是想要改变自己的悲惨命运，她用自己辛辛苦苦忍受凌辱得来的两年的血汗钱，给附近土地庙捐了一条门槛，让千人踩，万人踏来洗刷自己的不幸。然而祥林嫂的不幸不但没有因为捐门槛而减少，最终却被鲁四爷赶出了鲁府。祥林嫂悲愤至极，叫天天不应，叫地地不灵。愤怒的祥林嫂手执利斧奔向土地庙朝门槛砍去。在鲁府“祝福”之日，祥林嫂惨死在风雪之中。真是“朱门酒肉臭，路有冻死骨。”

越剧中的祥林嫂是由袁雪芬饰演的。没想到这一演竟然演了40年。我前边说了，我第一次观看越剧祥林嫂是在30多年前看的。谁知到如今看的还是袁雪芬饰演的。是在网上看的。时代的变化太快了，而鲁迅刻画的祥林嫂越看越觉得深刻，越看越觉得鲁迅的伟大。而饰演祥林嫂的袁雪芬越演越觉得人性味越浓。我在想，究竟是鲁迅写的人性味浓，还是袁雪芬演的人性味浓，我分不清楚。感情上应该认为是鲁迅写的人性味浓，而理性上我却认为还是袁雪芬饰演的人性味浓。因为她是用她一生的演艺生涯扮演了祥林嫂。我完全被她的认真的表情，到位的动作，执着的饰演所征服。她把祥林嫂扮演的太生动了。演到极致了。袁雪芬不仅扮演了祥林嫂，而且还创作设计了《祥林嫂》，她一直在不断地改编，不断地创作更加完善的祥林嫂，真不愧是一位大师级的越剧演员。袁雪芬辛苦了。

越剧电影中《祥林嫂》，上半部分是由金采风扮演的，下半部分是由袁雪芬扮演的。特别是“厨房”里的一场戏，袁雪芬用那悲哀的唱腔和柔弱的姿态把孤独无依的祥林嫂对未来生活的恐惧扮演的真实生动。而当祥林嫂用她全部的劳动所得去捐了土地庙的门槛，兴冲冲地回到鲁四爷家，准备过年的祭祀品时，鲁四爷却大声喝斥到“放下”！简直就像一个晴天霹雳，一下子把祥林嫂给彻底打“清醒了”。祥林嫂原以为捐了土地庙的门槛，过去的“不幸”就可以让门槛代替了，自己就能和以前过年时“杀鸡，宰鹅，煮福礼”一样了。然而在鲁府，祥林嫂仍然还是那个不幸的死了两个丈夫的“罪孽”之人。清醒的同时，祥林嫂所有的希望也就彻底绝望了。这一切都可以在袁雪芬的扮演中得到了淋漓尽致的表现。

正是在“祝福”时节，祥林嫂被“朱门”的鲁四爷赶出了鲁府。这一场戏是全剧的高潮。祥林嫂那一声声悲惨的“我抬头问苍天，苍天啊！不开言。我低头问人间，人间也无言。”让我充分理解了在鲁迅的笔下看到了一位勤劳善良的祥林嫂是封建社会劳动妇女的典型写照，也从袁雪芬的精湛表演看到了现代女性和祥林嫂不一般的人生。

2012年2月19日

資料：「祥林嫂」

1. 魯迅『祝福』（1924『東方雑誌』発表、映画「祝福」北京電影制片 1956 年）

1. あらすじ

辛亥革命前夜の紹興。寡夫祥林嫂彼女は姑に再婚を強要され逃げ出す。魯鎮にある魯四旦那のお屋敷に奉公。よく働くため重宝され、生き生きと働く。姑に連れ戻されて山奥に住む賀老六に嫁がされる。祥林嫂は泣き叫び大暴れして嫌がる。再婚相手はやさしく、息子も生まれ、しばし幸福。夫はあっけなく病死、息子は狼に食い殺される。家を追われ、再びお屋敷に奉公にでる。二度も寡婦となった彼女を嫌う魯四旦那は、祝福（年越しに行う幸運祈願の先祖祀り）の準備には手を触れさせてはならぬと厳命する。

子供を失った不幸から立ち直れない祥林嫂は、以前ほど働けない。「私がばかでした」と自分の物語を繰り返す。はじめは同情した者もしだいに飽き、彼女をからかう。柳媽から、再婚した女は地獄に落ちて閻魔様にのこぎりで二つに裂いて二人の夫にわけられるのだと聞かされる。贖罪のために土地廟に敷居を寄進することを決意。1 年後に望みを果たす。本人の喜びに反し周囲は態度変わらず、やはり祝福の準備には参加させてもらえない。すっかり木偶のようになってしまった彼女は、半年後にはひどく老けこみ暇を出される。

乞食となった彼女は都会から里帰りしていたインテリの「私」（語り手）に、「人間が死んだ後も、魂はあるんでしょうか」「地獄もあるんでしょうか」「死んだ家族はまた顔をあわせるのでしょうか」と問いかける。満足な答えを得られないまま、彼女はその翌日に路傍で行き倒れて、果てる。

2. 祥林嫂の不幸の原因

「祥林嫂の生涯は封建社会の様々な天災人禍の苦しみを嘗めつくしたようなもの」「礼教（儒教）が祥林嫂を食い物にした」。当時の紹興の旧弊な婚姻制度の害悪

① 童養媳（トンヤンシー）

「嫁御二十に婿どのは十、寝るときゃベッドに抱き上げる。夫といっても小さすぎ、息子と呼んでも母じゃない。婿どの大人になるときは嫁御はずでに年をとり、花の咲くときゃ葉はしばむ」

② 再婚

夫に先立たれた妻が再婚せず一生貞節を守ることを「節」、夫の死に殉死したり、みずから死をもって貞節を守ろうとすることを「烈」という。「嫁さらい」の風習。

③ 寡婦

亡夫への守節強いられるばかりでなく、世間から「冷たくあしらわれ、嘲られ、馬鹿にされて、いわば二重の凌辱に耐え」ねばならず、「不吉の象徴と見なされ」忌み嫌われる存在

「祥林嫂」という名前。「祝福」という祭りの皮肉

3. 語り部「私」 *もう一人の主役

（祥）「ちょうどよかった。あなたは学問をした方だし、外（よそ）にも出て、たくさんのことをしていなさる」。私「生きるすべなき者が、その死によって、目をそむける者たちの視界から消え去るのは、お互いのために、決して悪いことではあるまい」

*「伝統的読書人かつ近代的知識人」。魯迅自身の無力感と絶望

II. 越劇『祥林嫂』（越劇「祥林嫂」上海越劇院、1978年）

袁雪芬「魯迅という人のことは知らないが、祥林嫂のような女性なら私はよく知っている。私の祖母にも母にも祥林嫂の影があった。だから私は彼女に同情し、演りたいと思ったのだ。」

1. 愛された経験をもつ女性：「第7場」（『洞房』）

賀老六 泣かないで、きっとあなたを大事にするから。

〔二人は黙りこんでその場に座っている。祥林嫂は悲しくなり、またおもわず泣きだすと、傷が痛み、喉の渴きを感じる。賀老六はその様子を見て、一杯茶をいれ、近寄る。〕

賀老六 泣かないで、……貧乏人は身体がだいじなんだから。（茶を彼女に渡す）

〔祥林嫂はその誠実なことばに少し感動するが、茶を受け取っていいものやら悪いものやら決めかねている。〕

〔賀老六はやむなく湯呑を彼女のそばに置くと、そばを離れた。〕

祥林嫂 （湯呑を取り上げ一口飲んで）借金はどうやって返すつもりなの？

賀老六 そんなものはなんでもないさ、辛いことを嫌がりさえしなければ、借金なんて返せるよ。力だけはたっぷりあるからね！

〔祥林嫂は茶を飲みながら、彼を見つめる。〕

（幕裏の合唱）祥林嫂は賀老六を見た、心根のやさしい素敵なんだ。

二人で一生懸命働けば、きっと夫婦で苦楽を分かち合えるに違いない。

2. 自分の運命を変えようと行動した女性：「第11場」（『千悔恨、万悔恨』）

「再婚した女は地獄に落ちて閻魔様にのこぎりで二つに裂かれる」

「その時はだまっていたが、ずいぶん悩み苦しんだと見え、彼女が翌朝起きてきたときは、目のまわりに大きな隈ができていた」

祥林嫂 （歌）千回恨み万回悔やんでも悔やみきれない、どうしてあの時一度で死ねなかったのか。今になって二度目の夫が死んだことを、大きな罪とされてしまった。みな私が不吉な運命の持ち主、夫を克する不浄な星の持ち主だという。……やっぱり土地廟に行って敷居を寄進して、私の身代わりに千人に踏んでもらい、万人にまたいでもらおう。それで私のこの世の大罪をつぐなうのだ。

3. 自分の言葉をもつ女性：「第14場」（『問蒼天』）

祥林嫂 訴えねば……何としても訴えねば……（数歩歩いて立ち止まり）いったいどこへ？……どこへいけばいいのだろう！……ああ、神様！」

（歌）私は顔を上げ、天に問うしかない。

（幕裏の合唱）顔を上げ、天に問う

祥林嫂 魂は本当にあるのですか、本当に？

（幕裏の合唱）だが、天は答えてくれない。

祥林嫂 今度は頭を下げ、人々に問うてみる……。教えてください、地獄は本当にあるのですか？……死んだ家族はまた顔をあわせるのでしょうか？……教えてください……どうぞ教えて」

文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業 地域研究プロジェクト

追悼袁雪芬先生ご逝去一周年記念講演会

越劇の第一人者袁雪芬氏が亡くなり、2月19日にちょうど一周年を迎えます。
越劇同好会第4回例会では、袁雪芬氏を追悼する記念講演会を企画しました。
ぜひご参加ください。

日時：2月19日（日）午後2時～3時30分

場所：11号館113B教室

演題：「越劇大師袁雪芬氏ご逝去1周年を記念して」

講師：森平崇文氏（早稲田大学演劇博物館）

- * 11時より同教室で「祥林嫂」のDVDを観賞します。
- * 「梁山伯と祝英台」の衣装を展示します。

「祥林嫂」



袁雪芬：紹興生まれ、正旦。1933年から芸の道に入り、杭州、上海などで上演。彼女の女優としての成長過程は、そのまま越劇史となっている。袁派創始者、享年89歳。

袁雪芬再考 —— 一周忌に

森平 崇文（早稲田大学）

この度は20世紀中国を代表する演劇人の1人である越劇俳優袁雪芬先生（1922-2011）の一周忌に際しまして、このような会を開催して頂き、袁先生を敬愛するものの1人として深く感謝申し上げます。本報告は袁先生の生涯及び越劇界に残した偉大な足跡を時代順に紹介し、併せてこれまでの越劇史においてあまり言及されてこなかった一面についても触れたいと思っております。袁先生は存命中、越劇界の指導者として神聖化される傾向が他の越劇俳優に比べ強かったために、1人の越劇俳優として歩まれた足跡などはステレオタイプ化された紹介を除きますと、その指導者イメージの中に隠されてきました。しかし激動の20世紀中国の中で、俳優として70年以上過ごされてきたわけですから、あまり知られていませんが、演劇史的に非常に興味深い業績や事件が多数あります。そこでお亡くなりになった現在、それら多方面にわたる足跡を公開して紹介することが、袁雪芬先生の全体像を深く理解することにつながると考えております。なお本報告では以下、故人のため敬称は全て省略いたします。

まず一般的に知られています袁雪芬の功績について紹介したいと思います。越劇俳優としましては、指導者として越劇を浙江省だけでなく、上海更には中国を代表する地方劇の一つへと導きました。そして越劇の流派「袁派」を創始して『祥林嫂』や『西廂記』などの代表演目を残し、後継者の養成に努めました。また20世紀中国を代表する芸術家としましては、中華人民共和国成立以降、演劇改革の旗手・職業女性の代表・上海文化界のリーダーの一人としてそれぞれ大きな役割を担われました。最後に越劇団を率い、或いは文化使節団の一員として世界各国を訪問され、中国の海外交流にも貢献されました。

このような袁雪芬の足跡につきましてはご存知の方も多く、またお調べになりましたら容易に理解されるどころであります。次に袁雪芬の生涯を5つの時期に分けて、詳細に紹介してまいります。

一、袁雪芬の生涯

第1期は生誕された1922年から最初の大きな転機が訪れた1942年までです。袁雪芬は越劇の故郷であります浙江省嵊県の農村に、7人姉妹の3女として生まれました。袁雪芬の人格形成に大きな影響を与え、生涯敬愛し続けた父袁茂松は、袁雪芬に抛りますと教員をしていたそうですが、娘を当時賤業とされた俳優にせざるを得ない家計の状況を考えますと、代用教員ないし家庭教師に相当する教員であったと推察されます。しかし、当時の農村で字が読める人間というのは極少数です。周囲のほとんどが文盲であった環境下において、字が読める父を持ち、その父から読み書きを習っていたという点で、袁雪芬は演劇界に足を踏み入れてからも強い矜持を抱き続けました。そしてそれが周囲の悪習に染まらず自分を律する上で大きな作用したと考えられます。

袁雪芬は1933年11歳の年に地元の越劇一座である「四季班」に入ります。この一座の命名は袁雪芬の父がしたそうです。当時袁雪芬の周囲にいた、家計の負担を軽減するため幼くして自活せざるを得ない少女たちには、主として3つの選択肢がありました。第1は、男の子が生まれた家を買われていき男子が成人するまでは子守などをして働き、成人の後にはその男子の嫁となる「童養媳」になることです。第2は、上海の紡績工場に働きに出ることです。そして第3に俳優になることが挙げられます。袁雪芬の父は彼女が紡績工場の工員になることを望みましたが、袁雪芬は父の強い反対を押し切って俳優の道を選びました。先ほどお話ししましたように、俳優は当時賤業の一つとされていました。しかしながら、袁雪芬の故郷は越劇発祥の地でも



写真1 袁雪芬(左) 馬樟花(右)

あり、俳優になって成功したものが周囲にいて、俳優になることへの抵抗感は他の地域に比べると強くなかったのではないかと推察されます。

11歳の袁雪芬は一座の中でも年少の方でした。当時の契約で修業期間は3年です。回想の中で袁雪芬は自分の修業開始時期が早かったために、旅回り一座の女芸人が日常的に直面する金銭的性的誘惑や強要を、自ら体験することが少なかったと述べております。1936年9月に初めて大都市上海で舞台に立ち、1938年からは以後70年以上に及ぶ上海での定住が始まりました。

上海で袁雪芬と舞台上でコンビを組んだのが馬樟花(1921-1942、写真1参照)です。1歳年長の馬樟花が男役、袁雪芬が女役でした。この馬樟花が1942年に病死し、袁雪芬自身も肺病にかかり療養のため帰省します。そして帰省中に、最愛の肉親である父が亡くなりま

す。つまり同じ年に、舞台上の最愛の相手役と、最愛の肉親を失ったわけです。袁雪芬の生涯で1942年が最初の転機となるのはそのためです。病が癒えて上海に戻った袁雪芬は亡父の遺影と遺訓を部屋に掲げ、以後舞台の上で固定した相手役と組むことはなくなりました。越劇にはタカラヅカのように男役と女役の長きにわたる息の合った人気コンビが多数いてそれが魅力の1つなのですが、馬樟花に対する強い思いからなのか、袁雪芬の場合は『祥林嫂』であれば范瑞娟、『西廂記』であれば徐玉兰というように相手役を固定しませんでした。

これから映像を見て頂きます。1965年に謝晋(1923-2008)が監督した映画『舞台姐妹』の最初の場面です。この映画は姉妹の契りを交わした2人の越劇女優の、出会い・上海への進出と成功・生き方の相違による衝突と別れ・再会を描いており、越劇の歴史を知る上でも大変参考になります。このうち1人の越劇女優の物語は、袁雪芬の半生を下敷きにしています。謝晋監督も越劇の故郷浙江出身であり、冒頭の場面は袁雪芬が劇界に足を踏み入れた頃の浙江における越劇公演の様子がよく再現されております。ではご覧ください。

(映像鑑賞)

実はこの映画が放映された翌年に文化大革命が中国で起こります。袁雪芬も隔離審査されるなどの迫害を受けますが、その際に批判されたのがこの映画『舞台姐妹』でした。

では次に第2期に入ります。第2期は病氣療養を終えて上海に戻る1942年から中華人民共和国が成立する1949年までです。上海に戻った袁雪芬は劇場と交渉し、自分の一座に脚本・演出・装置・音楽などを担当するスタッフを招き入れます。そして上演演目の決定権を握り、舞台衣装や背景・化粧の改良にも力を注いで、更に楽屋へ関係者以外の立ち入り禁止を決めるなど諸改革を実行しました。この「新越劇」の看板を掲げた袁雪芬の



写真2 越劇十姐妹(1947年)、袁雪芬(前左3)

越劇公演は人気を博しました。その後、1943年11月に初演された『香妃』公演では新しい節の創出に成功し、1944年9月には一座を「雪声劇団」と命名します。そして1946年4月には代表作となる『祥林嫂』を初演し、上海の文化人からも注目を受けるようになります。

この時期になりますと越劇は上海において京劇と匹敵する規模の人気と市場を擁するようになり、袁雪芬も上海越劇界を代表する人気俳優の1人となりました。この間の越劇界の出来事として特筆すべきことに、1947年8月の合同公演があります。これは袁雪芬を含む10人の人気越劇女優が結集した空前絶後の公演で、越劇の歴史の中でも「越劇十姐妹」の合同公演として特記されています（写真2参照）。袁雪芬個人としては他に、1948年に『鶏鳴早看天』と『祥林嫂』の2本の映画に主演しています。ただし残念ながら、現在これらの映画を観ることはできません。

この時期の袁雪芬の起床から劇場公演までの様子を紹介した記事があります¹。それに拠りますと、まず起床前にベッドでシナリオを読み返します。起床の後に洗顔等身支度を整え、亡き父の遺訓を復誦します。軽い朝食を摂り終えると、ラジオを聴きながら新聞を読みます。シナリオやエッセイなどは午前中に書いてしまいます。昼食を取った後、12時前には家を出ます。まずラジオ番組に出演し、13時半には劇場に到着して14時半の開演に間に合うよう準備を始めます。このようにこの時期の袁雪芬の生活は、人気俳優の華やかな様子とは程遠い質素なものでした。実際、当時の越劇女優を含むほとんどの人気俳優は、より多くのパトロン・支援者を得るため社交に熱心でしたが、袁雪芬は興行関係者を含む社会の名士たちとの社交を、自分は仏教信徒であるため精進料理しか食さないという理由で拒絶し、質素な生活を通しました。袁雪芬のこのような芸能界の華美さに染まらずに自らを厳しく律する態度は、人民共和国成立以前から一貫しておりました。

またこの時期の袁雪芬に関し誤解されておりますのは、共産党関係者とのつながりについてです。確かに共産党地下組織に属する于伶²のような文化人と交流していましたが、袁雪芬自身が語る場所に拠れば于伶を「進歩的」な人とは認識していましたが共産党員とは知らず、1949年5月に上海が共産党統治下になる段階でも、袁雪芬には共産党や共産主義に関する知識は全くなかったそうです。共産党側が袁雪芬に注目して接触していたことは確かですが、袁雪芬の方は共産党関係者と交流していたという意識はありませんでした。

では第3期に入ります。第3期は中華人民共和国が成立する1949年から1956年までです。なぜ1956年で区切るのかにつきましては後程言及します。中華人民共和国が成立するのは1949年10月1日ですが、袁雪芬はその直前の9月に開催された全国政治協商会議に招かれて上京します。そしてそのまま同会議の全国委員会委員に任命されるのです。これは俳優が初めて国政に参与するという、中国演劇史上前例のない栄誉なことでした。袁雪芬の他に会議に招待された俳優は、梅蘭芳（1894-1961）・周信芳（1895-1975）・程硯秋（1904-1958）の3名です。彼らは何れも男性で、国劇である京劇界を代表する名優でした。つまり当時27歳の袁雪芬は、若手俳優・女優・地方劇俳優の3つの代表を兼ねて演劇界の代表者に選ばれたということになります。1940年代、袁雪芬の上海における名声は既に確立されていましたが、人民共和国成立によって彼女は全国区での存在、中国演劇界を代表する俳優へとなっていきます（写真3参照）。

中華人民共和国成立によって袁雪芬には様々な変化が生まれました。1つ目は公的に越劇界の指導者に選定されたことです。袁雪芬は1955年に成立し現在に至る、中国の越劇団として最大の陣容を誇る上海越劇院の初代院長に就任しますが、その前身である国営の華東越劇実験劇団（1950年成立）の段階で既に団長に任じられていました。そして袁雪芬は上海越劇院院長の職を1955年から1966年までと1978年から1985年までの間、務めました。つまり文化大革命期間の約10年を除き、中華人民共和国誕生から1985年まで一貫して

1 雪声劇務部編輯『雪声紀念刊—袁雪芬与新越劇』1946年、142頁。

2 于伶（1907-1997）は江蘇省出身の劇作家。1932年に共産党入党。代表作に『花濺泪』『夜上海』などがある。



写真 3 全国政治協商会議出席（1949年）、左から程硯秋・袁雪芬・梅蘭芳・周信芳

越劇界を指導する組織の長で有り続けたわけです。袁雪芬が同世代の越劇界の名優たちの中で特に神聖視されるのもこのためです。1954年には同世代の越劇女優の中で最も早く共産党に入党しました。

2つ目に海外との交流があります。京劇ではない地方劇の俳優にとって、これも中華人民共和国成立以前には考えられないことでした。袁雪芬は1950年10月から、ポーランドで開催される第2回世界平和大会とウィーンで開催される世界青年理事会

に参加する中国代表団の一員に選ばれ、東欧・ソ連各国を訪問しました。この人選には時の総理周恩来の意向が強く働いたそうです。

周恩来夫妻と袁雪芬ら越劇俳優との関係は特に親密でした。周恩来は、1954年にチェコ・スロヴァキアで開催される国際映画祭に出品する中華人民共和国初のカラー映画作品として、越劇の『梁山伯と祝英台』を選び、袁雪芬に祝英台役で出演するよう命じます。袁雪芬自身はこの映画作品の出来に大変不満で観たことがないと言っておりますが、この映画のお陰で役者として全盛期の彼女の演技と歌唱が映像に残されたわけです。更に1953年には、周恩来は訪中する北朝鮮の金日成のため、袁雪芬に越劇版『西廂記』の上演を命じます。現在袁雪芬の代表作の1つとなっている『西廂記』はこの時完成しました。このように、1950年代の袁雪芬並びに越劇の発展を語るに際し、周恩来の存在を無視することはできません。

そして1956年は袁雪芬にとり、大きな変化の生じた1年でした。まず私事として、上海を代表する3大紙の1つ『解放日報』の記者と結婚しています。袁雪芬の入院中に取材に訪れたのが馴れ初めだそうですが、袁雪芬の語る所では不幸な結婚となりました。相手の姓が「鄭」であることは明かしておりますが、配偶者について袁雪芬は、育った環境の違いによる不和と文革期の裏切りなど、悪い思い出以外あまり多くを語っておりません。この夫と袁雪芬の間には3人の子息がおりますが、袁雪芬は子供たちのために婚姻を継続させ、1990年にやっと離婚しました（写真5参照）。

1956年にはもう1つ、7月に上海市文化局が于伶から徐平羽に交代するということがありました。上海越劇院はこの上海市文化局の管轄下にあり、公演・上演演目・配役などに関しても市文化局は強い発言権を有していました。于伶は先ほどお話しましたように、1940年代から袁雪芬に協力的でありました。それに対し新しい局長は袁雪芬とそりが合わないだけでなく、袁雪芬に言わせると、袁雪芬を院長職に専従させて俳優として舞台上がることを妨害したそうです。この状況は1960年2月に文化局長が交代するまで続きました。1956年を以て区分とするのはこのためです。

第4期は1956年から文化大革命が始まる1966年までの間です。今お話したように1956年から1960年までは、私生活でも夫婦の不和、俳優としても直属の上司に邪魔されて不本意という悪い状況にありました。しかしながら、全く舞台に立つことがなくなったわけではありません。1959年は中華人民共和国成立10周年の記念の年ですが、それに合わせて袁雪芬は『秋瑾』を初演し、秋瑾を演じています。秋瑾は清朝末期に活躍した女性革命家で、しかも袁雪芬と同郷の人物です。翌1960年には、中華人民共和国成立後初めての越劇香港公演に副団長として参加しています。また1961年には、北朝鮮での越劇公演に副団長として参加

しています。そして1962年には1946年に初演され、袁雪芬の代表作である『祥林嫂』を大幅に修正し、現在上演されているものの原型を完成させました。そして越劇らしさが発揮できる時代劇の作品が上演困難となった1965年10月には、ベトナム戦争を題材に米軍と戦う女性ゲリラ部隊を描く新作『火椰村』を発表しています。そこで袁雪芬は主役でゲリラ隊を率いる竹嫂を演じています。

更に上海越劇院院長としても、1959年に女子のみであった越劇院の中に、時代の要請に応じて男女が合演する実験劇団を設けました。また1960年には養成所である上海越劇院学館を設立して、自らその主任を兼任しました。ただ何れにしましても、袁雪芬にとってこの俳優として最も脂の乗った30代半ばからの10年間は、満足できるほどの結果を残せませんでした。そしてその要因は、それが全てではありませんが、時代状況と置かれた環境にあったわけで、余計に悔しかったことでしょう。

そして最後の第5期です。第5期は文化大革命が始まった1966年から亡くなる2011年までの期間です。普通の時代区分ですと文化大革命とそれ以降は二分されますが、袁雪芬にとっては舞台上上がるのがほとんど無くなったという点で連続していると考え、このような区分にしました。

文化大革命が始まって間もない1966年4月、袁雪芬は先ほどご覧頂きました映画『舞台姐妹』に対する批判を受け、以後1973年5月までの約7年間、隔離審査の対象となり監禁されます。生後18日で離ればなれとなった三男とようやく再開を果たしたのは、彼が7歳の時でした。この間、袁雪芬の3人の息子の面倒を見てくれたのは既に高齢の袁雪芬の母親です。袁雪芬の幼年時代の思い出の中で語られます母親は、字が読めなくて娘の養育も夫任せの典型的農婦という印象しかなく、敬愛した父親と対照的な扱いでした。しかし、

この袁雪芬が最も大きな困難に直面していた期間、年老いた母親は泣き言を言わずに3人の孫を娘である袁雪芬に代わり育ててくれました。中華人民共和国成立以降、袁雪芬と母親の関係も好転したようです。

この文化大革命期には、『打倒袁雪芬』という小冊子も刊行されています(写真4参照)。ここには袁雪芬の祖父・父の代から文化大革命発生直前までの袁雪芬が犯した悪行が列挙されています。もちろんそのほとんどがでっち上げられたものですが、よく分からない袁雪芬の1930年代から1940年代の足跡も一部確認でき、興味深い資料ではあります。

1973年に家に帰るようになってからも、完全に名誉回復したわけではありません。そして1976年、袁雪芬を始めとする越劇界全体の庇護者であった周恩来が亡くなり、年内に文化大革命も終結します。この周恩来の死去は、当然袁雪芬に大きな打撃を与えました。1977年1月、周恩来の一周忌のための作品で袁雪芬は12年振りに舞台に立ちます。同年10月には『祥林嫂』も上演しました。

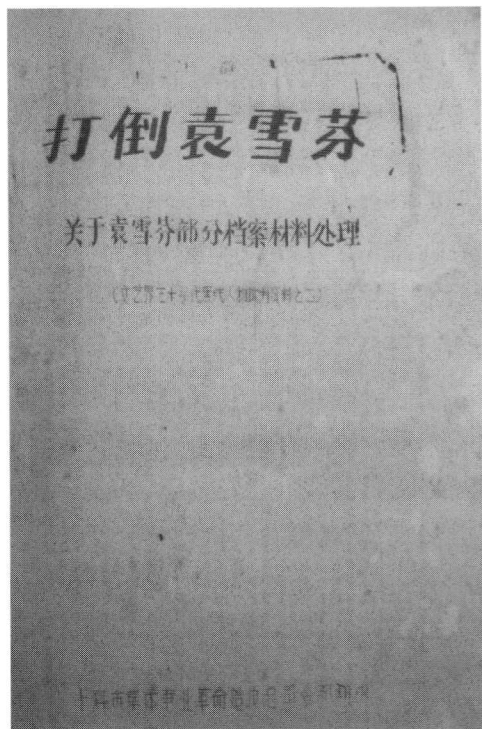


写真4 『打倒袁雪芬』(文化大革命期)

そして1978年12月、袁雪芬は上海越劇院院長に再び就任することを命じられ、完全に名誉回復を果たします。その後、

1985年に弟子筋の女優呂瑞英(1933-)に院長職を譲り、自らは名誉院長となって第一線からは身を退きました。袁雪芬に特徴的なのは、文化大革命が終結し、同世代の越劇女優たちが舞台に復帰する中で、ほとんど舞台に立たなかったことです。これに対し袁雪芬は、60代の自分が舞台に立っても納得できる演技はできないからと語っています。たとえ全盛時代は過ぎ去ったとしても、袁雪芬が舞台に立てば、観客は喜んで歓迎し

たことでしょう。しかし袁雪芬の美意識と自分に対する厳しい姿勢が、それを許しませんでした。納得のゆく演技ができないと分かっているのであれば、わざわざ舞台に立って晩節を汚したくない、という気持ちが強かったのだと推察します。これは俳優の態度として非常に立派だと思います。

1985 年以降は越劇女優としては第一線から引退しましたが、それでも後進の指導、越劇界や演劇界の式典への出席、そして上海の演劇祭における審査委員長などを、今世紀に入ってからも続けており、更にテレビの演劇番組・歴史ドキュメンタリーなどへもよく出演していました。

少し長くなりましたが以上が袁雪芬の生涯です。もちろんお話ししたのは彼女の長い人生の中のほんの一部に過ぎません。しかしそれだけでも、袁雪芬の一生が越劇の歴史とほぼ重なっていることがお分かりになるとと思います。



写真 5 3 人の御子息と

二、越劇俳優袁雪芬

では次に、袁雪芬と彼女が生涯をかけて育て上げた越劇を、20 世紀中国演劇史の中で見ていきたいと思えます。中国共産党は演劇、とりわけ地方劇を一般大衆への教化・啓蒙、政治宣伝のための道具として重視しました。越劇は自らの魅力で大衆からの絶大な人気を得たと同時に、党の教導に忠実な優等生、「党の娘」としても十分にその責務を全うしてきたと言えます。その越劇界の指導者であった 1949 年以降の袁雪芬の足跡はまさしく「党の娘」としての立場で貫かれたものでした。

しかし「党の娘」であったのは、越劇及び袁雪芬だけではありません。共産党によって「党の娘」の役割を担うこととなった地方劇とその指導者となった女優は複数存在しました。地方劇の女性指導者という存在は、中華人民共和国成立後の女性の社会進出や地位向上を国内外にアピールする点で、視覚的にも大変有効でありました。

上海を例にとりますと、滬劇の丁是娥（1923-1988）と淮劇の筱文艷（1922-）が越劇における袁雪芬と同じ役割を担いました。2 人とも袁雪芬と同世代の女優です。ただこの両人と袁雪芬が決定的に異なる点は、丁是娥には『芦蕩火種』（1960 年初演）、筱文艷には『海港的早晨』（1964 年初演）のように、滬劇と淮劇の女性指導者には、文化大革命期の「革命模範劇」として京劇に改編されるほどの革命劇の代表作と持ち役があるのに対し、袁雪芬と越劇にはそれがないことです。しかしそれでも袁雪芬と越劇は、滬劇や淮劇に比べると「党の娘」として長女的厚遇を受けてきました。では袁雪芬と越劇に父親である党が求めたのは、どのような娘だったのでしょうか。それは海外の友好国や海外からの来賓に、自分たちの文化の華やかさや独自性を披露する、言わば外に連れて歩く自慢の娘としての役割でした。そこでは革命劇よりも、着飾った時代劇の上演が求められました。そして 1980 年代に本格化した改革開放政策の結果、演劇界も市場経済体制へと移行する過程で、計画経済期に人気のあった革命劇を担った滬劇や淮劇が市場を失っていく中で、越劇が依然として人気を保ち続けた理由として、1950 年代から 1960 年代にかけて革命劇に強く染まらなかったという点が大きいと思います。

革命劇への傾倒が他の地方劇に比べ強くなかったことで、文化大革命による断絶からの回復という点で、越

劇は非常に有利でした。しかし忠実な「党の娘」であった袁雪芬にとり、革命劇の代表作を残せなかったのは遺憾なことです。既に舞台から遠ざかって久しい82歳の袁雪芬はインタビューの中で、自分が演じてきた女性について以下のような総括をしています³。

私は古代から現代までの、中国の幾つかのタイプの女性を演じてきました。『西廂記』の崔鶯鶯は伝統中国における貴婦人の典型と設定して演じてきました。ただ、崔鶯鶯自身の性格は自分と正反対であって決して好ましいとは思っていません。また、『祥林嫂』の祥林嫂は伝統中国における庶民の婦人の典型と設定して演じてきました。この2人の女性に関しては演じる度に改良を加え、ある程度納得のいく作品として残すことができたと思います。

一方、未完成のままとなった役もあります。『秋瑾』の秋瑾は辛亥革命時期の、家庭から社会へと革命の対象を広げていこうとする近代の革新的女性の典型と設定しました。また『火椰村』の竹嫂は階級闘争段階における現代の革新的女性の典型として設定しています。しかしどちらも改良を加える時間がなく、未完成のままに終わってしまいました。『火椰村』以外にも現代の革新的女性を題材にした作品を上演したことがあります、どれも成功しませんでした。これは本当に残念です。

つまり袁雪芬は、伝統中国における貴婦人と庶民のタイプの異なる2人の女性、及び近代と現代において革命に身を投じる革新的女性をそれぞれ演じることで、各時代各タイプの女性の典型を舞台上に再現し、それを後世に残す作品に仕上げようという構想を抱いていたのです。最終的にその構想は一部未完成に終わりましたが、それでも『西廂記』と『祥林嫂』の2作品が越劇の古典・代表作として現在も上演されています。また、後者の2タイプの女性を演じた作品は確かに未完成のままに終わってしまいましたが、その大部分の要因は袁雪芬の怠慢というよりもむしろ、彼女を存分に舞台に上がらせなかった政治状況にあったというのは本当に残念なことであります。

そして大変興味深いのは、袁雪芬がここで言及しています4作品の内、『西廂記』以外は何れもヒロインの見せ場が圧倒的に多く、相手役の男性の存在感がとて薄い点です。一般的に越劇を鑑賞する際には、ペアを組む男性役と女性役の息の合った掛け合いが楽しみの1つです。袁雪芬と同世代の越劇俳優には何組も人気ペアがいるのですが、袁雪芬は最初のパートナーであった馬樟花を失って後、特定の相手役を求めませんでした。そして実生活においてもパートナーである夫とは不仲で、最終的に離婚します。つまり、袁雪芬は父親を敬愛し、父亡き後には周恩来を父のように慕うなど、男性の父性的要素は必要としましたが、男性のパートナーとしての要素には舞台上でも実生活でもあまり期待しなかったのではと考えます。

次に袁雪芬の後継者に対する姿勢について触れたいと思います。袁雪芬の創始した流派「袁派」ですが、伝承者は意外に少なく、直弟子と言えるのは上海越劇院の方亜芬（1965-）などごく少数です。しかしだからと言って、袁雪芬があまり後継者の育成に熱心ではなかったのかというと決してそうではありません。実は、袁雪芬より少し年少の、袁雪芬から上海越劇院院長を引き継いだ呂瑞英を始めとする、張雲霞（1926-2004）・戚雅仙（1928-2003）・金采鳳（1930-）ら越劇女優は何れも袁派の影響を受け、袁派から学んで自らの流派を創始していきました。つまり袁雪芬は常に創造的であることを自分に課したように、後続の俳優たちにも創造的であることを課したのです。そこで袁派から多数の流派が派生して誕生していきました。袁雪芬は後続のものたちに、師である自分を模倣して演目を引き継ぐことよりも、後世まで残るような新しい節と演目・役を

3 DVD『劇壇瑰宝 芸術家訪談 袁雪芬 越劇』上海市文化広播影視管理局・上海文化広播影視集団・新滙集團上海声像出版社。

創造することを求めました。このような後継者養成方法は越劇界の中でも特異でありまして、絶えざる創造を追求した袁雪芬の特徴を表しています。

これからお話しすることはあくまで、これまで上海で越劇を観劇してきて感じた私個人の考えです。越劇が各世代の女性に特に人気を集めているのには、越劇の華やかさや美しさもありますが、舞台上の越劇女優たちが演技を通じて女優個人の人生を浮かび上がらせ、それに同世代の女性の観客たちが自分の人生と照らし合わせて共感する度合いが強いらなのではないか、と感じています。そうしますと、袁雪芬の人生は自分で自分の人生を切り開き、しかも異性のパートナーを拒むという点で同世代の女性の中でもかなり新しいものであったことでしょう。そして観客は、袁雪芬の自らの道を切り開いてきた人生に憧れ、時に共感しながら舞台上の袁雪芬を観ていたのではないのでしょうか。

最後に個人的なことを話します。実は私は 1 度ですが、袁雪芬にお目にかかったことがあります。その際のエピソードを紹介したいと思います。2002 年 8 月に袁雪芬の自伝が出版されました。2002 年 11 月に上海を訪れた際、私は上海越劇院内に入れるよい口実ができたこと、その自伝を購入するために上海越劇院へ出向きました。そこでたまたま声をかけて下さいました演出家の計らいで、会議のため来院していた、当時 80 歳の袁雪芬を紹介してもらったのです。会議中にもかかわらず、袁雪芬は購入した書籍にサインをしてくれまして、更にこれを私に進呈したいからと書籍代金を財布から出して私に返金してくれたのです。それから数分、わざわざ時間を割いて日本を訪問された時の話や、1949 年に全国政治協商会議に出席した時の話などをしてくれました。これは決して皆様に自慢するために披露したわけではありません。袁雪芬の人間としての器量の大きさや優しさ分かるエピソードだからです。袁雪芬は人から「あなたの姓は袁だから人間は決して円（円満）ではない」と言われていまし、確かに常に厳しい表情の印象が強いのですが、私の眼には円満で慈愛に満ちた芸術家と映りました。

以上でお話を終わりに致します。ご静聴ありがとうございます。

【質疑応答】

Q：越劇の流派とはどのような概念ですか？

A：独自の節回しと演目があることです。

Q：袁雪芬が創作した新作はどのくらいありましたか？

A：数えたことはありませんが、例えば『雪声紀念刊—袁雪芬与新越劇』には 63 の演目が挙がっています。これら全てが新作というわけではなく、改編なども含まれます。また自伝『求索人生芸術的真諦 袁雪芬自述』に付せられた上演演目一覧表には新作を含め 350 以上の演目が列挙されています。

【参考文献】

雪声劇務部編輯『雪声紀念刊—袁雪芬与新越劇』1946 年。

章力揮・高義龍『袁雪芬の芸術道路』上海文芸出版社、1984 年

盧時俊・高義龍主編『上海越劇志』中国戲劇出版社、1997 年

袁雪芬『求索人生芸術的真諦 袁雪芬自述』上海辞書出版社、2002 年

上海越劇芸術中心・上海越劇院芸術研究室主編『袁雪芬文集』中国戲劇出版社、2003 年

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、
伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

【映像資料】

『劇壇瑰宝 芸術家訪談 袁雪芬 越劇』

上海市文化広播影視管理局・上海文化広播影視集団・新滙集団上海声像出版社

『梁祝』 衣裳展示





*越劇舞台衣裳及び舞台用靴の収集については、杭州在住の越劇演出家である楊小青氏の全面的協力を得ました。ここに感謝の意を表します。

第5回 越劇友の会

2012年4月22日(日) 14:00- 14:2A

「紅樓夢」を見る

【感想カード】

M.I.

賈宝玉の女像がうまかった。歌唱力が素晴らしい上に、前半のファニーフェイスでの痴郎振りの演技から、ラストの変貌ぶりはすごい迫力でした。林黛玉の異様に長い演出も、ラブ・ストーリーと結婚問題を浮き上がらせて、案外よかった。

T.Y.

林黛玉は大観園での生活で、賈宝玉とつきあったり、他の家族の中で孤立しながらも自分の意思を持った、独立した女性として描かれているのだと思う。特に賈宝玉の結婚で、ひとり嘆き悲しんでいる『唱』の部分は、目線も鋭く、自分の強い気持ちを表現しているのが印象的であった。

O.A.

美しいものを見ることは、良いですね。

Z.Y.

又看了一遍《红楼梦》，感动还是一次又一次。
林姑娘死了。宝玉来吃了。但是宝玉被骗了。

G.Y.

1962年の电影作品《红楼梦》(越剧)
电影很真实地表现人的情感，非常好的发挥了中国戏曲一唱三叹的抒情特点。
今天看起来，几十年前的舞台纪录的水平很不错。
人物鲜明，情节紧凑，矛盾突出。特别对于婚姻的褒义留下了深刻的印象。

資料：「紅樓夢」

1 越劇について

「演劇は時代を反映する」

京劇

- ・男性主人公が作品の演目が多い。『三国志』『水滸伝』など歴史上の英雄。
- ・20年代から女性が劇場へ。女性観客増加。女性登場人物の多様化。

越劇

- ・1900年初浙江省の農村。半農半芸の男性。
- ・1910年代上海へ。田舎の演劇から都会の演劇へ
- ・1920年代、故郷で女優の養成。
- ・1930年代、日中戦争。上海は「孤島」。租界に観客の増加。マスコミ事情。
→女子越劇の大ブレイク。男性から女性へ
- ・1940年代、袁雪芬の越劇改革。「話劇を父に、昆劇を母に」
- ・直接共産党の指導を受けて劇種形成。
- ・1950年代の名作『紅樓夢』

2 小説「紅樓夢」について

清代の長編小説。原名は「石頭記」。「金玉縁」とも。「三国志」、「水滸伝」、「西遊記」とともに「中国四大名著」。

全 120 回：大貴族賈家の貴公子賈宝玉と従妹林黛玉との愛情物語を主軸に、大貴族の華やかな生活に潜む腐敗をえぐる。金陵十二釵。一世を風靡し、「紅学」「紅迷」の出現。

前 80 回（曹雪芹の作）：栄華を誇る賈家に不幸な事件が続き、傾くまで。

後 40 回（高鶚^{コウガク}の作）：愛する林黛玉と結ばれず、薛宝釵と結婚してしまった賈宝玉が無常を感じて出家、出奔するまで。

おもな登場人物

賈宝玉：宝玉を口にくわえて生まれてきた。誰にでも愛され、女性に優しい、祖母の溺愛で世間知らず、無能な男。勉強嫌い。意淫の人。「女は水でできた体、男は泥でできた体だ」（第 2 回）。美を愛する

林黛玉：孤児、聡明すぎて舌鋒鋭い、敬遠されがち、やせ形、多病

薛宝釵：おとなしくしとやか、才気を出さない良妻賢母、豊満健康、年長者に愛される

王熙鳳：賈宝玉の兄嫁、家事一切を切りまわす、マネージメント能力高い、勝気、現実的

賈母：宝玉の祖母、賈家のグレートマザー

賈政：宝玉の父、きちんとした大人の男性。宝玉がふがいなく、腹立たしい

王夫人：宝玉の母

- ④ 明石大蔵町を中心とした地元との共同作業による町の文化資源の再発見と活用、および未来への継承

「明石大蔵町を中心とした地元との共同作業による町の文化資源の 再発見と活用、および未来への継承」

2011 年度報告

担当：寺嶋秀明、五十嵐真子、矢嶋 巖

本事業では明石市大蔵町を中心とした地域において、教員・学生が地域の方々や町内会・神社の氏子組織・研究サークルなどのグループとの協働作業をとおして、これからの大学の役割や地域と共同での学生の育成の実践研究を目的としている。今年度は地域社会との関係づくりや学生による調査研究の地域への還元特に注目し、活動を行った。内容は以下のとおりである。

① 明石大蔵町の文化資源の再発見

2011 年 10 月 16 日

矢嶋・桑島ゼミが合同で大蔵地区のフィールドワークを行なった。稲爪神社秋例大祭開催地域における日常生活状況を撮影記録し、例大祭実行関係者や地域住民への聞き取りを実施した。

11 月 6 日

明石市大蔵八幡町に位置する日本酒蔵元の明石酒類醸造株式会社に関して、学生（矢嶋ゼミ）による聞き取り調査をおこない、映像記録を実施した。これまで江井ヶ島方面の酒蔵の調査はおこなわれてきたが、大蔵町界隈の酒蔵についてはこれが初めての調査となる。一般に、酒蔵はその地域の文化センター的役割を果たしてきており、今後の調査の成果が期待される。

11 月 20 日

明石かいきょう塾が明石市大蔵町周辺で実施した歴史発見イベント「第 11 回明石かいきょう塾 明石の歴史を学ぶ—その 3」に矢嶋ゼミ 1 回生 12 名が調査補助として参加し、イベントの開催状況を調査、映像として記録するとともに、参加者や運営者にイベントの実施状況についての聞き取り調査を行なった。

2012 年 1 月 18 日

矢嶋ゼミと桑島ゼミと協働して大蔵地区での学生による研究成果（映像作品）を報告書として発行するための、データのとりまとめを行った。

この調査による成果は別冊 1『大蔵谷なう。』として刊行した。

② 明石大蔵町の伝統行事での研究と協働

2002 年より継続して行ってきた、明石市大蔵本町の稲爪神社の秋祭り調査を今年度も引き続き行った。2011 年は 10 月 8・9 日の 2 日間の日程で挙行された。9 月に神社側との打ち合わせを行い、今年度の行事内容、タイムテーブルを確認し、学生の参加と連携の方向性について討議を行った。

10月8・9日

両日にわたって、明石市大蔵町界隈（大蔵天神町、大蔵本町、大蔵中町、大蔵町）において、稲爪神社秋例大祭が執り行われ、学生ともどもフィールドワークを実施した。参加した学生は、寺嶋ゼミ（1回生、2回生）、早木ゼミ（2回生）、五十嵐ゼミ（1回生、2回生）、矢嶋ゼミ（1回生）、総数60名近くにのぼった。各種の伝統演芸（早口流し、大蔵谷獅子舞）、神事（牛乗り神事、神幸行列）、イベント・出し物（子ども御輿、婦人会踊り）などの観察と関係者へのインタビュー、写真・ビデオによる記録映像の撮影をおこなった。また、運営関係者からの要請により、地域住民との協働の一環として、パレード実施状況について学生による観察報告をおこなうとともに、その映像記録を提出した。今後、学生が撮影した祭りの写真展を現地で開催する予定。

またこの間、稲爪神社を中心とした大蔵4町（大蔵天神町・大蔵本町・大蔵中町・大蔵町）の活性化について、地元の有志と意見交換をおこない、それぞれの立場からの協力について合意した。

2011年11月16日

10月に調査を行った稲爪神社秋祭り和大蔵地域での成果発表を写真展という形式で行うことについて、稲爪神社にて、菅谷宮司と五十嵐・矢嶋が打ち合わせを行った。会場として稲爪神社境内とすることを協議した。開催期間はなるべく多くの方々に観覧してもらうために、多くの参拝者を見込める12月末から1月の初恵比寿までの期間とした。特に三が日は拝殿前に行列ができるほどの人出があるので、その参道にパネルを設置し、そこに展示することとした。必要な資材等について菅谷宮司からアドバイスを受けた。

12月3日

稲爪神社にて、菅谷宮司、パネル枠を製作される板村氏と五十嵐が打ち合わせをし、パネルの設置場所、寸法、材料についての詳細を確認した。

また、当日は正月用のしめ縄づくりの準備が行われていたため、それを見学した。

12月6日

五十嵐、矢嶋、PD倉田でホームセンターダイキにて展示用資材を購入した。

12月27日

稲爪神社にて、写真展「大蔵谷なう」展示作業を行った。

寺嶋、五十嵐、矢嶋、桑島、PD倉田他学生9名が10時に神社に集合し、展示パネルの作成を社務所でおこない、その後屋外の展示用木枠へ固定し、13時に作業を終了した。

2012年1月13日

写真展撤収作業を11時より五十嵐・矢嶋・PD倉田で行った。菅谷宮司と次年度以降も同様な連携作業を行うことを確認した。12時に終了。

1月19日

秋祭り報告書の入稿した。

今年度の調査内容については、別冊2『2011年度稲爪神社秋祭り調査報告書』として刊行した。

1. 各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

③調査成果の地域への公開

- ・年末から年始にかけて稲爪神社境内にて写真展を実施した。



- ・2冊の報告書『大蔵谷なう。』『2011年度稲爪神社秋祭り報告書』を刊行した。



文化科学研究部地域研究センター主催
『大蔵谷なう。』『2011年度稲爪神社秋祭り報告書』

2011年度稲爪神社秋祭り 調査報告書



稲爪神社大学 地域研究センター 2012年2月発行

2. 文化生活的拠点づくり、 町づくり再発見チームの立ち上げ

- ① アートによる地域活性化と
魅力創造の実践的研究

「アートによる地域活性化と魅力創造の実践的研究」

地域のアートを題材としたアートマネジメントの実践的研究

(淡路島アートプロジェクト) 2011 年度報告

桑島紳二

1. はじめに

1998年に明石海峡大橋が開通したことによって、淡路島への交通の便が飛躍的に良くなった。そして近年は、山や海といった自然に囲まれ、また都会にも近く、良好な生活環境という淡路島の魅力にひかれ、現在、多くのアーティストたちが淡路島で活動している。本研究では、「地域の芸術を題材とした持続可能なアートイベント」を行うためのアートマネジメントの方法について淡路島を対象として研究していく。2011年度は各地で開催されているアートイベントについて調査する一方、研究講演会やワークショップを開催し、運営ノウハウを蓄積した。

2. 活動概要

a. 各地で実施されたアートイベントの調査

アートイベントは、10月に集中しており、主に兵庫県内のアートイベントを調査した。現地調査では期間中にそれぞれのアートイベントに赴き、パンフレットなどの資料を収集し、展示された作品やその周辺を撮影し記録した。

b. イベントの開催

ワークショップや研究講演会を実施した。ワークショップでは、実施するにあたって、「どのような制作を行うか」、「必要な準備」、「どのように行えば参加者が楽しめるか」など、実践を通じて学んだ。一方では、なぜワークショップを行うのか、そもそもワークショップとはどういうものかなどについて、発表を行った。

研究講演会では、主にアートとは何か、とくに捉え難い現代アートについて、淡路島のアート事情などの内容で実施した。

最後に、それぞれで得た情報を別冊3の報告書『淡路島のアーティストに聞く。』にまとめ、1月18日(水)に全体での報告会を開いた。主に現地調査に行ったアートイベントの概要と改善点、参考点などをそれぞれ挙げ、まとめた。報告会を開き、淡路島でアートイベントを行う準備として、知識や情報をまとめ、共有した。

3-a. 各地で実施されたアートイベントの調査

(1) 「歌とピクニック in Tanba」 丹波市 10月8、7日（土、日）



会場は他のアートイベントと比べて自然の多い田舎だった。コンセプトは、何も無い田舎をひとつの資源と考え、新しい豊かさとして再認識し、アートとともに丹波の魅力を発掘発信し、交流しようというものである。作品には自然をそのまま利用しており、地元の野菜を使った郷土料理の店など、丹波の魅力を活かす工夫が見られた。

(2) 「神戸ビエンナーレ」 神戸市 10月1日（土）－11月23日（水・祝）



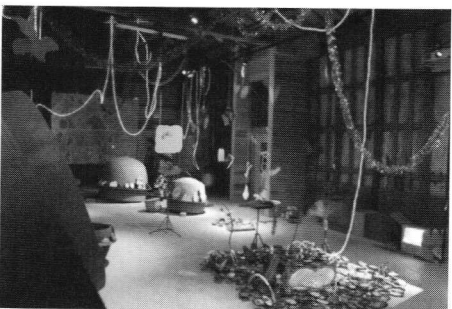
国内外からアーティストを呼び、4つの会場で作品やイベントなどが用意された。阪神・淡路大震災を経験し、また海外交易などからの独特の文化発展を果たした神戸にて、アートを通じてさらなる文化発展・交流を目指し、神戸の魅力を発信しようという目的だ。作品は、国内外の新進気鋭のアーティストたちによる展示場所の環境や素材を活かしたさまざまなジャンルで展開された。

(3) 「AMA 展－Art Meets Amagasaki」 尼崎市 11月12日（土）－11月23日（水・祝）



尼崎には多くの歴史的建造物が多く、会場となる旧尼崎警察署もその一つである。AMA 展では「廃墟からの再生」をテーマに、歴史ある廃墟を若手アーティストたちによって新たなものへ変換し、そこから「あま」の活性化につなげるという狙いだ。廃墟という重苦しさのある環境をうまく活かした展示となっていた。

(4) 「龍野アートプロジェクト」 龍野市 11月18日（金）－11月26日（土）



文化庁推進の「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の一環として行われた。龍野がもつ文化遺産と現代アートの魅力を兼ね備えたアートイベントとなった。展示場所には古い醤油蔵などを用い、不思議な空間が作られていた。また、アーティストによるトークがあり、作品に対しての解説や制作時の苦悩などを聞くことができた。

(5) 「中之島コレクション展、世界制作の方法展、アンリ・サラ展」大阪市 国立国際美術館

10月4日(水) - 12月11日(土)



「世界制作の方法」では個性的なアーティストたちがそれぞれ異なる世界観を表現していた。作品には身近な素材が使われ、期間中に作品が変化成長するなど、全体的にいかにも現代アートという内容だった。「アンリ・サラ展」では、映像作品を中心にオブジェと写真群という構成となっており、作品をひとつひとつ見るのではなく、空間全体でサウンドとイメージに向き合える仕組みとなっていた。

3-b. イベントの開催

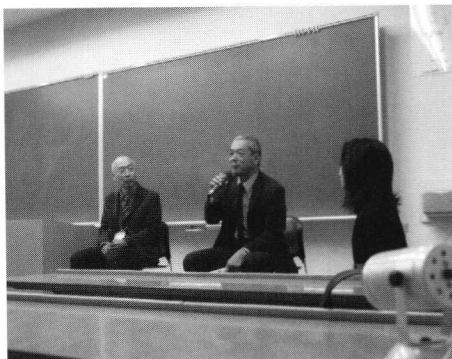
(1) 「淡路島のアートについて (やまぐちくにこ氏)」有瀬キャンパス 11月5日(土)



NPO 法人淡路島アートセンターの設立者であり理事を務めるやまぐちくにこさんから、NPO 法人淡路島アートセンターや淡路島のアーティストたちがどのような活動をおこなっているのかなど語っていただいた。

(参加者 12 名)

(2) 「現代アートの楽しみ方 (岸野裕人)、映画『Herb & Dorothy』上映会」有瀬キャンパス 11月17日(木)



映画上映後、倉敷市立美術館元館長である岸野裕人氏に現代アートについて語っていただいた。氏によれば、作者の意図や作品の意味などとは関係なく、作品を見たときに心に訴えかけるものが現代アートにおいて重要だということであった。鑑賞者がどのように感じ、思ったのかということが最も基本となるということであり、今後の活動において非常に有益な講演会となった。

(参加者 20 名)

(3) 「黑板ワークショップ (遠藤幹子)」 淡路島美術大学 11月23日 (水・祝)



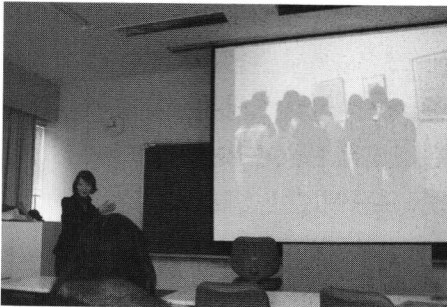
淡路島美術大学にて、一級建築士の遠藤幹子氏によるワークショップを実施した。みんなで作る楽しさ、そしてその場がみんなのものになるということがワークショップの意義であり、ワークショップを行うことで、自ら制作し、アートを知ること自然と接し方も変わると氏は語った。(参加者 25 名)

(4) 「ミニ気球を作ろう (岡本純一)」 神戸学院大学 12月4日 (日)



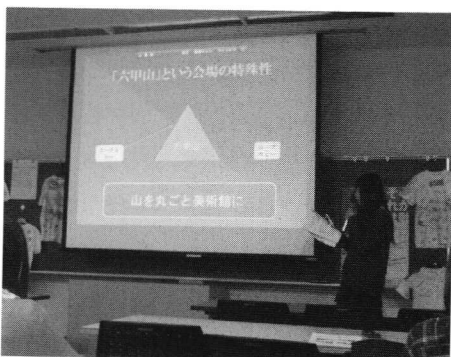
現代美術家である岡本純一氏を招き、近隣の子どもたちとともにワークショップを行った。参加者全員でひとつのものを手掛けたことでコミュニケーションが生まれ、またアートというものは決して高尚なだけではなく、みんなで作る楽しみや達成感などを得ることができるという、アートの原点のようなものを実感することができた。(参加者 45 名)

(5) 「ワークショップの理論と実践 (藤吉裕子、中村潤)」 神戸学院大学 12月17日 (土)



まず、国立国際美術館研究員の藤吉裕子氏によるワークショップの理論についての研究講演を行なった。次に、現代美術家の中村潤氏による偶然性をテーマとしたワークショップを実施した。(参加者 15 名)

「報告会」 神戸学院大学 1月18日 (水)



昨年の調査・研究の総括として、全体の報告会を開いた。各アートイベントと研究講演会について、まとめた情報を共有し、それぞれの改善点、参考点、研究成果、ポイントなどを報告した。(参加者 19 名)

② 地域における体力づくりと生涯にわたる
健康学習に関する研究

「地域における体力づくりと生涯にわたる健康学習に関する研究」 2011 年度報告

今西幸蔵、水谷 勇

本研究の2年目にあたる平成23年度の本チームの活動内容と研究成果についての報告をする。

健康に関わる問題は家庭教育だけでなく、学校教育にも深い関係があり、また成人も含めた問題として取り上げられなければならない、家庭はもちろんのこと、学校や地域社会においても健康や環境の問題を取り上げ、地域における体力づくりと生涯にわたる健康学習のシステムを構築しようとするのが本研究の趣旨と目的である。

こうした目的に沿って、平成23年度においては次の4項目の活動方針を設けた。

1. 健康学習に関わる資料の収集
2. 研究チームの編成
3. 健康と学習に関わる調査のための用紙の作成
4. 調査研究フォーラムの実施

上記の4項目についての研究活動の内容と成果について、以下に記すことにする。

1. 健康学習に関わる資料の収集

健康学習についての先行研究としては、国立教育政策研究所が実施した研究がある。

同研究所においては、以下に示すような内容の研究が実施された。(1) 国民の体力低下の要因分析と健康教育に関する体系的な研究のプレビュー、(2) 生涯にわたる健康教育と子どもの体力向上に関する実証的研究、(3) 実践的な健康教育プログラムの研究である。

本研究を進めるに当たって、平成22年度末に同研究所が成果報告書として刊行した『健康教育への招待』(国立教育政策研究所、平成20年)を本研究予算で購入し、関係するメンバーに配布した。ここでは特にアンケート調査の結果に着目し、この資料の分析にあった。また4で示すことになるが、平成23年3月には同研究所の研究チーム代表である立田慶裕統括研究員からの報告と示唆を得る機会を設定し、報告書の内容の理解を深めた。

また平成23年7月28日と28日の両日に渡って、本大学の人文学部院生(博士課程1名、修士課程1名の2名)を引率し、国立教育政策研究所(千代田区)と国立社会教育実践研究センター(通称;国社研、台東区)を訪問し、関係資料の収集に努めた。この調査時においては、国立教育政策研究所統括研究員の立田慶裕氏と国社研の文部科学省職員の鳥越留美子氏のお世話になり、多くの情報を提供していただいた。

一方、予定していた福岡県立社会教育総合センターにおける文献調査及び福岡県糟屋郡久山町における現地調査が時間と予算のために実施できなかった。久山町については「献体率100%のまち」として全国的に知られている自治体であり、現在も九州大学医学部をはじめとする関係医療機関が同町民の健康についての調査研究を実施しており、さまざまな知見を提供しているため、本研究の遂行にあたって是非とも調査研究を希望する自治体である。

次の2でも関連事項として説明するが、明石・有瀬地域の学校園の健康教育推進組織の一つである神戸市立有瀬小学校での健康教育の実践報告を受けることになったが、同小学校では「ありせ健康会議(学校保健委

員会)」が中心となってさまざまな健康学習・教育の活動をしていることを知った。毎年テーマを決めて研究発表会を開催しており、平成 23 年度においては「バランス バッチリ! もぐもぐ もりもり」をテーマとして、平成 24 年 1 月 27 日に「第 29 回 ありせ健康会議」が開催されている。あいにく当日は大学での授業のために欠席したが、提供された資料によると、①保健委員会の取り組みの発表、②給食委員会の取り組みの発表、③各学年（5 年生、4 年生、6 年生の順に）の取り組みの発表、④意見交換などのプログラムが実施されている。保健委員会が作成した「クイズラリー」などの遊びも交えた学習活動に注目した。身近な学習教材として有効な資料として生かせると思うのである。

以上のような活動によって資料収集を行い、本研究に関わる基礎的な知識理解に努めた。

2. 研究チームの編成

平成 23 年度においては研究チームづくりが時期尚早だという判断から、本研究を遂行していく上でのキーとなる地域住民や学校との関係づくりに取り組んだ。大学周辺の地域住民（小学生、中学生、高校生や成人）を対象とした健康教育と体力向上に関する実証的研究を予定しているためであり、近隣の小学校、中学校及び高等学校との連携・協力を必要とするための働きかけを行った。

明石及び有瀬地区の学校園には、子どもたちや保護者の健康を考えようとする機運が高いことは予想以上であったが、本研究活動の推進に有利な客観情勢があることを知った。つまり大学周辺にある神戸市立有瀬小学校、同市立伊川谷小学校、同市立長坂小学校、同市立長坂中学校、同市立伊川谷中学校の 5 校で健康教育推進組織が構成されていることであり、この組織との連携を希望するとともに、研究チームのメンバーとしてお願いすることを希望するようになった。さらに同組織と兵庫県立伊川谷高等学校との連携が模索されているということも知った。

こうした地域の事情から、研究チームの発足（平成 24 年 10 月予定）にあたっては上記 5 校と伊川谷高等学校の関係教員、加えて認定産業医・健康スポーツ医、本校教員 3 名）の計 10 名からなるメンバーで臨むことにした。

3. 健康と学習に関わる調査のための用紙の作成

平成 23 年度は健康学習に関わる調査用紙の原案の作成と内容の検討を行った。

- ①実施対象 小学生 200 人、中学生 100 人、高等学校生 100 人及び各校種の保護者 300 人
- ②実施年月 平成 24 年 8 月～ 10 月
- ③調査項目 行動面：健康（日常生活習慣、就寝と起床、食事）運動（運動時間、運動内容）、
内 面：学校生活満足度、自立性、自己意識、健康意識、運動意識
- ④調査方法 各校における留め置き法

次ページ以降の資料が調査用紙（案）である。平成 24 年度には本調査用紙を用いた調査を実施し、集計することになる。さらに本学人文学部学生の意見を取り入れた調査も同時に行う。学生主体の調査は、心と体の健康の実現は「遊び」と「生活改善」からという視点で作成され、学生の体験的な健康観から設問が作られることが期待されている。

子どもの体力向上に関する生活実態調査
子ども用調査票

学校名 ()
()年 ()組 ()番 男・女
氏名 ()

問1 いっしょに住んでいる家族すべてに○をつけてください。(兄弟姉妹は、その人数を書いてください)

- 1 お父さん 2 お母さん 3 おじいさん 4 おばあさん
5 お兄さん ()人 6 お姉さん ()人 7 弟 ()人
8 妹 ()人 9 その他の家族

問2 十分な時間たつぷりと、体を動かす遊びや運動・スポーツをすることが、できていますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 できている 2 ややできている 3 どちらともいえない
4 あまりできていない 5 まったくできていない

問3 体を動かす遊びや運動・スポーツをしたい所で、のびのびと体を動かす遊びや運動・スポーツをすることが、できていますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 できている 2 ややできている 3 どちらともいえない
4 あまりできていない 5 まったくできていない

問4 いっしょに体を動かす遊びや運動・スポーツをしたいと思った人と、なかよく体を動かす遊びや運動・スポーツをすることが、できていますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 ある 2 ない

→ 「1 ある」と答えた人は、何回くらいあったか () 中に回数を書いてください。 () 回

問5 この1年間の間に、地域で行われた運動・スポーツの行事・イベントに参加したことがありますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。*学校の行事はのぞきます。

- 1 ある 2 ない

→ 「1 ある」と答えた人は、何回くらいあったか () 中に回数を書いてください。 () 回

問7 この1年間の間に、家族や友だちと、海、山、川、湖、池、森などで体を動かす遊びや運動・スポーツをしたことがありますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 ある 2 ない

→ 「1 ある」と答えた人は、何回くらいあったか () 中に回数を書いてください。 () 回

問 8 次のようなことは、どのように感じていますか。

	かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない
1) いろいろなことを進んで学びたい	5	4	3	2	1
2) いろいろなことに興味を持って勉強したい	5	4	3	2	1
3) 自分がやりたいと思うので学習し、活動する	5	4	3	2	1
4) 自分から学び、活動する気になる	5	4	3	2	1
5) 難しい課題でも、やれるところまではやってみる	5	4	3	2	1
6) 困難な課題でも、解決の方法を自分で探す	5	4	3	2	1
7) 知りたいことが分かるので学習する	5	4	3	2	1
8) 楽しいので学習や活動に取り組んでいる	5	4	3	2	1
9) ハードな動きをする課題が好きだ	5	4	3	2	1
10) できるとうれしいので、難しい課題が好きだ	5	4	3	2	1

問 9 次のようなことは、どのように感じていますか。

	かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない
1) もっと、運動・スポーツをしたい	5	4	3	2	1
2) もっと、運動・スポーツを見たい	5	4	3	2	1
3) もっと、運動・スポーツを応援したい	5	4	3	2	1
4) もっと、体力をつけたい	5	4	3	2	1
5) もっと、上手になりたい	5	4	3	2	1
6) もっと、楽しんでやりたい	5	4	3	2	1
7) もっと、屋外で遊びたい	5	4	3	2	1
8) もっと、屋内で遊びたい	5	4	3	2	1

問 10 次のようなことは、どのように感じていますか。

	かなり そう思う	そう思う	やや そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない
1) おとなになったらなりたいものがある	5	4	3	2	1
2) 「やればできる」と思う	5	4	3	2	1
3) わたしはなにをやってもうまくいかない	5	4	3	2	1
4) わたしはみんなとなかよくできない	5	4	3	2	1
5) 急におこったり、泣いたり、うれしくなったりする	5	4	3	2	1
6) わたしはおこりっぽい	5	4	3	2	1
7) よくあたまがいたくなる	5	4	3	2	1

4. 調査研究フォーラムの実施

前述したように、本研究の先行研究である国立教育政策研究所の研究成果を研究チームが共通認識する必要があることから、平成24年3月27日に神戸市垂水区のシーサイドホテル舞子ビラにて研究フォーラムを開催し、大学周辺の学校園の教員など10名が参加した。

この研究フォーラムでは、国立教育政策研究所統括研究員の立田慶裕氏をお招きし講義をいただいた。地域健康学習の意義と役割についての理解が進展したように思われる。

以上でもって平成23年度の研究成果の報告としたい。

平成 23 年度研究成果報告書〈地域研究センター明石グループ〉

平成 24 年 12 月 26 日発行

編集者 神戸学院大学地域研究センター明石グループ

発行 神戸学院大学地域研究センター

〒 651-2180

神戸市西区伊川谷町有瀬 518

TEL (078) 974-1551

印刷 水山産業株式会社

本報告書は文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「地域力再発見をめざす大学と地域との連携・協働による実践的研究」(研究代表者・伊藤 茂)による調査研究に基づいたものである。

平成23～25年度 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「地域力再発見をめざす大学と地域との連携・協働による実践的研究」

2012年12月発行

神戸学院大学地域研究センター

明石グループ／有瀬グループ／地域研究長田センター